

令和元年度

教育に関する事務の管理および執行の状況の  
点検および評価等の報告書(平成 30 年度実績)

令和元年12月

米 原 市 教 育 委 員 会

## 目 次

1. 点検および評価制度の概要	
(1) 背景	1
(2) 目的	1
(3) 対象事業の考え方	1
(4) 評価の方法	1
(5) 学識経験者の知見の活用	2
2. 教育委員会の活動状況	
(1) 教育委員	3
(2) 教育委員会の活動状況	3
(ア) 教育委員会議の開催および議決状況	3
(イ) 総合教育会議	3
(ウ) その他の活動状況	4
(エ) 委員の就任状況	4
3. 学識経験者による意見	
(1) 趣旨	5
(2) 学識経験者	5
(3) 米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会	5
(4) 学識経験者による意見	7
4. 事務の管理および執行状況の点検・評価	
(1) 施策の体系と事務事業一覧	11
(2) 点検および評価等の結果	13
対象事業の評価一覧	14
各事業の点検および評価等	
教育総務課所管事業	16
学校給食課所管事業	24
学校教育課所管事業	27
生涯学習課所管事業	35
図書館所管事業	49
歴史文化財保護課所管事業	51
子育て支援課所管事業	54
保育幼稚園課所管事業	56

対象事業の評価の視点	57
(3) 学校等評価	
幼稚園等外部評価	61
小・中学校外部評価	69
図書館内部評価	76
(4) 米原市教育振興基本計画（目標指標）	79

## 1 点検および評価制度の概要

### (1) 背景

平成 18 年 12 月の教育基本法の改正および平成 19 年 3 月の中央教育審議会の答申を踏まえ、平成 19 年 6 月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）が改正され、平成 20 年 4 月に施行されました。

この地教行法の改正目的である、「教育委員会の責任体制の明確化」の一つとして、教育委員会が毎年、その権限に属する事務の管理および執行の状況について点検および評価（以下「点検および評価」という。）を行い、その結果を公表することが義務付けられました。

### (2) 目的

教育委員会は、首長から独立した中立的・専門的な立場で、学校教育、生涯学習をはじめ文化、スポーツなど幅広い分野に関する施策を展開する合議制による行政機関として設置されています。点検および評価等は、教育委員会が教育行政の事務の執行状況を点検および評価し、市民への説明責任を果たすことにより、市民の意向を踏まえながら、効果的・計画的な教育行政の推進に資することを目的とするものです。

なお、点検および評価の方法、議会への報告の方法などは、教育委員会が実情を踏まえて決定することとされています。

### (3) 対象事業の考え方

本年度の点検および評価の対象は、平成 30 年度の事業実績を対象とし、その対象範囲は、地教行法第 21 条に基づく「教育委員会の職務権限」として規定されている事務をはじめ、市長の補助執行として行っている事務を含む全ての事務が対象となります。

事業のまとめ方については、「米原市総合計画」の体系に基づく分類によりまとめることとしました。

### (4) 評価の方法

評価の方法については、個々の事務事業について評価の目安となる成果指標が定まっていますが、評価について地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 233 条第 5 項の規定に基づく、平成 30 年度における主要施策の成果説明書（以下「主要施策の成果説明書」という。）の主要な施策の実績の事業分類により、教育委員会で自己点検および評価を行いました。また、平成 29 年 3 月に策定した「第 2 期米原市教育振興基本計画」における目標値に対する現状値も表記しています。

(5) 学識経験者の知見の活用

「教育に関する事務の管理および執行の状況の点検および評価等の報告書」の素案をもとに、学識経験者と教育委員との懇話会を開催し、本市教育委員会の主な取組や課題について、様々な観点から議論しました。

『参考』

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」【抜粋】

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 教育委員会の活動状況

### (1) 教育委員（委員定数：5人 任期：4年）

役 職	氏 名	任 期
教育長	山 本 太 一	H29. 8. 14～R2. 8. 13
教育長職務代理者	中 川 清 和	H29. 3. 28～R3. 3. 27
委 員	本 庄 通 子	H27. 3. 25～H31. 3. 24 H31. 3. 25～R5. 3. 24
委 員	近 藤 由 加 里	H28. 3. 25～R2. 3. 24
委 員	膽 吹 照 子	H29. 10. 1～R3. 9. 30
委 員	法 戸 繁 利	H30. 3. 25～R4. 3. 24

### (2) 教育委員会の活動状況

#### (ア) 教育委員会議の開催および議決状況

月 日	定例・臨時の別	議 決 事 項							協議事項	報告事項ほか
		条例案	規則	訓令要綱	委員等任命・委嘱等	予算案	後援等名義使用	その他		
H30. 4. 20	定例		2	1		2	2	1		5
H30. 5. 15	定例				1	2	1			4
H30. 6. 21	定例		1	1	2		4			5
H30. 7. 26	定例						5	1		4
H30. 8. 17	定例	1				2	1	2		2
H30. 9. 20	定例				2		1			2
H30. 10. 23	定例						1			4
H30. 11. 15	定例	4				1	2	4		2
H30. 12. 20	定例						2	1		1
H31. 1. 23	定例						1			1
H31. 2. 8	定例				1	2	1	1		1
H31. 3. 8	臨時							1		
H31. 3. 19	定例		1	1	1		1	1		2
合 計	定例 12回 臨時 1回	5	4	3	7	9	22	12	0	33

#### (イ) 総合教育会議

平成 27 年 4 月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴い、平成 27 年度から市長と教育委員会との協議・調整の場である「総合教育会議」を市長が設置するとともに、教育、学術および文化の振興に関する総合的な施策の大綱を策定することが義務付けられました。市長と市教育委員会が円滑に意思疎通を図り、市の教育の課題および目指す姿を共有しながら、連携して効果的な教育行政を推進するため総合教育会議を 1 回開催しました。

- 平成 31 年 2 月 15 日（金） ・米原市コミュニティ・スクールについて
- ・小学校 3 年生学力補充教室「学びっ子」について
- ・チームまいばら先生の会(TMT)について

#### (ウ) その他の活動状況

- 学校園訪問（各小学校・中学校・幼稚園、保育所および認定こども園）
- 各校入学式および各園入園式
- 各校園運動会および体育祭
- 各校卒業式および各園卒園式
- 成人式等各種行事
- 研修等
  - ・滋賀県都市教育委員会連絡協議会  
（理事会・総会・研修会・意見交流会・教育長会議）
  - ・滋賀県市町教育委員会研究協議会
  - ・近畿都市教育長協議会（総会・研究協議会）
  - ・全国都市教育長協議会（理事会・総会・研究会）
  - ・米原市教育委員県外研修

#### (エ) 委員の就任状況

- ・米原市青少年育成市民会議
- ・米原市人権尊重のまちづくり審議会委員
- ・米原市民生委員推薦会委員
- ・米原市奨学金給付審査会委員

### 3. 学識経験者による意見

#### (1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るために、米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会を開催し、意見交換を行い、2人の学識経験者から意見をいただきました。

#### (2) 学識経験者

- 大橋松行(おおはし まつゆき)氏 滋賀県立大学名誉教授、市行財政改革市民会議座長
- 膽吹満利子(いぶき まりこ)氏 元市内小学校長、主任児童委員

#### (3) 米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会

◆日時 令和元年10月8日(火) 9時30分から11時30分まで

◆出席者：(学識経験者)大橋松行氏、膽吹満利子氏

(教育委員)中川清和、本庄通子、膽吹照子、法戸繁利

(教育長)山本太一、(教育部長)上村浩

(各所属長)学校給食課：藤田、学校教育課：中川、生涯学習課：梶田、

図書館：今川、歴史文化財保護課：桂田、子育て支援課：阿原、  
保育幼稚園課：松居

(事務局)教育総務課：口分田、澤田、中辻

#### ◆意見交換での主な意見

(全般)

- ・昨年度に比べると、D評価が一つあり、A評価が減ったが、全体的に高い評価となっている。
- ・各事業の評価の内容に、課題や問題点が記載されていない。評価とは、マイナス要因も含めて行うものであり、それらが今後の事業の発展につながるため、課題や問題点についても記載すべきである。
- ・教職員の働き方改革の観点から、他団体からの役員就任依頼や業務を見直す時期にある。

(教育総務課)

- ・トイレ改修やICT教育環境整備が計画的に実施できている。
- ・給付型奨学金制度については、まだ2年目であり、評価に記載してある「定住促進を図ることができた。」という断言的な言い方は時期尚早である。
- ・小学生の通学にかかる課題は、地域性や児童数の減少により様々であり、課題は尽きない。

(学校給食課)

- ・学校給食運営委員会の欠席者が多いことから、委員の選定に問題はなかったか。
- ・アレルギー対応や地産地消メニューの開発を進めるなど、安心安全な給食の提供ができた。

(学校教育課)

- ・通級指導教室のニーズが高まっており、児童数を鑑みて、近江・米原地域に4か所めの通級指導教室を新設できないか。
- ・いじめ等対応支援員や学校経営支援員など、校長経験者を配置することで、学校経営に大きく寄与した。

(生涯学習課)

- ・ハートフル・フォーラムの実施については、関心の高い子どもをテーマにしたり、人が集まる工夫をすることが大切であり、人権政策課との連携も必要である。
- ・社会教育総務事業の「まいふあみカフェ」の開催や出前講座事業のメニュー数の増加、伊吹薬草の里文化センター管理運営事業の改修工事の実施など、それぞれの事業の評価を上げてほしいと思う。

(図書館・歴史文化財保護課)

- ・学校司書と積極的に連携できるとよい。
- ・はにわ館の貸し館や他課との連携企画など、施設を十分に活用してはどうか。

(子育て支援課)

- ・青少年育成市民会議やPTA、子ども会など、役員のなり手が少ないのが現状である。
- ・講演会等の参加者も年々減ってきているように感じる。研修の在り方も見直しが必要ではないか。

(保育幼稚園課)

- ・山東幼稚園は定員に対する充足率が低い点が気になる。例えば、幼稚園型認定こども園化を検討してみてはどうか。
- ・天狗の丘の遊具は、小学校低学年向けで、乳幼児にとっては遊びにくい。市内にも、乳幼児が遊べるような施設・環境を整備してはどうか。

#### (4) 学識経験者による意見

##### 滋賀県立大学名誉教授 大橋松行氏 による意見

米原市教育委員会の「令和元年度 教育に関する事務の管理および執行の状況の点検および評価等（平成30年度実績）」について、以下に報告します。

米原市では、平成27年度から第3次行財政改革大綱および同大綱に基づく実施計画（期間5か年）に取り組まれています。行財政改革は、持続可能な行財政基盤の確立を推進するとともに、効率的で効果的な行政運営および地域経営を実行しようとするものです。公民連携の推進は教育分野においても適用されるものであり、協働による事業推進、民間への業務委託などを積極的に推進する必要があります。

主にこのような観点から、教育に関する事務の管理および執行の状況について、以下に具体的に意見を提示したいと思います。

まず、全般的には各主管課の事務評価において全35事務事業中A評価が2、B評価が11、C評価が21、D評価が1で、昨年度と比べてD評価が付いており、また、A評価が少なくなっているものの、全体に高い評価となっています。特に、教育総務課、学校教育課、学校給食課においては顕著な成果を上げておられます。この点については評価できるのですが、1点改善を要すると思われることがあります。それは個々の事務事業評価表に関することですが、当該表の「評価の内容」の欄には、事業の課題や問題点が記載されていないということです。私は、評価とはこれらのマイナス要因をも含めて行うものだと思いますし、そのことが今後において事業の発展的展開につながると思います。そのように考えると、当該欄には両方の内容を併記した方がよいのではないかと思います。

次に、各主管課の事務事業についてみていきます。最初に、教育総務課です。「小学校施設整備事業」「中学校施設整備事業」では、次の点で評価できます。①学校施設長寿命化計画に基づいて改良工事に係る基本設計および実施設計を行ったこと。②安心安全で快適な学習環境を確保するため、多くの小中学校で各種の整備工事や不具合箇所の補修を行ったこと。「小学校教育振興事業」「中学校教育振興事業」では、経済的・身体的な理由により、特に就学が困難な児童生徒の保護者に、時機に合わせて新入学児童生徒学用品費を入学準備金として継続して支給したことは評価できます。ただ、「事務局教育振興事業」の給付型奨学金制度においては、奨学生決定者が定員を大幅に下回っており、この点での今後の改善・努力が求められますし、修学後の市への定住促進についても実態調査をする必要があるように思います。

第2に、学校給食課です。「学校給食総務管理事業」では、食物アレルギーのある園児・児童・生徒に対してこれまでから適切な対応がなされていることは評価できますが、学校給食運営委員会に欠席している委員が多いのは気になります。「学校給食事業」では、地場産物の活用率が県平均活用率を上回っている点は評価できます。引き続き地産地消メニューの開発・推進に御尽力いただくとともに、安心安全な給食を提供していただきたいと思

います。

第3に、学校教育課です。「事務局教育振興事業」では、特に次の点で評価できます。①すべての中学校区で学校支援地域本部を立ち上げ、地域コーディネーターを配置して、地域に根差した魅力ある学校づくりを推進したこと。②校長経験者をいじめ等対応支援員や学校経営支援員として配置したことが、いじめ対策を充実させたり（いじめ事案報告件数が過年度に比して倍増している）、校長の学校経営者としての意識を高めたり、中堅教員を育成することに貢献したこと。「小学校教育振興事業」および「中学校教育振興事業」においては、継続して学校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度が各学校の実情に応じた環境改善等に生かされていることは評価できますので、今後とも同制度を継続されることを望みます。

第4に、生涯学習課です。「地域人材育成事業」では、公開講座を多様な主体と共催することで、支出を抑えたことは評価できます。ただ、「市民交流プラザ管理運営事業」では、自主事業において入場者数、入場料収入とも対前年度比大幅減となっており、また、貸館事業もルッチプラザ・ベルホール 310 稼働率も対前年度比減となっていますので、この点での改善・見直しが必要かと思えます。最も気にかかるのがD評価の「人権教育推進事業」です。特に、ハートフル・フォーラムの自治会での開催については、開催率が約7割となっており、開催しない自治会に共通した課題を抽出し、改善策を講ずる必要があるように思えます。

最後に、図書館、歴史文化財保護課、子育て支援課、保育幼稚園課です。「図書館管理運営事業」では、図書館の運営形態を見直すことにより、効率的な運営が行われたことや利用者の利便性が向上したことは評価できますが、両図書館とも貸出冊数が対前年度比減となっていることが気になります。「文化財施設管理運営事業」では、指定管理者運営の2つの資料館は前年度に比べて入館者数を増やしていますが、直営施設は対前年度比大幅減となっており、運営の改善・見直しが求められるのではないかと思います。子育て支援課の2つの事業についてですが、あいさつ運動、非行防止活動、家庭教育力の向上活動など継続的に行われている事業が多く、一定の成果を上げておられることは評価できます。「幼稚園管理運営事業」ですが、山東幼稚園の利用定員充足率が低いのが気になります。例えばですが、充足率を上げる方法として幼稚園型認定こども園化（預かり時間の延長）を考えてみてはどうでしょうか。

以上、各主管課の主たる事務事業について意見を付してきました。平成30年度の米原市教育委員会は、事業によっては多少の課題はあるものの、概ね十全に機能していると思えます。大きな成果を上げているものもあり、また、多くの事業で適切かつ前向きに活動を展開されておられることは評価できます。今後とも、市長部局と市教育委員会が緊密に意思疎通を図り、連携して効率的で効果的な教育行政を推進するとともに、市民の声を十分に施策に反映していただくことを期待します。

元市内小学校長 膽吹 満利子氏 による意見

米原市の教育行政の点検・評価に関する懇話会が開催され、参加しました。「令和元年度 教育に関する事務の管理および執行の状況の点検および評価等の報告書(平成30年度実績)」を基に、関係各課から分かりやすく具体的な説明を受けました。教育行政の経験はなく、学校教育現場の経験からの意見となりますが、点検・評価に関して少しでも参考になる意見が述べられたらと思います。

変動が激しく、厳しい社会状況の中での事業実施において、35事業のうち、1事業を除いてC評価以上であることは、教育行政が関係各課および各課連携によって良好に遂行されたこと、その御尽力と成果に敬意を表します。

以下、各事業について意見を述べたいと思います。

(教育総務課に関わること)

- ・将来を担う人材の育成を目的に始められた給付型奨学金制度が、順調に進められています。開始から数年なので、将来、市への定住につながるかは未知のものですが、ふるさと米原への思いを高めることに有効につながるものと思います。市への定住も目的の一つとしてありますが、米原で学んだ若者が広く国内外で活躍することも望みたいものです。
- ・校外学習でのスクールバスの活用は、教育現場にとってはありがたいことです。校外学習に行きたいと思っても、経費面や交通手段等の困難さから机上の学習となることがあります。実物に触れることや体験によって、学習がより確かなものになります。予算厳しき折、継続は難しいことと思いますが、今後とも続けていただけるよう希望します。
- ・変動する社会環境の中にあって、教育環境の整備が計画的かつ適切に進められています。国の交付金を活用するなど広い視野で進められています。時代の流れに即した学習環境の整備の一層の充実を期待します。
- ・学習の効率化を図る一つとして、パソコンやICTの活用があります。機器の導入とともに、その活用の充実が大切だと思います。各機関との連携を図りながら随時進めていただきますようお願いします。

(学校給食課に関わること)

- ・学校給食においては、細部にわたり配慮し実践され、高い評価を得ることができたのは素晴らしいと思います。
- ・子どもを取り巻く食生活は、今後ますます複雑・多様化することと思いますが、運営委員会や食物アレルギー対応検討委員会等、各会議における意見を運営に反映され、子どもたちに安心・安全な、そして工夫された楽しい食の提供をお願いします。
- ・学校給食の供給はもとより、米原市の食文化のセンターとしてのますますの活躍にも期待しています。

(学校教育課に関わること)

- ・学校教育は、めまぐるしい変化の中で、各関係機関と効果的な連携を図り、様々な角度から見直し、改善し、より良いものへと進められています。健やかな子どもの育成においては、何が課題であり、その課題を解決するには何が必要であるかを明確にすることはいうまでもありません。ですが、近年、次々と様々な課題が生じ、教育関連法の改正等、教育を取り巻く状況の変化は著しいものがあります。このような中で、米原市の子どもの育成を担う学校教育課の業績が、全てB評価であることに敬意を表します。
- ・各事業において、実践されたことの成果は多大であると思います。学校現場の厳しさは理解しているつもりですが、繰り返し実践される中で、各事業がより良いものへと改善がされているかの振り返りをお願いします。教育の成果は、日々の積み重ねであり、すぐに結果の出るものでないことは十分に承知の上で、成果の上に更なる力を蓄積できるように

実践いただきたく思います。

・様々な支援を必要とする子どもたちに対しても、可能性を伸ばせる教育環境づくりに努力されています。支援を必要とする子どもたちが年々増加し、その対応に苦慮されていることと思います。今後とも実態把握に努め、各関係機関との連携を深め、一人一人を大切にされた教育が進められることを願っています。

・今後、教育現場では、若手の教職員に期することが多くなります。専門性や指導力を備えた先生方ではありますが、現場における指導の複雑さや雑務の多忙さは、体験してこそその対応が身に付くものです。先生方が存分に力を発揮できるよう、若手研修のますますの充実をお願いするとともに、同年代の先生方が集まり思いを出し合う場の提供と職員の心のケアも合わせてお願いします。

(生涯学習課に関わること)

・11事業の内9事業がC評価となっていますが、評価の内容を見ると十分に目標達成ができています。より良いものへの向上は大切ですが、もう少し評価を高めていただいてもよいと思います。

・人権教育推進事業がD評価と低くなっています。その要因が、各自治会のハートフル・フォーラムの推進の遅滞です。人権意識・人権感覚の向上は住みよいまちづくりの実現に欠かせないものであり、人権教育は幅広いものです。地道な積み上げが必要ですが、引き続き、実情に合わせたハートフル・フォーラムの推進をお願いします。

・生涯にわたる市民の豊かな暮らしのために、生き生きと活動できる場づくりに取り組んでおられます。管理・運営の困難な中にありますが、各関係機関と連携を図り、より良い場づくりを期待します。

・大きなスポーツ大会に関わって、環境整備や体制づくりを計画的に推進されています。このことがまちの活性化につながるよう期待します。

(図書館に関わること)

・より良い学びの環境として、図書を身近に感じることは大切です。広い世界を感じ取り、深い知識を得ることは情操を豊かにします。学校・園・家庭・地域が図書館と相互に連携を深め、本に触れる機会をつくることで、図書館教育の充実が図られることを願います。

(歴史文化財保護課に関わること)

・米原市の歴史を学び・知ることは、市を慈しみ、誇りに思う気持ちの育成に必要なことです。地域の特色を知り、歴史に触れる機会を与えられるような豊かな活動が進められています。難しいと思われがちな分野ですが、今後とも工夫をされ、市民が親しめる活動を進められることを期待します

(子育て支援課に関わること)

・ニートやひきこもりに関する課題は、能動的な活動は難しく、受動性が大きいデリケートな問題であり、かつ解決が急がれます。実態把握に努め、各関係機関との連携を密にして、早期対策を講じていただき、自立への支援が充実することを願います。

(保育幼稚園課に関わること)

・保育所、幼稚園、認定こども園における教育・保育の充実と向上に努められています。多様化する保育ニーズに柔軟に対応するため、引き続き保育者の資質の向上と、勤務システムが複雑な中でも、教職員が一丸となって園運営に取り組んでいただきたいと思います。

以上、懇話会での説明や話し合いを受け、私の個人的な思いを述べさせていただきました。めまぐるしい変革の中で育つ子どもたちは、未来の担い手です。子どもたちに託す次世代は、更により良く住みよいまちでありたいものです。そのため、今、私たち大人ができることをやっていかねばなりません。米原市の教育行政に関わっておられる皆様の御尽力に感謝しつつ、今後とも効果的・計画的な教育行政が推進されることを願っています。

(1) 施策の体系と事務事業一覧

政策	基本施策	単位施策	事務事業(成果表に準じた分類)	主管課	備考
2. ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり					
1. 心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち					
①就学前保育・教育、学校教育の充実					
②就学前保育・教育、教育環境の充実					
1. 事務局総務事業				教育総務課	
2. 事務局教育振興事業				教育総務課	校外活動等バス管理
3. 小学校管理運営事業				教育総務課	小学校施設管理・バス通学補助
4. 小学校教育振興事業				教育総務課	要保護準要保護児童就学援助費 特別支援教育就学奨励費
5. 小学校施設整備事業				教育総務課	
6. 中学校管理運営事業				教育総務課	中学校施設管理
7. 中学校教育振興事業				教育総務課	要保護準要保護児童就学援助費 特別支援教育就学奨励費
8. 中学校施設整備事業				教育総務課	
9. 学校給食総務管理事業				学校給食課	
10. 学校給食事業				学校給食課	学校給食施設維持管理・運営事業
35. 幼稚園管理運営事業				保育幼稚園課	
2. 地域全体で子どもを守り育てるまち					
①地域の特性に応じた学校運営の推進					
②家庭・地域の教育力の強化					
11. 事務局教育振興事業				学校教育課	就学指導委員会、通級指導教室
12. 教育センター事業				学校教育課	学力状況調査
13. 子どもサポート事業				学校教育課	子どもケアサポーター・教育相談
14. 小学校管理運営事業				学校教育課	
15. 小学校教育振興事業				学校教育課	
16. 中学校管理運営事業				学校教育課	
17. 中学校教育振興事業				学校教育課	
18. 社会教育総務事業				生涯学習課	
33. 次代を担う青少年育成事業				子育て支援課	
34. 少年センター事業				子育て支援課	
3. 人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち					
①学びの場づくりの推進					
②学びを生かした人材育成の推進					
③図書館機能の整備・充実					
20. 地域人材育成事業				生涯学習課	ルッチまちづくり大学運営事業
23. 伊吹薬草の里文化センター管理運営事業				生涯学習課	
24. 生涯学習センター管理運営事業				生涯学習課	
25. 次代を担う青少年育成事業				生涯学習課	成人式

(1) 施策の体系と事務事業一覧

政策	基本施策	単位施策	事務事業(成果表に準じた分類)	主管課	備考	
			26. 公民館管理運営事業	生涯学習課		
			29. 図書館管理運営事業	図書館		
			30. はにわ館管理運営事業	生涯学習課		
			4. 誇りと愛着のある地域文化を守り生かし伝えるまち			
			①文化・芸術の振興 ②歴史文化遺産の保存活用 ③文化遺産の保存活用			
			21. 文化のまちづくり事業	生涯学習課		
			22. 市民交流プラザ管理運営事業	生涯学習課		
			31. 文化財保護事業	歴史文化財保護課		
			32. 文化財施設管理運営事業	歴史文化財保護課		
			5. スポーツによって、人と人、地域と地域がつながるまち			
			①米原らしさを生かしたスポーツの推進 ②子どものスポーツ活動の推進 ③地域スポーツ活動の推進 ④スポーツを身近に楽しめる環境づくり			
			27. 体育施設管理運営事業	生涯学習課		
			28. スポーツ推進事業	生涯学習課		
			6. 一人一人が尊重され平和を大切にするまち			
			①人権文化・人権教育の推進			
			19. 人権教育推進事業	生涯学習課	人権教育啓発推進事業	

(2) 点検および評価等の結果

主要施策の成果説明書の事業に基づき、教育委員会に関連する事務を35に分類し、事業ごとに点検および評価を行いました。

事業ごとに、総合計画上の位置付け、政策・基本施策・単位施策・基本事業を記載しています。

- (ア) 平成30年度の予算額、決算額、執行率、決算における財源内訳、当該事業の概要を記載しています。
- (イ) 事業の指標として、平成30年度における進捗度および市民一人当たりのコスト等をあげています。市民一人当たりの金額は、決算額を平成30年度末現在の米原市人口39,138人で除した数値です。
- (ウ) 対象事業の主な実績を記載しています。
- (エ) 対象事業の達成度をAからEの5段階の評価し、評価の内容をまとめています。

【評価ランク】

A	期待以上に達成できた	<ul style="list-style-type: none"><li>・当該年度の当該計画以上に成果が上げられた</li><li>・当初計画以上に早く事業が完了した</li></ul>
B	期待をやや上回る程度に達成できた	<ul style="list-style-type: none"><li>・変更は生じたが、期待をやや上回る成果があった</li><li>・初期の目的をおおむね達成できた</li></ul>
C	期待どおり	<ul style="list-style-type: none"><li>・前年度と同様の実績であった</li><li>・ほぼ計画どおり事業を実施できた</li></ul>
D	やや不十分である	<ul style="list-style-type: none"><li>・期待を下回る実績であった</li><li>・事業は実施できたが、成果についてはやや課題が残った</li></ul>
E	不十分である	<ul style="list-style-type: none"><li>・当該年度の計画が実施できなかった</li></ul>

【対象事業の評価一覧】

対象事業の主管課別評価を基に懇話会での意見を踏まえた評価結果は以下のとおりとなりました。

番号	事務事業名	評価	主管課
1	事務局総務事業	C	教育総務課
2	事務局教育振興事業	C	〃
3	小学校管理運営事業	C	〃
4	小学校教育振興事業	C	〃
5	小学校施設整備事業	A	〃
6	中学校管理運営事業	C	〃
7	中学校教育振興事業	B	〃
8	中学校施設整備事業	A	〃
9	学校給食総務管理事業	B	学校給食課
10	学校給食事業	B	〃
11	事務局教育振興事業	B	学校教育課
12	教育センター事業	B	〃
13	子どもサポート事業	B	〃
14	小学校管理運営事業	B	〃
15	小学校教育振興事業	B	〃
16	中学校管理運営事業	B	〃
17	中学校教育振興事業	B	〃
18	社会教育総務事業	C	生涯学習課
19	人権教育推進事業	D	〃
20	地域人材育成事業	C	〃
21	文化のまちづくり事業	C	〃
22	市民交流プラザ管理運営事業	C	〃
23	伊吹薬草の里文化センター管理運営事業	C	〃
24	生涯学習センター管理運営事業	B	〃
25	次代を担う青少年育成事業	C	〃
26	公民館管理運営事業	C	〃
27	体育施設管理運営事業	C	〃
28	スポーツ推進事業	C	〃

29	図書館管理運営事業	C	図書館
30	はにわ館管理運営事業	C	〃
31	文化財保護事業	C	歴史文化財保護課
32	文化財施設管理運営事業	C	〃
33	次代を担う青少年育成事業	C	子育て支援課
34	少年センター事業	C	〃
35	幼稚園管理運営事業	C	保育幼稚園課

主管課名	A	B	C	D	E	対象事業数
教育総務課	2	1	5			8
学校給食課		2				2
学校教育課		7				7
生涯学習課		1	9	1		11
図書館			2			2
歴史文化財保護課			2			2
子育て支援課			2			2
保育幼稚園課			1			1
計	2	11	21	1	0	35

事業番号		1				
款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	2 事務局費	
事業名	継続	事務局総務事業			主管課	教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち				
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実				
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度	
予算額	723,000	1,570,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	144,000	138,000	
決算額	519,968	1,227,007	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	0	0	
執行率(%)	71.9	78.2	一般財源	375,968	1,089,007	
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)			
全国都市教育長協議会定期総会、近畿都市教育長協議会定期総会および近畿都市教育長協議会研究協議会において、職員の出席が不要となったことにより職員研修負担金の不用額が生じたため。						
事業コスト		事業費	人件費( 0.50 人役 )	計		
決算額		520 千円	3,636 千円	4,156 千円		
市民1人当たり( 39,138 人)		13 円	93 円	106 円		
事業の目的および内容						
第2期米原市教育振興基本計画に基づき、更なる教育施策の推進に努めます。						
事業の実績						
地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、平成29年度の教育委員会の権限に属する事務の管理および執行の状況について点検および評価等を行い、報告書を公表しました。						
教育事務点検評価者報償費				20,000 円		
【点検、評価の目的】						
教育委員会は、首長から独立した中立的・専門的な立場で、学校教育、生涯学習、文化・スポーツなど幅広い分野に関する施策を展開する行政機関として設置されています。点検および評価等は、教育委員会が教育行政の事務の執行状況を点検および評価し、効果的・計画的な教育行政の推進に資することを目的とするものです。						
【点検、評価の方法】						
評価の方法については、平成29年度における主要施策の成果説明書の事業分類により、教育委員会で自己点検および評価を行いました。						
【教育部重点目標の達成度】計 21 項目						
達成度		項目数	達成度		項目数	
達成度5	目標を上回る成果	0	達成度2	目標をやや下回る成果	2	
達成度4	目標をやや上回る成果	7	達成度1	目標を下回る成果	0	
達成度3	目標どおりの成果	12				
【教育事務事業の評価】計 36 事業						
評 価 ラ ン ク					対 象 事業数	
A	期待以上に達成できた	①当該年度の当該計画以上に成果が上げられた ②当初計画以上に早く事業が完了した			5	
B	期待をやや上回る程度に達成できた	①変更は生じたが、期待をやや上回る成果があった ②初期の目的をおおむね達成できた			14	
C	期待どおり	①前年度と同様の実績であった ②ほぼ計画どおりの事業を実施できた			17	
D	やや不十分である	①期待を下回る実績であった ②事業は、実施できたが、成果についてはやや課題が残った			0	
E	不十分である	①当該年度の計画が実施できなかった			0	
評価の内容					評価	
教育事務の点検および評価に関し、学識経験者2人および教育委員会委員6人で、10月に意見交換を行い、今後のより良い教育行政に役立てることができました。					C	

事業番号	2														
款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育振興費										
事業名	継続	事務局教育振興事業			主管課	教育委員会 教育総務課									
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり													
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち													
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実													
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度										
予算額	18,283,000	7,323,000	国 費	0	0										
うち繰越	0	0	県 費	0	0										
決算額	17,207,353	6,898,381	市 債	0	0										
うち繰越	0	0	その他	0	0										
執行率(%)	94.1	94.2	一般財源	17,207,353	6,898,381										
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)												
事業コスト		事業費	人件費( 1.00 人 役 )	計											
決算額		17,207 千円	7,272 千円	24,479 千円											
市民1人当たり( 39,138 人)		440 円	186 円	626 円											
児童・生徒1人当たり ( 3,099 人)		5,552 円	2,347 円	7,899 円											
<b>事業の目的および内容</b>															
<p>(1)総合的な学習を通じ、子どもたちに幅広い体験ができるようバスを運行し、各学校の校外活動の充実や学校間の交流を促進します。</p> <p>(2)給付型奨学金制度により、修学上必要な学資金の給付を行うことで、将来を担う人材の育成および市への定住を促進します。</p>															
<b>事業の実績</b>		※小学校児童数 2,042人、中学校生徒数 1,057人 (平成30年5月1日現在…学校基本調査基準日)													
<p>(1)バス事業者への委託により学校支援バスを運行しました。そのほか、校外活動等のために伊吹地域スクールバス3台、山東小学校スクールバス1台および河南小学校スクールバス1台を活用しました。</p> <p>校外活動バス借上料(延べ115台) 6,155,028 円 校外活動バス運転手賃金 572,325 円</p>															
			<p>小学校の主な校外活動状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>行 先</th> <th>学校名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クリスタルプラザ</td> <td>柏原小学校、大原小学校 米原小学校、息長小学校</td> </tr> <tr> <td>長浜水道企業団</td> <td>坂田小学校、息長小学校</td> </tr> <tr> <td>米原消防署</td> <td>柏原小学校、大原小学校 坂田小学校</td> </tr> <tr> <td>奥伊吹スキー場</td> <td>全小学校</td> </tr> </tbody> </table>			行 先	学校名	クリスタルプラザ	柏原小学校、大原小学校 米原小学校、息長小学校	長浜水道企業団	坂田小学校、息長小学校	米原消防署	柏原小学校、大原小学校 坂田小学校	奥伊吹スキー場	全小学校
行 先	学校名														
クリスタルプラザ	柏原小学校、大原小学校 米原小学校、息長小学校														
長浜水道企業団	坂田小学校、息長小学校														
米原消防署	柏原小学校、大原小学校 坂田小学校														
奥伊吹スキー場	全小学校														
<p>【伊吹山文化資料館での校外活動】</p> <p>(2)将来を担う人材の育成および市への定住促進を図るため、平成30年度分の奨学金の給付を行いました。また、令和元年度分の奨学生を募集し、審査を行いました。</p> <p>《平成30年度分》 申請者：37人 奨学生決定者：29人 10,440,000 円 《令和元年度分》 申請者：32人 奨学生給付審査会決定者：27人</p>															
<b>評価の内容</b>					評価										
<p>(1)市内外への校外活動の実施により、日常の学校生活では得ることのできない体験学習・環境学習および創作活動などへの様々な体験を通じて、子どもたちの社会性を養う一助となりました。</p> <p>(2)給付型奨学金の給付を行うことにより、市への愛着と誇りを持った意欲のある若者に対し、進学の後押しと修学後の市への定住促進を図ることができました。</p>					C										

事業番号	3																																
款	10 教育費	項	2 小学校費	目	1 学校管理費																												
事業名	継続	小学校管理運営事業			主管課	教育委員会 教育総務課																											
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり																															
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち																															
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実																															
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度																												
予算額	44,902,000	65,620,000	国 費	0	0																												
うち繰越	0	0	県 費	0	0																												
決算額	41,900,151	65,009,956	市 債	0	13,000,000																												
うち繰越	0	0	その他	0	0																												
執行率(%)	93.3	99.1	一般財源	41,900,151	52,009,956																												
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)																														
事業コスト		事業費	人件費( 0.65 人役 )	計																													
決算額		41,900 千円	4,727 千円	46,627 千円																													
市民1人当たり( 39,138 人)		1,071 円	121 円	1,192 円																													
児童1人当たり( 2,042 人)		20,519 円	2,315 円	22,834 円																													
事業の目的および内容																																	
(1)小学校施設の適切な維持管理により、安心安全な学習環境を確保し、適切な施設の維持管理を行います。																																	
(2)通学に関する基本方針に基づき、スクールバスの運行および路線バス等での通学者への助成を行います。																																	
事業の実績		※小学校児童数 2,042人(平成30年5月1日現在…学校基本調査基準日)																															
(1)小学校施設や設備を適切に維持管理するため、各種設備等の管理業務を委託しました。		警備保障・設備保守点検業務等 16,266,075 円																															
(2)事務機器等のリース契約を継続して行い、情報学習や学校事務に活用しました。		事務機器等リース料 3,133,701 円																															
(3)施設の運営等に必要な備品を購入しました。		施設管理用備品 児童用机・椅子ほか 3,888,330 円																															
(4)安全な通学環境を確保するため、バス通学者への助成を行いました。(77人)		バス等利用延べ児童数 (単位:人) 4,307,110 円																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>湖国バス</th> <th>まいちゃん号</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柏原小学校</td> <td>40</td> <td>3</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>山東小学校</td> <td>0</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>米原小学校</td> <td>0</td> <td>16</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>河南小学校</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>息長小学校</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>50</td> <td>37</td> <td>87</td> </tr> </tbody> </table>		学校名	湖国バス	まいちゃん号	合計	柏原小学校	40	3	43	山東小学校	0	6	6	米原小学校	0	16	16	河南小学校	0	2	2	息長小学校	10	10	20	合計	50	37	87		
学校名	湖国バス	まいちゃん号	合計																														
柏原小学校	40	3	43																														
山東小学校	0	6	6																														
米原小学校	0	16	16																														
河南小学校	0	2	2																														
息長小学校	10	10	20																														
合計	50	37	87																														
		※息長小学校は、登校に湖国バス、下校にまいちゃん号を利用しています。																															
(5)伊吹地域スクールバス3台、山東小学校および河南小学校のスクールバス計5台を通学および校外活動等のために運行しました。		スクールバス運行管理経費(燃料費、運転手賃金等) 12,897,884 円																															
評価の内容					評価																												
(1)各種管理業務委託の実施や事務機器等のリース、施設に必要な備品の購入により、適切な学習環境の確保につなげることができました。					C																												
(2)小学校児童の遠距離通学に対してスクールバスを運行し、安全な通学環境の確保につなげることができました。																																	

事業番号	4				
款	10 教育費	項 2 小学校費			
		目 2 教育振興費			
事業名	継続	小学校教育振興事業			
		主管課 教育委員会 教育総務課			
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり			
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち			
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実			
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度
予算額	13,964,000	143,059,000	国 費	818,000	692,000
うち繰越	0	0	県 費	0	0
決算額	13,731,398	140,805,556	市 債	0	0
うち繰越	0	0	その他	0	0
執行率(%)	98.3	98.4	一般財源	12,913,398	140,113,556
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)		
事業コスト		事業費	人件費( 0.45 人 役 )	計	
決算額		13,731 千円	3,272 千円	17,003 千円	
市民1人当たり( 39,138 人)		351 円	84 円	435 円	
児童1人当たり( 2,042 人)		6,724 円	1,602 円	8,326 円	
<b>事業の目的および内容</b>					
経済的や身体的な理由により就学が困難な児童への援助を行い、安心できる学習環境となるよう支援します。					
<b>事業の実績</b>					
経済的や身体的な理由により、就学が困難な児童の安心できる学習環境を確保するため、学用品費や給食費等の一部を援助しました。あわせて、新入学児童学用品費を入学準備金として支給しました。					
要保護準要保護児童就学援助費				12,122,607 円	
(うち 令和元年度入学準備金				933,800 円)	
特別支援教育就学奨励費				1,608,791 円	
◆支給対象者の5年間の推移				(単位：人)	
区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
要保護児童就学援助	1	0	2	0	2
準要保護児童就学援助	144	151	166	161(24)	196(23)
特別支援教育就学奨励	46	41	41	44	48
※平成29年度および平成30年度の準要保護児童就学援助の( )の数値は、入学準備金支給対象者数					
<b>評価の内容</b>					評価
経済的や身体的な理由により就学が困難な児童を援助することで、学習環境の確保と義務教育の円滑な実施に寄与することができました。特に、入学準備金については、時機に合わせて支給することで、より有益な援助につながりました。					C

事業番号	5					
款	10 教育費	項	2 小学校費	目	3 施設整備費	
事業名	継続	小学校施設整備事業			主管課	教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち				
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実				
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度	
予算額	143,816,000	182,084,000	国 費	30,919,000	27,921,000	
うち繰越	86,300,000	65,534,000	県 費	0	0	
決算額	120,665,416	85,010,493	市 債	49,900,000	29,000,000	
うち繰越	81,972,000	55,359,320	その他	1,153,000	638,320	
執行率(%)	83.9	46.7	一般財源	38,693,416	27,451,173	
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)			
			繰越事業費等充当財源繰越金 1,153,000円			
事業コスト		事業費	人件費( 0.60 人 役 )	計		
決算額		120,665 千円	4,363 千円	125,028 千円		
市民1人当たり( 39,138 人)		3,083 円	111 円	3,194 円		
児童1人当たり( 2,042 人)		59,092 円	2,137 円	61,229 円		
事業の目的および内容						
<p>安心安全で快適な学習環境を確保するため、施設整備の修繕や改修など緊急性の高いものから順次計画的に整備します。また、予防保全型の維持管理へ転換し、計画的に施設整備の点検等を行い、不具合を未然に防止します。</p>						
事業の実績						
<p>(1)春照小学校グラウンド測量業務および改修工事設計業務委託          良好な学習環境を確保するため、排水機能が低下しているグラウンド改修に着手しました。          測量費：1,432,080円、設計費：3,672,000円 5,104,080 円</p> <p>(2)伊吹小学校電話設備改修工事          安全で機能的な学習環境を確保するため、電話システムを改修しました。          工事費 3,814,560 円</p> <p>(3)体育館照明(LED)改修工事(伊吹小・春照小学校)          快適な学習環境を確保するため、2小学校の体育館照明をLEDに改修しました。          工事費 7,691,760 円</p> <p>(4)米原小学校特別教室および保健室改修事業          安全で機能的な学習環境を確保するため、通級指導教室および保健室を改修しました。          設計費：473,040円、工事費：9,450,000円 9,923,040 円</p> <p>(5)小学校トイレ改修事業(柏原小・山東小学校)(繰越)          快適な学習環境を確保するため、2小学校のトイレを洋式化に改修しました。          監理委託費：972,000円、工事費：81,000,000円 81,972,000 円</p>						
評価の内容					評価	
<p>各種の整備工事や不具合箇所の補修により、安心安全で快適な学習環境の確保につなげることができました。</p>					A	

事業番号	6					
款	10 教育費	項	3 中学校費	目	1 学校管理費	
事業名	継続	中学校管理運営事業			主管課	教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち				
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実				
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度	
予算額	19,195,000	24,597,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	6,000	14,000	
決算額	18,713,322	24,531,215	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	0	0	
執行率(%)	97.5	99.7	一般財源	18,707,322	24,517,215	
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)			
事業コスト		事業費	人件費( 0.35 人 役 )	計		
決算額		18,713 千円	2,545 千円	21,258 千円		
市民1人当たり( 39,138 人)		478 円	65 円	543 円		
生徒1人当たり( 1,057 人)		17,704 円	2,408 円	20,112 円		
<b>事業の目的および内容</b>						
中学校施設の適切な維持管理により、安心安全な学習環境を確保し、適切な施設の維持管理を行います。						
<b>事業の実績</b> ※中学校生徒数 1,057人(平成30年5月1日現在…学校基本調査基準日)						
(1)中学校施設や設備を適切に維持管理するため、各種設備等の管理業務を委託しました。						
警備保障・設備保守点検業務等				11,066,261 円		
(2)事務機器等のリース契約を継続して行い、情報学習や学校事務に活用しました。						
事務機器等リース料				2,723,994 円		
(3)施設の運営等に必要な備品を購入しました。						
施設管理用備品 生徒用机・椅子ほか				3,288,588 円		
<b>評価の内容</b>					評価	
各種管理業務委託の実施や事務機器等のリース、施設に必要な備品の購入により、適切な学習環境の確保につなげることができました。					C	

事業番号		7			
款	10 教育費	項	3 中学校費		
		目	2 教育振興費		
事業名	継続 中学校教育振興事業	主管課	教育委員会 教育総務課		
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり			
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち			
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実			
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)		
予算額	108,510,000	19,477,000	国 費		
うち繰越	0	0	県 費		
決算額	106,617,842	18,424,078	市 債		
うち繰越	0	0	その他		
執行率(%)	98.3	94.6	一般財源		
執行率80%以下の理由(30年度)		その他の内訳(30年度)			
事業コスト		事業費	人件費( 0.70 人 役 )		
決算額		106,618 千円	5,090 千円		
市民1人当たり( 39,138 人 )		2,724 円	130 円		
生徒1人当たり( 1,057 人 )		100,868 円	4,816 円		
事業の目的および内容					
(1)中学校パソコン教室の機器を継続して配備し、ICT(情報通信技術)を活用した教育の充実を図ります。					
(2)経済的や身体的な理由により就学が困難な生徒への援助を行い、安心できる学習環境となるよう支援します。					
事業の実績					
(1)情報学習の強化を図るため、パソコン機器の継続リースを行いました。					
コンピュータ教室機器リース料			6,977,160 円		
(2)ICTを活用した教育の充実を図るため、中学校にパソコン、タブレットを購入するとともに、校内ネットワーク環境の構築を行いました。					
コンピュータ教室パソコン 152台			25,380,000 円		
タブレット 130台			22,388,400 円		
授業用パソコン 19台			3,013,200 円		
電算処理委託料			34,452,000 円		
(3)経済的や身体的な理由により、就学が困難な生徒の安心できる学習環境を確保するため、学用品費や給食費等の一部を援助しました。あわせて、新入学生徒学用品費を入学準備金として支給しました。					
要保護準要保護生徒就学援助費			10,736,404 円		
(うち 令和元年度入学準備金)			1,469,400 円		
特別支援教育就学奨励費			1,181,278 円		
◆支給対象者の5年間の推移			(単位：人)		
区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
要保護生徒就学援助	1	0	2	0	0
準要保護生徒就学援助	97	105	105	100(27)	105(31)
特別支援教育就学奨励	24	25	28	22	23
※平成29年度および平成30年度の準要保護生徒就学援助の( )の数値は、入学準備金支給対象者数					
評価の内容				評価	
(1)パソコン教室の機器を継続的に配備することで、適切な学習環境の確保につながることができ、情報学習の強化を図ることができました。今後も引き続き、質の高い情報学習環境の確保に努めます。				B	
(2)経済的や身体的な理由により就学が困難な生徒を援助することで、学習環境の確保と義務教育の円滑な実施に寄与することができました。特に、入学準備金については、時機に合わせて支給することで、より有益な援助につながりました。					

事業番号		8	
款	10 教育費	項	3 中学校費
		目	3 施設整備費
事業名	継続 中学校施設整備事業	主管課	教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち	
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実	
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)
予算額	625,563,000	240,863,000	国 費
うち繰越	192,763,000	0	県 費
決算額	250,775,736	48,070,373	市 債
うち繰越	172,375,920	0	その他
執行率(%)	40.1	20.0	一般財源
執行率80%以下の理由(30年度)		その他の内訳(30年度)	
<p>国の補正予算に伴う事業実施により、米原中学校および河南中学校体育館トイレ改修工事、双葉中学校長寿命化改良工事を令和元年度へ繰り越したため。</p> <p>&lt;令和元年度への繰越額&gt; 349,300,000円</p>		<p>繰越事業費等充当財源繰越金 2,264,920円</p>	
事業コスト		事業費	人件費( 0.85 人役 )
決算額		250,776 千円	6,181 千円
市民1人当たり( 39,138 人)		6,407 円	158 円
生徒1人当たり( 1,057 人)		237,253 円	5,848 円
事業の目的および内容			
<p>安心安全で快適な学習環境を確保するため、施設整備の修繕や改修など緊急性の高いものから順次計画的に整備します。また、予防保全型の維持管理へ転換し、計画的に施設整備の点検等を行い、不具合を未然に防止します。</p>			
事業の実績			
(1)双葉中学校長寿命化改良工事設計業務委託			
<p>安心安全で快適な学習環境を確保するため、米原市学校施設長寿命化計画に基づき、双葉中学校長寿命化改良工事に係る基本設計および実施設計を行いました。</p> <p>設計費 37,033,200 円</p>			
(2)中学校電話設備改修工事(米原中・河南中学校)			
<p>安全で機能的な学習環境を確保するため、2中学校の電話システムを改修しました。</p> <p>工事費 7,240,320 円</p>			
(3)米原中体育館照明(LED)改修工事			
<p>快適な学習環境を確保するため、体育館照明をLEDに改修しました。</p> <p>工事費 4,429,080 円</p>			
(4)柏原中学校校舎防水事業(I期工事)			
<p>安心安全で快適な学習環境を確保するため、校舎の防水工事を実施しました。</p> <p>監理委託費：399,600円、工事費：20,841,840円 21,241,440 円</p>			
(5)双葉中学校テニスコートフェンス改修工事			
<p>台風被害により倒壊したテニスコートフェンスを改修しました。</p> <p>工事費 1,069,200 円</p>			
(6)中学校トイレ改修事業(米原中・河南中学校)(繰越)			
<p>快適な学習環境を確保するため、2中学校のトイレを洋式化に改修しました。</p> <p>監理委託費：972,000円、工事費：109,722,600円 110,694,600 円</p>			
(7)伊吹山中学校エレベータ設置等工事(繰越)			
<p>身体に障がいのある生徒が安全で円滑に学校生活を送れるよう、エレベータ設置等のバリアフリー化の工事を実施しました。</p> <p>手数料：63,000円、監理委託費：1,004,400円、工事費：60,613,920円 61,681,320 円</p>			
評価の内容			評価
<p>各種の整備工事や不具合箇所の補修により、安心安全で快適な学習環境の確保につながることができました。</p>			A

事業番号	10					
款	10 教育費	項	6 保健体育費	目	4 学校給食費	
事業名	継続	学校給食事業			主管課	教育委員会 学校給食課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち				
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実				
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度	
予算額	320,857,000	336,338,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	313,066,842	333,735,742	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	181,589,617	179,861,695	
執行率(%)	97.6	99.2	一般財源	131,477,225	153,874,047	
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)			
			東部給食センター調理研修室使用料 1,800円 給食センター講座受講料 33,250円 学校給食費保護者等負担金 169,063,767円 特定教育・保育施設使用料 10,378,800円 特定教育・保育施設給食費利用者負担金 2,112,000円			
事業コスト		事業費	人件費( 9.40 人 役 )	計		
決算額		313,067 千円	68,357 千円	381,424 千円		
市民1人当たり( 39,138 人 )		7,999 円	1,747 円	9,746 円		
事業の目的および内容						
食生活を取り巻く社会環境が大きく変化し生活の多様化が進む中、米原市の将来を担う子どもたちにバランスの取れた安心安全な学校給食を提供するため、適正な施設の維持管理および業務の運営を行います。						
事業の実績						
学校および園に安心安全な給食を提供するため、給食センターの適正な管理運営に努めるとともに、アレルギー対応をはじめ、食材に地場産物を積極的に取り入れました。 学校給食衛生管理基準に基づく衛生面に配慮し、各機械設備等の保守点検を行いました。 食育の推進のため、調理実習や指導体験教室を展開しました。						
(1)給食提供数(職員を含む。) 平成31年3月現在						
区 分	東部給食センター		西部給食センター		計	
	校園数	食数	校園数	食数	校園数	食数
幼稚園・認定園	4	570 食	1	183 食	5	753 食
小学校	6	1,114 食	3	1,039 食	9	2,153 食
中学校	4	639 食	2	495 食	6	1,134 食
合 計	14	2,323 食	6	1,717 食	20	4,040 食
※参考 賄材料費	99,033,954円		82,361,376円		181,395,330円	
(2)給食回数と主食の内容						
項 目	東部給食センター		西部給食センター			
米飯給食	158 回		158 回			
パン給食	18 回		18 回			
麺給食	21 回		21 回			
合 計	197 回		197 回			
(3)給食費保護者負担金等徴収状況						
現年度分	調定額	169,302,487円	未納額	238,720円		
	収入額	169,063,767円	収納率	99.86%		
過年度分	調定額	1,899,936円	未納額	1,849,876円		
	収入額	50,060円	収納率	2.63%		
(4)東部・西部給食センターにおける食育推進事業						
子どもおよび保護者を対象に、食に関する指導体験学習等を通じて食育の推進に取り組みました。						
①食に関する指導体験学習(発達段階に応じた食に関する指導を实践)						
グリーンピースのさやむき体験(小学2年生12回) 味噌作り体験(小学4年生9回)						



【味噌作り体験】

## 事業の実績

- ②食に関する指導特別給食  
お鍋給食とミニバイキング(14回)、バイキング給食(6回)、お楽しみ給食(5回)
- ③保護者への食育  
親子給食での講演8回(279人)、健康教室1回、親子料理教室2回(96人)、センター見学・試食・食育6回
- ④収穫体験  
ブロッコリー収穫：山東小(3年)33人・春照小(3年)31人  
かぶ収穫：米原小(2年)69人
- ⑤食育に関する情報発信  
給食だよりなどでレシピや食育の実践の様子などを紹介しました。



【かぶの収穫】

### (5)特色ある給食

項目	東部給食センター	西部給食センター
バイキング給食	4回(中学3年生)	2回(中学3年生)
お鍋給食	7回(小学6年生)	6回(小学6年生)
季節の行事食	各月1回	各月1回
お誕生日給食		
カミカミメニュー		
日本食生活の日		
ふるさと滋賀給食の日		
セレクト給食(給食週間中)	1回(全校)	1回(全校)
郷土料理	随時	随時
地元食材の使用		
食べ物の旅給食	月1回	月1回
ニュージーランド給食	3回(6月・10月・1月)	



【バイキング給食】



【ニュージーランド給食】

※ニュージーランド給食は、ホストタウン事業の一環として実施しました。

#### 地場産物の導入の促進

JAと連携し、年間を通じた学校給食への地場産物の活用や、給食週間にも郷土料理や地場産物を献立に取り入れるなど、地産地消メニューの開発を進めました。

地場産物の活用率 32.2% (県平均活用率 29.1%)

### (6)施設の主な運営経費

- ①子どもに美味しい給食を提供するため、臨時職員を配置して直営による調理業務を実施しました。  
(臨時職員賃金(栄養士、配膳員含む。))  
東部給食センター(常勤：18人 非常勤：6人)28,706,697円  
西部給食センター(常勤：13人 非常勤：3人)21,333,120円
- ②配送業務は、米原市シルバー人材センターへの業務委託により対応しました。  
配送業務委託料 東部給食センター 10,082,880円 西部給食センター 3,032,640円

### (7)給食センター施設修繕

- ①両給食センターの厨房機器等の適正な維持管理と修繕を実施しました。  
修繕料(厨房機器、施設修繕) 3,725,028円

## 評価の内容

- (1)給食の食材については、JAと連携し安心な地場産物を積極的に取り入れ、地場産物活用率は県平均29.1%を上回る32.2%となりました。
- (2)給食メニューの多様化を図るため、月目標を定め各県の特色ある料理を給食に取り入れたり、市内の行事に合わせた給食(蛍メニューなど)、バイキング給食や特色ある給食としてお鍋給食を実施するなど、園児、児童、生徒の食への関心を高めることができました。
- (3)東部給食センター調理研修室では、施設見学、試食会や親子活動として料理教室を開催するなど、利用促進を図りました。
- (4)毎月の食に関する指導、出前授業、収穫体験等を通して食べ物の大切さを知ってもらいました。
- (5)食物アレルギーのある園児、児童、生徒の給食について、代替食・除去食の対応を徹底し、保護者・学校・センターの三者が連絡調整を密にすることで、安全な学校給食を提供することができました。
- (6)施設の適正な保守管理と修繕、衛生基準に基づく徹底した衛生管理を行い、遅滞なく安全な給食を子どもたちに届けることができました。
- (7)ホストタウン事業の一環として、ニュージーランドの食事(キウイバーガー、マトン入りミートローフ、クマラスープ)を学校給食に取り入れ、同国の食文化に触れる機会を提供することができました。

評価

B

事業番号		9									
款	10 教育費	項	6 保健体育費	目	4 学校給食費						
事業名	継続	学校給食総務管理事業			主管課	教育委員会 学校給食課					
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり									
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち									
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実									
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度						
予算額	619,000	581,000	国 費	0	0						
うち繰越	0	0	県 費	0	0						
決算額	484,617	526,966	市 債	0	0						
うち繰越	0	0	その他	0	0						
執行率(%)	78.3	90.7	一般財源	484,617	526,966						
執行率80%以下の理由(30年度) 学校給食運営委員会委員の欠席により、当該委員報酬の支出が少なかったため。			その他の内訳(30年度)								
事業コスト		事業費	人件費( 9.40 人役 )	計							
決算額		485 千円	68,357 千円	68,842 千円							
市民1人当たり( 39,138 人)		12 円	1,747 円	1,759 円							
事業の目的および内容											
給食施設および学校給食の適正かつ円滑な運営を図ります。											
事業の実績											
(1) 学校給食運営委員会を3回開催し、学校給食の運営に関する協議事項の審議、意見を求めました。 学校給食運営委員報酬 95,000円 運営委員数 17人(報酬支払対象11人)											
(2) 食物アレルギー対応検討委員会を開催し、食物アレルギーのある園児、児童、生徒への代替食や除去食の対応および次年度に向けての検討を行いました。 食物アレルギー対応検討委員会1回開催											
平成30年度の食物アレルギー対応人数 東部給食センター分 78人、西部給食センター分 56人 計134人(平成29年度：127人) (内訳：延べ数) (単位：人)											
項目	卵	牛乳	乳製品	甲殻類	魚介類	種実類	大豆	果物	野菜	小麦	その他 (牛、豚肉)
東部	30	16	9	13	11	24	1	24	4	0	0
西部	19	14	13	13	16	14	0	16	6	1	1
(3) 保護者の給食費口座振替について、各金融機関へ口座振替手数料を負担しました。 給食費保護者負担金口座振替手数料 385,617円(33,839件)											
評価の内容											
(1) 運営委員会では特に給食費改定に関する議論を深めていただき、次年度の運営委員会に向けた一定の方向性をまとめることができました。											
(2) 食物アレルギー対応検討委員会では食物アレルギーへの適切な対応を検討することにより、アレルギーのある子どもへ安心安全な学校給食を提供することができました。											
評価											
B											

事業番号		11				
款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育振興費	
事業名	継続	事務局教育振興事業			主管課	教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち				
	単位施策	地域の特性に応じた学校運営の推進				
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度	
予算額	27,542,000	32,352,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	4,235,334	2,296,000	
決算額	23,633,506	27,537,705	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	3,437,000	3,893,000	
執行率(%)	85.8	85.1	一般財源	15,961,172	21,348,705	
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)			
			米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 3,437,000円			
事業コスト		事業費	人件費( 2.80 人役 )	計		
決算額		23,634 千円	20,362 千円	43,996 千円		
市民1人当たり( 39,138 人 )		604 円	520 円	1,124 円		
児童生徒1人当たり( 3,099 人 )		7,626 円	6,571 円	14,197 円		
事業の目的および内容						
<p>(1)特色ある学校づくり事業を進め、地域に根ざした学校づくりを進めます。</p> <p>(2)地域コーディネーターを配置し、地域住民の参画により、様々な学校支援活動および協働活動を実施する学校支援地域本部事業に取り組みます。</p> <p>(3)いじめの防止、早期解決のための体制を強化するために、いじめ等対応支援員を配置するとともに、いじめ問題専門委員会、いじめ問題調査委員会の設置を行います。</p> <p>(4)就学指導委員会を設け、障がいのある幼児、児童、生徒の適切な就学先等の協議を行います。</p> <p>(5)通常学級在籍の障がいのある児童に対して、週1時間程度指導を行う通級指導教室を開催し、個々の児童の課題に応じた指導を行います。</p> <p>(6)特別支援教育総合推進事業を実施し、相談員が市内保育所、幼稚園、認定こども園、小・中学校を巡回し、障がいのある幼児、児童、生徒への支援の方法等の助言・相談を行います。</p> <p>(7)免許外指導等を解消するために中学校へ専門教科を指導する非常勤講師を派遣します。</p> <p>(8)伊吹山へ登ろう事業や森林環境学習やまのこ事業などを行い、体験活動の充実に努めます。</p> <p>(9)学校経営支援員を配置し、校長の学校経営に関わる指導助言や中堅教員の育成に取り組みます。</p> <p>(10)スクール・サポート・スタッフを配置し、教職員が健康で生き生きと仕事に取り組み、よりよい教育活動を行います。</p>						
事業の実績						
(1)特色ある学校づくり事業						
保護者や地域の人々の持つ豊かで専門的な力を取り入れ、様々な自然環境や文化的環境を教材にした地域に根ざした特色ある学校づくりを全小・中学校で進めました。特に3中学校ではコミュニティ・スクールとして、学校運営協議会を設置し、地域全体で子どもを育む先進的な取組を進めました。						
特色ある学校づくり支援事業		3,437,400円 (市内全小・中学校15校で実施)				
						
【ふるさとウォーク(伊吹山中学校)】	【花いっぱい運動(河南中学校)】	【かまどベンチ(米原中学校)】				
(2)学校支援地域本部事業						
全ての中学校区で学校支援地域本部を立ち上げ、地域コーディネーターを中心に学校のニーズに応じた支援を行いました。						
学校支援地域本部事業		2,598,205円				

## 事業の実績

- (3)いじめ対策関係事業  
いじめ等対応支援員を配置し、各校の実態把握に努めるとともに、いじめ問題専門委員会等を開催して、いじめ問題の早期発見・早期対応策や未然防止に効果的な対策などを検討し、各校に発信しました。また、中学校生徒会役員によるSTOPいじめ生徒会フォーラムを開催し、生徒提案による啓発活動について協議し、共通実践につなげました。  
いじめ等対応支援員賃金(1人) 783,975円  
いじめ問題専門委員会(8回) 10,500円  
※いじめ事案報告件数90件(平成29年度:42件、平成28年度:46件)
- (4)就学指導委員会(8回)  
医師や専門的な識見を有する教育、福祉関係者等20人が委員となる就学指導委員会を開催し、障がいのある65人(平成29年度:56人)の幼児、児童、生徒について調査、審議を行い、適切な就学先等について答申しました。  
委員報酬 60,000円
- (5)通級指導教室(かしわばら教室、まいばら教室、おおはら教室)  
86人(平成29年度:80人)の対象児童に対し、発音や発達障がいに関わる支援等、個々の児童の課題に応じた指導を行いました。また、発達検査や教育相談を実施しました。  
通級指導教室(事務費) 325,586円
- (6)特別支援教育総合推進事業  
市内保育所、幼稚園、認定こども園、小・中学校の支援が必要な幼児、児童、生徒への支援方法などについて、相談員が延べ81回(平成29年度:71回)の巡回による助言・相談等を行いました。また、学生支援員により延べ97回(平成29年度:81回)の支援を行いました。  
就学相談等 19,267円  
学生支援員報償費 87,000円
- (7)小中学校非常勤講師派遣  
教科を指導する非常勤講師を派遣し、学習指導の充実に努めました。  
小中学校非常勤講師賃金(21人) 11,398,168円
- (8)森林環境学習やまのこ事業  
森林への理解と関心を深めるとともに、人と豊かに関わる力を育むため、森林環境学習施設およびその周辺森林で体験型の学習を実施しました。  
バス借上料(小学校9校) 883,799円  
事前事後学習消耗品 138,925円
- (9)学校経営支援員の配置  
学校経営支援員が学校を訪問し、校長の学校教育目標や学校経営方針について指導助言のほか、中堅教員の授業を参観し、面談する中で求められる資質や能力について指導を行うなど、人材育成に努めました。
- (10)スクール・サポート・スタッフの配置  
スクール・サポート・スタッフを3校に6人配置しました。このことにより、働き方改革を推進し、学校教育活動を充実することができました。  
スクール・サポート・スタッフ賃金 1,258,000円

## 評価の内容

- (1)特色ある学校づくり事業により、専門的な知識や技能を持った人材を積極的に活用することができ、児童生徒の学力、生活力の向上につながりました。特にコミュニティ・スクールの取組により、保護者や地域住民が子どもたちに付けたい力を共有・熟議し、地域で子どもを育てる礎となりました。
- (2)全ての中学校区で立ち上げた学校支援地域本部事業では、地域コーディネーターを各学校に配置し、それぞれの学校で行われているボランティア活動を組織的なものとするなど、地域に根ざした魅力ある学校づくりを推進することができました。
- (3)いじめ等対応支援員の配置、いじめ問題専門委員会の実施等により、いじめの早期発見・未然防止や問題の解決につなげることができました。
- (4)就学指導委員会や相談員による巡回相談により、特別な支援が必要な児童・生徒の個々の課題に応じた指導・支援を行いました。
- (5)中学校へ専門教科を指導する非常勤講師の派遣や、少人数指導を実施し、教員が児童生徒一人一人に接する時間を増やすなど、細やかに充実した生活および学習指導の実施に努め、学力向上につなげました。
- (6)学校経営支援員の活用により、校長の学校経営者としての自覚を高めたほか、米原市の次代を担う中堅教員の資質向上を図ることができました。

評価

B

事業番号	12				
款	10 教育費	項 1 教育総務費 目 3 教育振興費			
事業名	継続 教育センター事業	主管課 教育委員会 学校教育課			
総合計画上の位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり			
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち			
	単位施策	地域の特性に応じた学校運営の推進			
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度
予算額	2,391,000	2,501,000	国 費	0	0
うち繰越	0	0	県 費	0	0
決算額	2,166,340	2,213,399	市 債	0	0
うち繰越	0	0	その他	0	0
執行率(%)	90.6	88.5	一般財源	2,166,340	2,213,399
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)		
事業コスト		事業費	人件費( 1.10 人 役 )	計	
決算額		2,166 千円	7,999 千円	10,165 千円	
市民1人当たり( 39,138 人)		55 円	204 円	259 円	
児童生徒1人当たり( 3,099 人)		699 円	2,581 円	3,280 円	
事業の目的および内容					
<p>(1)幼稚園、認定こども園、小・中学校の教職員を対象にした研修を実施し、指導力の向上に努めます。</p> <p>(2)児童・生徒の学力状況調査を行い、その結果を踏まえアクティブラーニングの手法を生かした授業改善を進めます。また、英語教育、ICT、郷土愛に関する調査研究を行います。</p>					
事業の実績					
<p>(1)幼稚園、認定こども園の保育士および保育幼稚園教諭を対象として、全職員研修1回、若手職員研修4回、就学前講座1回を実施しました。また、小・中学校の教職員を対象として、全職員研修1回、教頭研修1回、特別支援教育講座、教育法規講座、授業力アップ講座、情報教育講座、リフレッシュ講座などの希望研修を8回実施しました。小・中学校全員研修では222人の参加があり、満足度アンケートでは91%の肯定的回答を得ました。 教育センターおよび各部研修会講師謝礼 144,850円</p> <p>(2)児童・生徒の学力状況調査を5月に実施し、その分析結果をもとに、指導法の工夫改善に関する実践研究を行いました。また、小学校9校を英語科の教育課程特例校とし、市独自のカリキュラムによる1年生からの英語科の授業の在り方を研究しました。また、電子黒板やタブレットの有効な活用方法について研究し、研究発表大会の場で発表しました。 調査研究発表大会：平成31年2月14日 会場：ルッチプラザ 学力状況調査委託料 1,087,020円</p> <p>(3)教育資料の作成に関する事業 米原市教育センターだより「はぐくみ」、研究紀要「米原教育」、研究論文集の発行等 77,040円</p> <p>(4)その他 各教育関係部会補助金および負担金 621,381円</p>					
 <p>【道徳授業力アップ講座】</p>					
評価の内容					
<p>(1)教師力の向上を目指して、幼稚園、認定こども園、小・中学校の教職員に各種研修・講座を開催し、今日的課題に即した実践的な研修を行いました。</p> <p>(2)学力状況調査は、基礎的な学力の定着、思考力・判断力・表現力の育成を目指すための基礎資料として活用することができました。</p> <p>(3)教職員の専門性、指導力の向上を目標に、調査研究部会(3部会)を開催しました。部会は、英語教育、ICTを活用した授業改善、郷土愛に関する部会で、部員による調査研究を進め、成果を共有することができました。</p> <p>(4)教育研究奨励事業として92点(平成29年度：105点)の研究論文(個人、グループ)の応募があり、教職員の自主的な教育研究を進めました。</p>					
					評価
					B

事業番号	13					
款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育振興費	
事業名	継続	子どもサポート事業			主管課	教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち				
	単位施策	地域の特性に応じた学校運営の推進				
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度	
予算額	43,164,000	43,848,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	1,648,000	1,235,000	
決算額	39,866,670	41,881,504	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	0	0	
執行率(%)	92.4	95.5	一般財源	38,218,670	40,646,504	
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)			
事業コスト		事業費	人件費( 1.00 人役 )	計		
決算額		39,867 千円	7,272 千円	47,139 千円		
市民1人当たり( 39,138 人)		1,019 円	186 円	1,205 円		
児童生徒1人当たり( 3,099 人)		12,864 円	2,347 円	15,211 円		
<b>事業の目的および内容</b>						
市内小中学校における子どもケアサポーターやスクーリングケアサポーターの配置、適応指導教室の開設、教育相談の充実により、特別な支援が必要な児童生徒の個々の課題に応じた対応を行うとともに、不登校児童・生徒の学校、学級復帰に向けた支援を行います。						
<b>事業の実績</b>						
(1)学校への子どもケアサポーター派遣(子どもケアサポーター賃金 37,419,799円) 子どもケアサポーター22人を市内9小学校、6中学校に年間220日派遣しました。3人のスクーリングケアサポーターを小・中学校に年間222回(886時間)派遣しました。 ①特別な支援が必要な児童生徒363人(平成29年度:323人)に個々の課題に応じた、きめ細かな指導支援を行いました。 ②不登校傾向のある児童生徒に対して、学力や生活力の向上に向けての支援を行いました。						
(2)不登校児童・生徒に対する適応指導教室の運営(指導員賃金 2,132,910円) 適応指導教室では、7人(年度当初2人途中入級5人)の入級児童生徒を2人の指導員が週4回、年間170回の指導を行いました。そのうち、3人が学級復帰しています。また、適応指導教室への通級希望者のため体験見学の機会を設けました。						
(3)児童・生徒の心の安定を図る教育相談 こころの教育相談事業では、心理判定職員(臨床心理士)1人が4会場(セラピールーム:山東庁舎と3公民館)において、年間相談延べ回数55回、17件(平成29年度:63回、22件)の児童生徒や保護者、関係する教職員の相談を受けました。						
<b>評価の内容</b>						
(1)特別な支援を必要とする児童生徒や不登校による別室登校の児童生徒への個別支援をすることにより、心の安定を図り、学習課題に意欲を持って取り組む姿が見られるようになりました。						
(2)不登校傾向の児童生徒の保護者と学校、適応指導教室指導員、心理判定員との連携や相談を密にすることにより、適応指導教室への通所や在籍校への復帰、放課後登校等の成果が見られました。また、適応指導教室における体験や見学は、児童・生徒の自立を助けるための有効な活動となりました。						
(3)児童生徒の不登校、うつ状態や学校不適応等の様々な心配について相談対応し、ひきこもりの改善、再登校、症状の緩和、保護者の安定といった成果が見られました。						
					評価	
					B	

事業番号		14	
款	10 教育費	項	2 小学校費
		目	1 学校管理費
事業名	継続	小学校管理運営事業	
		主管課	教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち	
	単位施策	地域の特性に応じた学校運営の推進	
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)
予算額	64,087,000	67,153,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	61,424,737	64,874,826	市 債
うち繰越	0	0	その他
執行率(%)	95.8	96.6	一般財源
執行率80%以下の理由(30年度)		その他の内訳(30年度)	
		小学校共済掛金保護者負担金 857,440円	
		小学校施設使用料 279,750円	
事業コスト		事業費	人件費( 0.60 人 役 )
決算額		61,425 千円	4,363 千円
市民1人当たり( 39,138 人)		1,569 円	111 円
児童1人当たり( 2,042 人)		30,081 円	2,137 円
<p>(1)市内9小学校の児童が安心安全で質の高い教育を受けられるよう、適切な学校管理を行うとともに、児童が健やかに学校生活を過ごせるように児童、教職員の健康管理を行います。</p> <p>(2)開かれた学校づくりを一層推進するために、校長は学校評議員から意見を求めて、地域の意向を反映した地域に根ざした特色ある学校づくりを進めます。</p>			
<b>事業の実績</b>			
(1)一般管理			
小学校の児童が安心安全で質の高い教育を受け入れられるよう、適切な学校管理を行いました。			
①学校評議員報酬(45人) 430,000 円			
②光熱水費 26,367,865 円			
③通信運搬費 2,785,739 円			
④葉刈り、剪定、雪つりなどの委託料 640,482 円			
⑤事務機器使用料 1,593,564 円			
⑥臨時学校校務員賃金(8校分) 11,302,830 円			
(正規学校校務員の配置のない柏原小、山東小、大原小、伊吹小、春照小、米原小、河南小、息長小に配置)			
(2)健康管理			
小学校の児童が健やかに学校生活を過ごせるように児童、教職員の健康管理を行いました。			
①児童・教職員健康診断業務委託料 3,041,388 円			
②校医、歯科医、薬剤師報酬 3,899,730 円			
③日本スポーツ振興センター共済掛金 1,922,855 円			
④結核、心臓精密検査手数料 145,045 円			
⑤飲料水検査委託料(年1回) 92,340 円			
<b>評価の内容</b>			
(1)各学校施設、設備の適切な管理運営に努めました。			
(2)児童の健やかな学校生活の基礎となる健康診断を児童、教職員に実施し、健康管理に努めることができました。			
(3)学校評議員研修会を開き、学校と家庭・地域との連携の在り方について協議を行いました。また、学校評議員制度によって、校長が地域の声を的確に把握しながら学校経営を行うことができました。			
			評価
			<b>B</b>

事業番号	15					
款	10 教育費	項	2 小学校費	目	2 教育振興費	
事業名	継続	小学校教育振興事業			主管課	教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち				
	単位施策	地域の特性に応じた学校運営の推進				
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度	
予算額	46,037,000	44,571,000	国 費	109,000	70,000	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	45,055,428	43,130,777	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	5,326,000	2,500,000	
執行率(%)	97.9	96.8	一般財源	39,620,428	40,560,777	
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)			
			米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 5,326,000円			
事業コスト		事業費	人件費( 1.40 人 役 )	計		
決算額		45,055 千円	10,181 千円	55,236 千円		
市民1人当たり( 39,138 人 )		1,151 円	260 円	1,411 円		
児童1人当たり( 2,042 人 )		22,064 円	4,986 円	27,050 円		
<b>事業の目的および内容</b>						
<p>(1)市内9小学校の児童に対して、地域の人材を活用した教育活動や修学旅行、校外活動などの様々な体験活動、国際理解教育協力員による国際理解教育の充実を図り、心豊かでたくましく生きる力を育む教育を推進します。</p> <p>(2)確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成を目指して、より良い学習環境を整えるため、教材の整備に努めます。</p>						
<b>事業の実績</b>						
<p>(1)修学旅行や校外活動に対する補助等を行い、教育の振興に努めました。 修学旅行、校外活動補助金 1,572,518 円</p> <p>(2)市内の小学校に国際理解教育協力員(3人)を配置し、外国の言語や文化に関心が持てるような学習活動を展開するなど、外国語活動、国際理解教育の推進を図りました。小学校の枠を超えて、英語に触れ合う機会として、イングリッシュフェスを実施しました。 国際理解教育推進事業 13,415,679 円</p> <p>(3)より良い学習環境を整えるため教材備品を購入しました。 ICT機器の充実のため、小学校4年生の全ての教室にテレビ型電子黒板1台を配備し、算数と理科のデジタル教科書とともに活用できるようにしました。また、理科備品については、国庫補助を受け充実を図りました(理科備品の全国平均充足率52.3% 米原市平均充足率52.5%)。 理科教材備品 220,089 円 電子黒板15台、パソコン9台 13,144,626 円 デジタル教科書(2教科) 1,166,400 円</p> <p>(4)各学校の教育目標を達成するために、校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度を実施し、学校の状況に応じた執行を行いました。 授業力向上を目的とした書画カメラ、プロジェクター等のICT機器の導入や先進地研修、体力向上を目的とした体育備品整備等、各校の実状、教育目標に合わせた取組を全ての小学校で実施しました。 学校経営予算制度 1,926,314 円</p> <p>(5)各小学校教育振興費 校内研究会、総合学習、スキー教室など講師謝礼 432,850 円 理科実験用消耗品等 8,577,615 円 児童用図書等 1,473,516 円</p>						
 <p style="text-align: right;">【イングリッシュフェス】</p>						
 <p style="text-align: right;">【ICTを活用した授業】</p>						
<b>評価の内容</b>						
<p>(1)教育活動を充実するために必要な経費の支出や補助を行うことで、各校の教育目標の実現に向けた取組を展開することができました。また、校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度により、各学校の実状に応じた環境改善や、校長の思いを込めた学校経営を支援することができました。</p> <p>(2)国際理解教育協力員により、5年生、6年生の外国語活動に加え、1年生から4年生までの外国語活動を行い、児童の外国語や異文化に対する理解を深めることができました。また、英語科の教育課程特例校においては、小学校1年生から独自のカリキュラムによる英語教育を実施しました。さらに、イングリッシュフェスでは、2回合計61人の児童が生英語に触れる機会を持つことができました。</p> <p>(3)ICT機器の充実を図り、学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む授業改善が進みました。</p>						
					評価 <b>B</b>	

事業番号		16	
款	10 教育費	項	3 中学校費
		目	1 学校管理費
事業名	継続	中学校管理運営事業	
		主管課	教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち	
	単位施策	地域の特性に応じた学校運営の推進	
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)
予算額	44,185,000	46,271,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	41,773,565	45,575,700	市 債
うち繰越	0	0	その他
執行率(%)	94.5	98.5	一般財源
執行率80%以下の理由(30年度)		その他の内訳(30年度)	
		中学校共済掛金保護者負担金 440,220円	
		中学校施設使用料 610,900円	
事業コスト		事業費	人件費( 0.60 人 役 )
決算額		41,774 千円	4,363 千円
市民1人当たり( 39,138 人)		1,067 円	111 円
生徒1人当たり( 1,057 人)		39,521 円	4,128 円
事業の目的および内容			
(1)市内6中学校の生徒が安心安全で質の高い教育が受けられるよう、適切な学校管理を行うとともに子どもたちが健やかに学校生活を過ごせるよう生徒、教職員の健康管理を行います。			
(2)開かれた学校づくりを一層推進するために、校長は学校評議員から意見を求めて、地域の意向を反映した地域に根ざした特色ある学校づくりを進めます。			
事業の実績			
(1)一般管理			
中学校の生徒が安心安全で質の高い教育を受けられるよう、適切な学校管理を行いました。			
①学校評議員報酬(30人) 290,000 円			
②光熱水費 19,425,836 円			
③通信運搬費 1,902,493 円			
④葉刈り、剪定などの委託料 583,685 円			
⑤事務機器使用料 1,324,499 円			
⑥臨時学校校務員賃金(4校分) 5,766,450 円			
(正規学校校務員の配置のない柏原中、伊吹山中、河南中、双葉中に配置)			
(2)健康管理			
中学校の生徒が健やかに学校生活を過ごせるように生徒、教職員の健康管理を行いました。			
①生徒、教職員健康診断業務委託料 3,183,861 円			
②校医、歯科医、薬剤師報酬 2,200,640 円			
③日本スポーツ振興センター共済掛金 993,830 円			
④結核、心臓精密検査手数料 82,080 円			
⑤飲料水検査委託料(年1回) 61,560 円			
評価の内容			
(1)各学校施設、設備の適切な管理運営に努めました。			
(2)生徒の健やかな学校生活の基礎となる健康診断を生徒、教職員に実施し、健康管理に努めることができました。			
(3)学校評議員研修会を開き、学校と家庭・地域との連携の在り方について協議を行いました。また、学校評議員制度によって、校長が地域の声を的確に把握しながら学校経営を行うことができました。			
			評価
			B

事業番号	17				
款	10 教育費	項	3 中学校費	目	2 教育振興費
事業名	継続 中学校教育振興事業	主管課			教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり			
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち			
	単位施策	地域の特性に応じた学校運営の推進			
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度
予算額	44,537,000	43,512,000	国 費	32,000	100,000
うち繰越	0	0	県 費	939,000	730,000
決算額	42,228,966	40,956,316	市 債	0	0
うち繰越	0	0	その他	7,198,000	3,948,000
執行率(%)	94.8	94.1	一般財源	34,059,966	36,178,316
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)		
			米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 7,198,000円		
事業コスト		事業費	人件費(1.00人役)	計	
決算額		42,229 千円	7,272 千円	49,501 千円	
市民1人当たり(39,138人)		1,079 円	186 円	1,265 円	
生徒1人当たり(1,057人)		39,952 円	6,880 円	46,832 円	
<b>事業の目的および内容</b>					
<p>(1)市内6中学校の生徒に対して、地域人材を活用した教育活動や修学旅行、校外活動等の体験活動、部活動の公式大会参加への補助等を行い、心豊かでたくましく生きる力を育む教育を推進します。</p> <p>(2)確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成に向けた学習環境を整えるため、教材の整備に努めます。</p>					
<b>事業の実績</b>					
<p>(1)修学旅行、校外活動および部活動の公式大会参加に対する補助等を行い、教育の振興に努めました。 修学旅行、校外活動補助金、生徒派遣補助金 7,743,500 円</p> <p>(2)市内の中学校に外国語指導助手(4人)を配置し、外国の言語や文化に関心が持てるような学習活動を展開するなど英語学習の推進を図りました。 外国語指導助手配置事業 16,866,340 円</p> <p>(3)より良い学習環境を整えるため教材備品を購入しました。ICT機器の充実のため、テレビ型の電子黒板を1年生のフロアに1台と数学と理科のデジタル教科書を配備しました。また、理科備品については、国庫補助を受け、充実を図りました。 (理科備品の全国平均充足率30.4% 米原市平均充足率30.5%) 理科教材備品 64,800円 電子黒板(8台) 3,870,720 円 デジタル教科書(3教科) 1,283,040 円</p> <p>(4)各学校の教育目標を達成するために、校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度を実施し、学校の状況に応じた執行が可能となりました。授業力向上を目的とした書画カメラ、プロジェクター等ICT機器の導入、各校の実状、教育目標に合わせた取組を全ての中学校で実施しました。 学校経営予算制度 1,278,471 円</p> <p>(5)各中学校教育振興費 総合学習、校内研究会など講師謝礼 127,700 円 教材プリント用印刷用紙等 6,141,097 円 生徒用図書 1,041,788 円</p> <p>(6)その他主な経費 部活動指導員 590,400 円 自尊感情・学びの礎育成プロジェクト 300,000 円 (米原、河南学区) 中学2年生職場体験活動キャリア教育経費 375,408 円</p>					
				 <p>【ALTの英語学習】</p>	
				 <p>【ICTを活用した授業】</p>	
				 <p>【職場体験学習(伊吹山中学校)】</p>	
<b>評価の内容</b>					
<p>(1)教育活動を充実するための必要な経費の支出や補助を行うことで、各校の教育目標の実現に向けた取組を展開することができました。特に、部活動では、全国大会出場などの成果を上げてくれました。また、校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度により各学校の実状に応じた環境改善、校長の思いを込めた学校経営を支援することができました。</p> <p>(2)外国語指導助手により、生徒の外国語や異文化に対する理解を深めることができました。</p> <p>(3)ICT機器の充実を図り、学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む授業改善が進みました。</p>					
					評価
					B

事業番号	18					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費	
事業名	継続	社会教育総務事業			主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち				
	単位施策	家庭・地域の教育力の強化				
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度	
予算額	864,000	866,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	768,778	854,694	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	0	0	
執行率(%)	89.0	98.7	一般財源	768,778	854,694	
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)			
事業コスト		事業費	人件費( 1.08 人役 )	計		
決算額		769 千円	7,854 千円	8,623 千円		
市民1人当たり( 39,138 人)		20 円	201 円	221 円		
<b>事業の目的および内容</b>						
<p>(1)社会教育行政に対して専門家や市民の意見を取り入れるため、社会教育委員会議を開催します。</p> <p>(2)家庭の教育力向上のため、「まいふあみカフェ」を開催するほか、広報まいばら、伊吹山テレビなどを活用し市全域に啓発を行います。</p> <p>(3)市民の生涯学習活動を支援するとともに、学んだ成果を生かして活動できる場の提供を行い、地域人材(講師)と市民をつなぐコーディネーターの役割を果たします。</p>						
<b>事業の実績</b>						
<p>(1)社会教育委員会議 (社会教育委員 12人) 報酬 245,000円 市の社会教育事業および生涯学習事業の課題検討を行い、事業の質的向上に努めました。</p> <p>①定例会議の開催(4回)テーマ：公民館と地域コミュニティ 今後の公民館の方向性について、他市の視察研修も実施しながら議論していただきました。</p> <p>②本市委員と他市委員の意見交換会や共同研修を行いました。</p>						
<p>(2)家庭の教育力向上事業 子育て世帯の集まる場所に向いて、「まいふあみカフェ」を開催し、子育てに関する悩みや疑問をワークショップ等により親同士が交換できる交流の場を設けました。</p> <p>第1回 平成30年10月3日 参加者12人 第2回 平成30年10月11日 参加者15人 第3回 平成30年11月7日 参加者21人</p>						
<p>(3)出前講座事業 市民の依頼に応じて市職員等が講師となり、市民生活や生涯学習の推進に役立つ情報を届け、学んでいただきました。</p> <p>利用実績：246回(平成29年度 268回 対前年度増減率▲8.2%) メニュー数：150講座(平成29年度 124講座 対前年度増減率+20.9%)</p>						
<p>(4)まなびサポーター事業 学んだ成果を生かし、市民が指導者(支援者)としてまちづくりや人づくりに取り組んでいただく制度の運用を行いました。</p> <p>まなびサポーター登録総数：216人 利用実績：81回 (平成29年度 92回 対前年度増減率▲11.9%)</p>						
<p>(5)米原市女性の会活動事業補助 349,608円 女性の社会活動への参加推進を図るため、米原市女性の会に対し、事業費補助を行いました。</p>						
<b>評価の内容</b>						
<p>(1)社会教育委員会議では、平成29、30年度にわたり地域にとって最も身近な公共施設である公民館について「公民館と地域コミュニティ」をテーマに議論を重ね、公民館の在り方について方向を取りまとめ提言をいただきました。</p> <p>(2)家庭の教育力向上事業では、「まいふあみカフェ」を実施し、子育て世帯に対して家庭の教育力向上に向けた啓発を行うことができました。</p> <p>(3)出前講座、まなびサポーター事業を展開し、市民の学びの機会の充実を図ることができました。</p>						
					評価	
					C	



【まいふあみカフェ】

事業番号		19	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
		目	1 社会教育総務費
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	一人一人が尊重され平和を大切にすま	
	単位施策	人権文化・人権教育の推進	
事業名	継続	人権教育推進事業	主管課
			教育委員会 生涯学習課
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)
予算額	1,445,000	1,429,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	1,227,168	1,379,032	市 債
うち繰越	0	0	その他
執行率(%)	84.9	96.5	一般財源
執行率80%以下の理由(30年度)		その他の内訳(30年度)	
		人権教育推進協議会等事業助成金 243,000円	
事業コスト		事業費	人件費( 1.25 人役 )
決算額		1,227 千円	9,090 千円
市民1人当たり( 39,138 人)		31 円	232 円
計			
10,317 千円			
263 円			
事業の目的および内容			
(1)人権尊重、人権擁護が確立される明るく住みよいまちづくりの実現を目指し、米原市人権教育推進協議会と連携しながら、各種研修会、人権講座を実施します。			
(2)地域の人権課題の早期解決のため、ハートフル・フォーラム(地区別懇談会)を推進します。			
事業の実績			
(1)米原市人権教育推進協議会の活動支援および事業推進を行いました。			
①活動事業費に対する補助 1,188,748円			
②地域人権リーダー研修会			
ハートフル・フォーラムの説明会を兼ね、平成30年度のテーマである「障がい者の人権問題」に沿った内容の研修会を開催しました。			
開催日：平成30年8月3日			
場所：市民交流プラザ 参加人数：238人(平成29年度 264人)			
内容：ハートフル・フォーラムの実施方法の説明、平成30年度テーマに関する人権啓発教材視聴 ハートフル・フォーラムの実践事例発表			
③きらめき人権講座(4回シリーズ)の開催			
開催日	テーマ	講師	参加人数
7月27日	人権文化豊かなまちづくりに向けて ～阪神・淡路大震災が教えたもの～	中尾由喜雄さん	59人
8月31日	女性のエンパワメント ～各国の取組・日本の取組～	大西祥世さん	63人
9月25日	多文化共生の地域づくり ～外国につながる人びとを地域の力に～	池上重弘さん	61人
10月16日	新しい部落史とこれからの人権・同和問題	灘本昌久さん	58人
④ハートフル・フォーラムの自治会での開催			
平成30年度推奨テーマ 障がい者の人権問題			
ハートフル・フォーラムが各自治会で開催されました。			
78自治会で開催(開催率：72.9%) 2,377人 (平成29年度 85自治会、2,510人)			
⑤人権を考えるつどい(人権政策課と共催)			
テーマ：～共に生きる～子育てから学んだこと 講師：金澤泰子さん			
開催日：平成30年11月25日 場所：米原公民館 参加人数：375人(平成29年度 202人)			
(2)同和教育推進本部研修会			
差別解消三法の基礎知識を身に付けるため、市職員、教職員を対象に研修会を開催しました。			
テーマ：部落差別解消推進法の具現化にむけて			
～人を差別しなくても生きていけるために部落差別解消推進法制定に思うこと～			
講師：山崎真由子さん			
開催日：平成31年2月14日 場所：山東庁舎 参加人数：40人(平成29年度 43人)			
評価の内容			
(1)地域人権リーダー研修会やきらめき人権講座等を開催し、市民の人権意識、人権感覚の向上に努め、それぞれの立場で活躍いただける人権リーダーの育成を行うことができました。			評価 D
(2)主体的な学習の場であるハートフル・フォーラムを推進し、市民に人権学習の機会を提供することができました。			

事業番号		20																											
款	10 教育費	項	5 社会教育費																										
		目	1 社会教育総務費																										
事業名	継続 地域人材育成事業	主管課	教育委員会 生涯学習課																										
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり																											
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち																											
	単位施策	学びを生かした人材育成の推進																											
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度																								
予算額	841,000	478,000	国 費	0	0																								
うち繰越	0	0	県 費	104,000	0																								
決算額	574,706	472,451	市 債	0	0																								
うち繰越	0	0	その他	220,000	220,000																								
執行率(%)	68.3	98.8	一般財源	250,706	252,451																								
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)																										
<p>予定していた講師謝礼が、他事業との共催等により支出を抑えられたため。</p>			<p>社会教育事業関係受講料 220,000円</p>																										
事業コスト		事業費	人件費( 0.65 人 役 )	計																									
決算額		575 千円	4,727 千円	5,302 千円																									
市民1人当たり( 39,138 人)		15 円	121 円	136 円																									
学生1人当たり( 22 人)		26,136 円	214,864 円	241,000 円																									
事業の目的および内容																													
<p>ルッチまちづくり大学は、「地域に根ざす。幸せになる。」をコアコンセプトに人を育てる市民カレッジです。市民の自発的に学び続ける意欲に応え、楽しく学びながら、自ら考え、話し合い、それを踏まえて力強く行動できる“人財”を3年間で育成します。</p> <p>また、市民立大学(地域の教育の主体者として市民がつくる学びの場という意味)を目指し、卒業生と行政が対等な立場で協働運営するルッチみらい会議で講座の内容等を検討し、多様な主体と連携しながら事業効果を高めていきます。</p>																													
事業の実績																													
<p>(1)ルッチまちづくり大学(8・9期生) 【22回開講(前年度比▲5回)】  将来の仲間づくりを目指したグループ学習方式の事例研究と、現場調査やイベント参画などのフィールドワークをバランスよく配置し、効果的なカリキュラムを展開しました。  【8期生(17人)：9月卒業、9期生(22人)：10月入学】</p> <p>(2)公開講座の開催【5回開催(平成29年度7回)】  ルッチまちづくり大学の広報、成果の市民還元を目的に開催しました。  各自の気づきを共有する機会を取り入れること、多様な主体と共催することを意識しました。</p>																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th colspan="2">講師</th> <th>テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月9日</td> <td>田中元子さん</td> <td>株式会社グランドレベル 代表取締役</td> <td>公共空間をみんなで使おう</td> </tr> <tr> <td>9月1日</td> <td>谷口嘉之さん</td> <td>ルッチまちづくりネット 代表</td> <td>教育旅行について考えよう</td> </tr> <tr> <td>9月8日</td> <td>三浦文典さん</td> <td>設計事務所 スターパイロッツ代表</td> <td>都市公園について考えよう</td> </tr> <tr> <td>1月20日</td> <td>影山知明さん</td> <td>クルミドコーヒー 胡桃堂喫茶店店主</td> <td>まちづくり人材の森集会</td> </tr> <tr> <td>3月7日</td> <td>村上修一さん</td> <td>滋賀県立大学教授</td> <td>もし米原東口に自由に使える公園があったら何する？</td> </tr> </tbody> </table>						開催日	講師		テーマ	6月9日	田中元子さん	株式会社グランドレベル 代表取締役	公共空間をみんなで使おう	9月1日	谷口嘉之さん	ルッチまちづくりネット 代表	教育旅行について考えよう	9月8日	三浦文典さん	設計事務所 スターパイロッツ代表	都市公園について考えよう	1月20日	影山知明さん	クルミドコーヒー 胡桃堂喫茶店店主	まちづくり人材の森集会	3月7日	村上修一さん	滋賀県立大学教授	もし米原東口に自由に使える公園があったら何する？
開催日	講師		テーマ																										
6月9日	田中元子さん	株式会社グランドレベル 代表取締役	公共空間をみんなで使おう																										
9月1日	谷口嘉之さん	ルッチまちづくりネット 代表	教育旅行について考えよう																										
9月8日	三浦文典さん	設計事務所 スターパイロッツ代表	都市公園について考えよう																										
1月20日	影山知明さん	クルミドコーヒー 胡桃堂喫茶店店主	まちづくり人材の森集会																										
3月7日	村上修一さん	滋賀県立大学教授	もし米原東口に自由に使える公園があったら何する？																										
<p>(3)卒業生の活動支援、ネットワーク強化  卒業生を中心とした市民協働事業団体「MatteMatteまいばら委員会」を支援し、ネットワークの強化を図りました。</p>																													
評価の内容																													
<p>(1)多様な講師による少人数講義で、受身ではなく、自発的な学習、実践活動を促すことができました。</p> <p>(2)フィールドワークを通じて、現場を知り、学生同士の横の連携が進展しました。</p> <p>(3)公開講座は、成果を市民に還元し、まちづくりの機運を高めることにつながりました。</p> <p>(4)多様な主体とのネットワークが広がり、事業展開の基盤を強固にすることができました。</p>																													
					評価																								
					C																								

事業番号	21					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費	
事業名	継続	文化のまちづくり事業			主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	誇りと愛着のある地域文化を守り生かし伝えるまち				
	単位施策	文化・芸術の振興				
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度	
予算額	4,252,000	4,119,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	4,090,608	4,059,591	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	143,626	351,324	
執行率(%)	96.2	98.6	一般財源	3,946,982	3,708,267	
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)			
			市展出品参加料	129,000 円		
			市展後援金収入	14,626 円		
事業コスト		事業費	人件費( 1.05 人 役 )	計		
決算額		4,091 千円	7,636 千円	11,727 千円		
市民1人当たり( 39,138 人)		105 円	195 円	300 円		
<b>事業の目的および内容</b>						
(1)芸術を創造し、鑑賞する喜びを享受し、文化の薫り高いまちづくりを目指して、米原市芸術展覧会を開催します。						
(2)市民の芸術文化の振興を図るため、米原市文化協会の活動事業に対する支援を行います。						
<b>事業の実績</b>						
(1)米原市芸術展覧会の開催 1,229,052円						
①芸術展覧会企画会議の開催(年間5回) 平成30年度の企画検討および令和元年度の美術部門の春季開催に向けた企画と準備を行いました。						
②美術部門展覧会 会期：平成30年10月6日～14日 場所：近江はにわ館 出品数：絵画部門 85点、彫刻・工芸部門 32点、書部門 33点、写真部門 97点 合計 247点(うち市内在住者出品数 77点) (平成29年度 248点)						
③音楽部門最終審査発表会 開催日：平成30年12月1日 場所：市民交流プラザ 出品数：77点 (平成29年度 99点)						
(2)音楽でまちづくり事業 499,932円						
①作詞・作曲教室の実施 米原小学校5年生2クラス(56人)にて実施 一般公募 小学1年生から中学1年生まで(5組)にて実施						
②楽譜集の作成、芸術展覧会音楽部門に出品 米原小学校13作品、一般公募1作品						
(3)米原市文化協会事業補助金 2,361,624円						
①米原市文化協会 会員数：941人、団体数：76団体(平成31年3月31日現在)						
②各支部の支援、部会交流活動 4支部の活動に対する補助を行い、部会の交流促進のため芸能発表会と作品展を開催しました。						
③機関誌「天ノ川」の発行 機関誌を全戸配布し、文化協会所属団体の活動内容の紹介および入会へのPRを行いました。						
<b>評価の内容</b>					評価 <b>C</b>	
(1)総出品数は昨年度と同水準となっており、市内で本展覧会が定着してきています。また、他府県からの出品もあり、レベルの高い展覧会に成長してきました。						
(2)文化協会では、4支部(山東支部、近江支部、米原支部、伊吹支部)における文化祭の開催や部会間の交流事業などを行い、文化振興に貢献することができました。						



【第13回芸術展覧会】

事業番号	22					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費	
事業名	継続	市民交流プラザ管理運営事業			主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	誇りと愛着のある地域文化を守り生かし伝えるまち				
	単位施策	文化・芸術の振興				
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度	
予算額	52,071,000	58,432,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	50,544,414	58,413,031	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	10,847,412	10,926,314	
執行率(%)	97.1	100.0	一般財源	39,697,002	47,486,717	
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)			
			市民交流プラザ施設等使用料	3,368,850 円		
			市民交流プラザラウンジ共益費	120,000 円		
			市民交流プラザ管理経費負担金	4,534,877 円		
			市民交流プラザ自主事業入場料	2,564,534 円		
			りれーピアノ参加者負担金	102,000 円		
			私用消耗品・印刷等諸収入	157,151 円		
事業コスト		事業費	人件費( 1.90 人役 )	計		
決算額		50,544 千円	13,817 千円	64,361 千円		
市民1人当たり( 39,138 人)		1,291 円	353 円	1,644 円		
<b>事業の目的および内容</b>						
<p>(1)市民交流プラザ(ルッチプラザ)は、市民の文化活動、生涯学習、健康福祉サービスを通じて様々な交流ができる市民協働活動の拠点施設としての機能の充実を目指し、自主事業および貸館業務の質的向上に努めます。</p> <p>(2)ベルホール310は、県内屈指の音楽専門ホールである特徴を生かして、文化情報の発信拠点として重要な地域資源であるという認識の下、地域の音楽文化の向上を目指し、中学生吹奏楽部ワークショップ、りれーピアノ発表や自主公演などを企画し、実施します。</p> <p>(3)市民交流プラザの施設や設備の適切な維持管理に努め、経年劣化に伴う設備の改修や修繕を行い、利用者の利便性の向上を図ります。</p>						
<b>事業の実績</b>						
市民交流プラザの管理運営および自主企画事業を実施しました。						
(1)管理運営						
①臨時職員賃金(3人分)		4,538,880 円				
②燃料費、光熱水費(電気、ガス、水道、下水道代)		17,996,276 円				
③管理委託料(清掃、機械設備保守点検、夜間管理代行)		11,529,362 円				
④公演委託料		7,496,832 円				
⑤施設修繕費(非常灯バッテリー交換等)		2,329,403 円				
⑥その他(印刷、通信運搬費、使用料、補助金等)		4,407,474 円				
(2)自主事業(公演事業)						
①年間15回の事業実施(平成29年度20回)						
入場者数 3,282人(平成29年度5,238人 対前年度増減率▲37.3%)						
②入場料収入 2,564,534円(平成29年度2,836,062円)						
No.	開催日	イベント名			入場者数(人)	
1	4月21日	森のオペラ劇場「魔笛の世界」			230	
2	5月20日	あのことろVol4			210	
3	7月22日	声優トークショー			264	
4	7月25日	映画「ゆずり葉の頃」			76	
5	8月4日	じゃんぐるっち			300	
6	8月11日、12日	第36回 りれーピアノ発表会			142	
7	8月22日～24日	中学生吹奏楽部ワークショップおよび成果発表			181	
8	8月31日	ジャズトライアングル			95	
9	9月9日	ガッキーとゆかいな仲間たち			135	
10	10月6日	AUN Jクラシックコンサート			170	

## 事業の実績

11	11月17日	人形劇「はれときどきぶた」(ホールサポーター企画事業)	150
12	11月18日	エンジョイ・ザ・クラシックコンサート	480
13	12月15日	東儀秀樹 溝口肇 コンサート	333
14	3月21日	今井菜名子 リサイタル	320
15	3月23日、24日	第37回 りれーピアノ発表会	196

### (3)貸館事業

平成30年度ホール利用件数(貸館) 191回 利用者数(貸館) 17,057人

(平成29年度ホール利用件数(貸館) 198回 利用者数(貸館) 17,949人 対前年度増減率▲5.0%)

### (4)ルッチプラザ・ベルホール310稼働率

	開館 日数	ホール		スタジオ	
		稼働日数	稼働率(%)	稼働日数	稼働率(%)
4月	26	13	50.0	8	30.8
5月	26	18	69.2	5	19.2
6月	26	22	84.6	9	34.6
7月	26	19	73.1	13	50.0
8月	27	18	66.7	11	40.7
9月	26	12	46.2	11	42.3
10月	26	17	65.4	12	46.2
11月	26	18	69.2	16	61.5
12月	24	16	66.7	13	54.2
1月	24	7	29.2	7	29.2
2月	24	14	58.3	8	33.3
3月	27	17	63.0	9	33.3
合計	308	191	62.0	122	39.6
平成29年度	308	198	64.3	133	43.2

### (5)ベルホール310サポーターミーティング活動事業補助 700,000円

- ①自主事業公演の運営協力
- ②サポーター企画、人形劇「はれときどきぶた」の実施
- ③じゃんぐるっちの企画運営協力(8月4日に全館タイアップの夏祭りイベントとして実施)

### (6)じゃんぐるっち開催 参加者 約300人

夏祭りじゃんぐるっちを実施しました。健康推進員の手作りスイーツ配布、映画上映、模擬店、デイサービスセンターのお楽しみコーナーなどイベントを開催し、市内の親子を中心に夏休みの一時を過ごす場を提供しました。



【はれときどきぶた】

### (7)中学生吹奏学部ワークショップ開催 参加者 181人 1,548,072円

プロの指導者による実演指導、そして指導者と共演をし、本物の音楽を身近に触れる機会を提供することにより、技術向上や演奏の素晴らしさを養いました。



【AUN J クラシックコンサート】

## 評価の内容

(1)共催事業を拡充したことで市予算の負担額を抑えて、年間15回の公演事業を行いました。例年定期的に実施している事業が定着してきたことによって、利用者に広く、文化や芸術に触れる機会を提供し、文化の振興を図ることができました。また、りれーピアノや中学生吹奏楽部ワークショップ事業継続の結果として、ピアノの練習による平日利用が定着しました。

(2)運営に当たっては、ベルホール310サポーターミーティング組織とともに協働して実施することができました。ルッチプラザの夏祭りじゃんぐるっちでは、サポーターミーティング以外にも、デイサービスセンター、推進員、文化協会所属団体、警察署、消防署、税務署など、各方面からの参画を得て開催することができ、多くの親子連れや地域の子もたちが来館して、市民交流の場を創出することができました。

(3)施設の修繕を計画的に実施し、ピアノ庫空調修繕、ホール照明調光装置修繕等を行ったことにより、利用者の利便性や安全性が高まりました。

評価

C

事業番号	23					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費	
事業名	継続	伊吹薬草の里文化センター管理運営事業			主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち				
	単位施策	学びの場づくりの推進				
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度	
予算額	112,260,000	72,452,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	111,664,682	72,444,858	市 債	48,800,000	0	
うち繰越	0	0	その他	0	10,000,000	
執行率(%)	99.5	100.0	一般財源	62,864,682	62,444,858	
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)			
事業コスト		事業費	人件費( 0.25 人役 )	計		
決算額		111,665 千円	1,818 千円	113,483 千円		
市民1人当たり( 39,138 人)		2,853 円	46 円	2,899 円		
利用者1人当たり( 78,287 人)		1,426 円	23 円	1,449 円		
<b>事業の目的および内容</b>						
市民の生涯学習やサークル活動を支援するために、研修室、図書室、薬草風呂、薬草園、ジョイホールなどを備えた施設である伊吹薬草の里文化センターの管理運営について、市民がより利用しやすい施設運営を目指し、指定管理者による施設の運営を行います。						
<b>事業の実績</b>						
(1)指定管理者により、施設の管理および各種事業の展開を行いました。						
伊吹薬草の里文化センター指定管理委託料 51,571,000円						
指定管理者：(公財)伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団						
利用者数：50,322人(平成29年度 46,184人 対前年度増減率 +9.0%)						
うち ホール：6,190人(平成29年度 5,804人 対前年度増減率+6.7%)						
公民館講座：28種類 延べ68回開講						
ホール事業：コンサート事業、キッズフェス ほか						
薬草の里フェス、夏まつり息吹の奏 ほか						
薬草風呂、薬草園、いぶき図書室の管理運営						
薬草風呂利用者：27,965人(平成29年度 29,843人 対前年度増減率▲6.3%)						
(2)施設設備修繕事業 5,632,982円						
排煙装置修繕工事 1,271,160 円						
非常用照明取替工事 745,200 円						
漏水修繕工事 外23件 3,616,622 円						
(3)施設改修事業 54,259,200円						
空調設備改修工事 53,449,200 円						
同工事施工監理業務 810,000 円						
						
				【空調設備改修工事】		
<b>評価の内容</b>						
(1)公民館をはじめ、ホール、薬草風呂、いぶき図書室、薬草園などを有した複合施設として、地域の特色を生かし、伊吹山や薬草の里にふさわしい事業を含め、子どもから高齢者まで誰もが参加しやすい幅広い事業を実施することで、地域文化の振興や生涯学習の機会の提供が出来ました。						
(2)施設の修繕や改修を行ったことにより、利用者の利便性や安全性が高まりました。						
					評価 <b>C</b>	

事業番号	24					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費	
事業名	継続	生涯学習センター管理運営事業			主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち				
	単位施策	学びの場づくりの推進				
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度	
予算額	4,997,000	11,241,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	4,721,901	11,237,090	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	243,693	1,060,206	
執行率(%)	94.5	100.0	一般財源	4,478,208	10,176,884	
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)			
			管理経費負担金	35,398円		
			施設使用料	149,900円		
			コピー・印刷機使用料	58,395円		
事業コスト		事業費	人件費( 0.25 人 役 )	計		
決算額		4,722 千円	1,818 千円	6,540 千円		
市民1人当たり( 39,138 人)		121 円	46 円	167 円		
事業の目的および内容						
市民の生涯学習活動拠点である生涯学習センターの維持管理、利用者対応を行います。						
事業の実績						
山東生涯学習センター						
市直営による貸館業務、施設の管理運営を行いました。						
①施設維持管理業務						
管理業務委託料：3,276,240円（米原市シルバー人材センター）						
機械警備業務委託料：207,360円						
消防設備保守点検等：81,000円						
定期清掃業務委託料：99,738円						
事業：貸館業務、施設管理運営						
②利用人数：3,095人(平成29年度 5,530人 対前年度増減率▲44.0%)						
※平成31年3月31日をもって生涯学習機能を廃止しました。						
評価の内容						
施設の維持管理および貸館業務を行うことで、地域住民の身近な学びの場を提供することができました。					評価 B	



【山東生涯学習センター】

事業番号	25					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 青少年育成費	
事業名	継続	次代を担う青少年育成事業			主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち				
	単位施策	学びを生かした人材育成の推進				
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度	
予算額	901,000	769,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	805,338	736,257	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	0	0	
執行率(%)	89.4	95.7	一般財源	805,338	736,257	
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)			
事業コスト		事業費	人件費( 0.36 人役 )	計		
決算額		805 千円	2,618 千円	3,423 千円		
市民1人当たり( 39,138 人)		21 円	67 円	88 円		
新成人1人当たり( 443 人)		1,817 円	5,910 円	7,727 円		
<b>事業の目的および内容</b>						
新成人の明るい未来と今後の地域貢献を願い、地域全体で新成人を祝福する場として成人式を開催します。						
<b>事業の実績</b>						
<p>新成人の家族や恩師など関係者が一堂に会して祝福する場として、また感謝の気持ちを伝え今後の人生への希望や決意とともに、郷土愛や社会貢献について認識してもらう場として、成人式を開催しました。新成人者の有志により実行委員会を組織し、企画運営を行いました。オープニングアトラクション、二十歳のメッセージ、思い出アルバム、交歓会等の企画について、新成人がアイデアを出し合いながら、自分たちの成人式を創り上げました。</p> <p>実行委員会の開催 4回開催 実行委員23人</p> <p>成人式の開催 日時：平成31年1月13日 場所：県立文化産業交流会館  対象者数：443人（平成29年度479人 対前年度増減率▲7.5%）  参加人数：352人（平成29年度376人 対前年度増減率▲6.4%）  参加率：79.5%（平成29年度78.5% 対前年度増減+1.0ポイント）</p> <p>式典内容  1 オープニングアトラクション  2 市長式辞  3 来賓祝辞  4 二十歳のメッセージ（新成人代表）  5 思い出アルバムの上映  6 記念写真撮影  7 交歓会</p>						
						
<b>評価の内容</b>						
<p>(1)新成人の有志が主体となって成人式の企画を行い、成人式を開催することができました。新成人にとって、今後の人生への希望や決意を深く考える機会となりました。</p> <p>(2)手話通訳、要約筆記、託児支援、大きな文字による案内表示、色による新成人誘導、事前の出欠報告はがきによる必要支援の把握など様々な合理的配慮を行い、誰もが参加しやすく、また、他者への思いやりについて考えることができる式典運営を行うことができました。</p>						
					評価 <b>C</b>	

事業番号	26					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	3 公民館費	
事業名	継続	公民館管理運営事業			主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち				
	単位施策	学びの場づくりの推進				
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度	
予算額	96,727,000	111,824,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	8,263,000	県 費	0	0	
決算額	96,318,609	110,588,905	市 債	0	0	
うち繰越	0	7,230,600	その他	0	7,230,600	
執行率(%)	99.6	98.9	一般財源	96,318,609	103,358,305	
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)			
事業コスト		事業費	人件費( 1.03 人 役 )	計		
決算額		96,319 千円	7,490 千円	103,809 千円		
市民1人当たり( 39,138 人)		2,461 円	191 円	2,652 円		
利用者1人当たり( 106,183 人)		907 円	71 円	978 円		
<b>事業の目的および内容</b>						
<p>(1)公民館は、地域住民の身近な学びの場として、生涯を通じて学び続ける意欲に応え、地域づくりやコミュニティ活動の拠点としての役割も果たしながら、地域の活性化を図っています。</p> <p>(2)指定管理者制度を導入し、地域性を生かした使いやすい施設とするため、地域に密着した団体に管理運営を委託します。</p>						
<b>事業の実績</b>						
<p>(1)指定管理者により、各施設の管理および各種事業の展開を行いました。</p> <p>①米原公民館 指定管理委託料 29,413,000円 指定管理者：NPO法人FIELD 利用者数：46,155人(平成29年度 49,642人 対前年度増減率▲7.0%) 事業：こども造形教室、自然体験教室、民俗学講座、古地図講座、認知症予防講座、 着物着付け教室、学習講座、米原一日遠足 ほか 【実績】講座：34種類 延べ344回開講</p> <p>②近江公民館 指定管理委託料 35,390,000円 指定管理者：NPO法人おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会 利用者数：40,854人(平成29年度 44,222人 対前年度増減率▲7.6%) 事業：和太鼓教室、アートフラワー教室、フラワーアレンジメント講座、 学カステップアップ、地域の伝統料理教室 ほか 【実績】講座：18種類 延べ280回開講</p> <p>③山東公民館 指定管理委託料 29,641,000円 指定管理者：NPO法人カモンスポーツクラブ 利用者数：19,174人(平成29年度19,831人 対前年度増減率 ▲3.3%) 事業：子ども将棋教室、学遊館、いけ花教室、料理教室、パソコン講座 ほか 【実績】講座：18種類 延べ176回開講</p> <p>(2)施設設備修繕 952,343円 施設や設備等の不具合箇所を修繕し、利用しやすい施設としました。</p> <p>(3)備品購入 547,236円 施設のエアコンの改修を行いました。 山東公民館 エアコン更新 547,236円</p>						
<b>評価の内容</b>						
<p>(1)多様な学習機会を提供し、地域の団体・事業者など多様な主体と連携しながら、地域の実情、時代のニーズを的確に捉えた学習機会を提供できました。</p> <p>(2)青少年、次代を担う若者たち、子育て世代、現役世代など多様な世代にアプローチする事業を多く展開できました。</p> <p>(3)指定管理者による施設管理運営により、効率的で効果的な運営ができました。</p> <p>(4)施設の修繕や改修を行ったことにより、利用者の利便性や安全性が高まりました。</p>					評価	
					C	

事業番号		27	
款	10 教育費	項	6 保健体育費
		目	2 体育施設費
事業名	継続	体育施設管理運営事業	
		主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	スポーツによって、人と人、地域と地域がつながるまち	
	単位施策	スポーツを身近に楽しめる環境づくり	
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)
予算額	588,824,000	209,243,000	国 費
うち繰越	34,000,000	0	県 費
決算額	587,134,047	171,452,405	市 債
うち繰越	33,953,040	0	その他
執行率(%)	99.7	81.9	一般財源
執行率80%以下の理由(30年度)		その他の内訳(30年度)	
		ウッドピアいぶき使用料 37,400 円	
		番場多目的広場使用料 9,800 円	
		スポーツ振興くじ助成金 54,400,000 円	
		繰越事業費等充当財源繰越金 33,953,040 円	
事業コスト		事業費	人件費( 1.40 人 役 )
決算額		587,134 千円	10,181 千円
市民1人当たり ( 39,138 人 )		15,002 円	260 円
利用者1人当たり ( 136,692 人 )		4,295 円	74 円
事業の目的および内容			
(1)誰もが身近で安心安全にスポーツができるよう、市内体育施設の維持管理に努めます。			
(2)2024年の国民スポーツ大会でホッケー会場となる伊吹第1グラウンドを、大会開催後の利用も見据えた人工芝グラウンドに改修します。			
事業の実績			
(1)指定管理者に社会体育施設の管理運営を委託しました。			
①山東グラウンド、市民体育館：NPO法人カモンスポーツクラブ		3,058,000円	
グラウンド	14,984人	(平成29年度 11,641人 対前年度比 +28.7%)	
体育館	13,458人	(平成29年度 14,032人 対前年度比 ▲4.1%)	
②すぱーく米原、米原野球場、息郷体育館：NPO法人MOSスポーツクラブ		8,973,000円	
すぱーく米原	14,520人	(平成29年度 12,812人 対前年度比 +13.3%)	
野球場	3,372人	(平成29年度 3,405人 対前年度比 ▲1.0%)	
体育館	1,199人	(平成29年度 879人 対前年度比 +36.4%)	
③近江グラウンド：NPO法人おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会		1,019,000円	
グラウンド	6,807人	(平成29年度 6,693人 対前年度比 +1.7%)	
④双葉総合体育館：一般社団法人近江スポーツクラブ		12,266,000円	
体育館	19,656人	(平成29年度 18,148人 対前年度比 +8.3%)	
⑤山東B&G海洋センター：株式会社スポーツプラザ報徳		16,308,000円	
プール	31,944人	(平成29年度 30,954人 対前年度比 +3.2%)	
体育館	8,433人	(平成29年度 10,679人 対前年度比 ▲21.0%)	
⑥伊吹B&G海洋センター、伊吹第1・第2グラウンド、伊吹テニスコート		14,836,000円	
：公益財団法人伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団			
プール	3,450人	(平成29年度 3,239人 対前年度比 +6.5%)	
第1グラウンド	2,195人	(平成29年度 9,569人 対前年度比 ▲77.1%)	
第2グラウンド	14,824人	(平成29年度 16,469人 対前年度比 ▲10.0%)	
テニスコート	1,850人	(平成29年度 1,744人 対前年度比 +6.1%)	

## 事業の実績

- (2)社会体育施設の維持管理に必要な業務を行いました。  
 施設維持管理委託料（河南中グラウンド、番場多目的広場） 1,364,673円  
 修繕費（市民体育館照明ほか） 1,285,230円
- (3)社会体育施設の整備、改修のため必要な業務を行いました。  
 ①番場多目的広場整備事業（植栽工事）（繰越事業） 33,953,040円  
 ②伊吹第1グラウンド改修事業
- |          |             |           |              |
|----------|-------------|-----------|--------------|
| 電気設備改修工事 | 71,960,400円 | グラウンド改修工事 | 364,340,160円 |
| 建築物解体工事  | 23,445,720円 | 建築物改修工事   | 6,954,120円   |
| 駐車場舗装工事  | 17,647,200円 | 備品購入費     | 4,374,934円   |
| 用地購入費    | 446,776円    | 物件移転補償費   | 525,994円     |
|          |             | 合計        | 489,695,304円 |



【番場多目的広場(天然芝)】



【伊吹第1グラウンド(砂入り人工芝)】

## 評価の内容

- (1)指定管理者による体育施設の適切な維持管理を行い、多様な市民ニーズに対応したスポーツ活動の場を提供することにより、スポーツを通じた市民の相互交流が図れました。
- (2)番場地先に天然芝の多目的広場を整備したことで、市民が気楽にスポーツやレクリエーションを楽しむことができる環境が整いました。
- (3)伊吹第1グラウンドを人工芝に改修したことで、より快適でレベルの高いスポーツ環境が整いました。

評価

C

事業番号		28																																			
款	10 教育費	項	6 保健体育費																																		
		目	3 体育振興費																																		
事業名	継続	スポーツ推進事業																																			
		主管課	教育委員会 生涯学習課																																		
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり																																			
	基本施策	スポーツによって、人と人、地域と地域がつながるまち																																			
	単位施策	地域スポーツ活動の推進																																			
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)																																		
予算額	39,840,000	35,425,000	国 費																																		
うち繰越	0	0	県 費																																		
決算額	36,964,195	33,239,222	市 債																																		
うち繰越	0	0	その他																																		
執行率(%)	92.8	93.8	一般財源																																		
執行率80%以下の理由(30年度)		その他の内訳(30年度)																																			
		社会体育事業参加料 10,000 円																																			
		地域の絆でまちづくり基金繰入金 1,810,000 円																																			
		米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 2,610,000 円																																			
事業コスト	事業費	人件費( 3.60 人役 )	計																																		
決算額	36,964 千円	26,179 千円	63,143 千円																																		
市民1人当たり( 39,138 人)	944 円	669 円	1,613 円																																		
事業の目的および内容																																					
<p>(1)多様化する市民のスポーツニーズを踏まえ、生涯スポーツ・競技スポーツの推進を図るとともに、2024年に開催される国民スポーツ大会に向け、選手や指導者の育成を行い、スポーツを通じたコミュニティを形成し、「元気と希望あふれるまちづくり」に取り組みます。</p> <p>(2)2020年東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして、ニュージーランド国との交流を進めるとともに、スポーツ国際交流員(SEA)を配置し、英語とスポーツを通じた国際交流を図ります。</p>																																					
事業の実績																																					
<p>(1)スポーツ推進委員に地域での出前講座や市内スポーツイベントの企画、運営を担っていただきました。また、資質向上のため、各種研修会へ参加いただきました。</p> <p>スポーツ推進委員報酬(委員数:31人) 1,178,000円</p> <p>【主な活動内容】</p> <p>①いきいきノルディックウォーク体験 5月13日 ※雨天のため中止</p> <p>②出前講座(11回実施) 総参加者数:485人</p> <p>③夢高原かっつび伊吹・いきいき健康ウォークの企画、運営、準備等</p> <p>④体育協会、スポーツ少年団主催事業への協力</p> <p>⑤全国、近畿、滋賀県スポーツ推進委員研修会への参加</p>																																					
<p>(2)市民のスポーツ推進を図るため、各種スポーツ団体へ補助金を交付し活動支援を行いました。</p> <p>①市体育協会(加盟団体数:18団体)、市民大会:12競技、総参加者:1,026人 2,691,649円</p> <p>②市スポーツ少年団(加盟数:18単位団、団員:394人、指導者:102人) 2,549,506円</p> <p>③総合型地域スポーツクラブ(市内4クラブ) 1,810,000円</p> <p>④(公財)伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団 15,004,000円</p>																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th colspan="2">平成30年度</th> <th colspan="2">平成29年度</th> </tr> <tr> <th>事業数</th> <th>参加者(人)</th> <th>事業数</th> <th>参加者(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>いぶきスポーツクラブ</td> <td>27</td> <td>5,151</td> <td>28</td> <td>5,659</td> </tr> <tr> <td>カモンスポーツクラブ</td> <td>31</td> <td>8,176</td> <td>32</td> <td>7,828</td> </tr> <tr> <td>MOSスポーツクラブ</td> <td>28</td> <td>3,664</td> <td>29</td> <td>4,098</td> </tr> <tr> <td>近江スポーツクラブ</td> <td>20</td> <td>4,393</td> <td>19</td> <td>4,269</td> </tr> <tr> <td>(公財)伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団</td> <td>27</td> <td>2,321</td> <td>19</td> <td>2,366</td> </tr> </tbody> </table>				名称	平成30年度		平成29年度		事業数	参加者(人)	事業数	参加者(人)	いぶきスポーツクラブ	27	5,151	28	5,659	カモンスポーツクラブ	31	8,176	32	7,828	MOSスポーツクラブ	28	3,664	29	4,098	近江スポーツクラブ	20	4,393	19	4,269	(公財)伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団	27	2,321	19	2,366
名称	平成30年度		平成29年度																																		
	事業数	参加者(人)	事業数	参加者(人)																																	
いぶきスポーツクラブ	27	5,151	28	5,659																																	
カモンスポーツクラブ	31	8,176	32	7,828																																	
MOSスポーツクラブ	28	3,664	29	4,098																																	
近江スポーツクラブ	20	4,393	19	4,269																																	
(公財)伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団	27	2,321	19	2,366																																	
<p>(3)市スポーツ推進計画の基本方針の推進のため、各種事業の進捗管理と事業評価を行いながら、実施計画の策定に取り組みました。また、これまでの施策を検証し、今後5年間を見据えた計画の見直しを行いました。</p> <p>スポーツ推進審議会報酬(委員数:15人、年間5回開催) 260,000円</p>																																					
<p>(4)2024年開催の国民スポーツ大会を見据え、小・中学生を対象に、県内外のトップアスリートを招待し、高度な技術の習得と選手との交流によりスポーツに親しむ機会づくりに努めました。</p> <p>ジュニアホッケー選手育成事業 参加者:延べ1,724人、指導者:延べ278人 500,000円 (平成29年度 参加者:延べ849人、指導者:延べ166人)</p>																																					

## 事業の実績

- ①シニア健康塾等への派遣 回数：99回、1,125人 (平成29年度 80回、837人)  
 ②子ども対象事業への派遣 回数：17回、273人 (平成29年度 54回、775人)
- (5)優秀なスポーツ選手を激励および支援し、市民の健全なスポーツの推進を図るため、国際競技大会や国内競技大会に出場する選手に対し、激励金を交付するとともに、優秀な成績を収めた選手の栄誉を称え表彰式を行いました。
- ①激励金 90件、298人 (平成29年度 83件、303人)  
 ②スポーツ顕彰 功労賞 2人 (平成29年度 1人)  
 特別表彰 7人 (平成29年度 8人)  
 優秀選手賞 42人 (平成29年度 33人)  
 優秀団体表彰 5団体 (平成29年度 10団体) 【スポーツ顕彰表彰式】
- 
- (6)本市の特性を生かしたスポーツイベントの支援を行いました。
- ①夢高原かっつび伊吹2018 1,665,219円  
 参加者:1,161人、完走者：943人 (平成29年度 参加者：1,128人、完走者：992人)  
 ②西日本小学生中学生6人制ホッケー選手権大会 100,000円  
 小学生46チーム、中学生46チーム (平成29年度 小学生43チーム、中学生44チーム)  
 ③いきいき健康ウォーク2018 44,020円  
 コース：中山道 (柏原中学校～河南小学校) 参加者：134人 (平成29年度 154人)  
 ④市スポーツ応援大使スポーツイベント「My原 体育の日」 734,394円  
 平成30年9月30日 ※雨天のため中止
- (7)親子のふれあいと体力の向上を図るため、親子でマリンスポーツ事業を市カーナー指導者会に委託し実施しました。 300,000円
- ①びわこマリンスフェスタin米原 平成30年9月2日 参加者：38人、指導者：30人  
 ②各種団体カーナー教室指導  
 実施団体：4スポーツクラブ 6回、延べ参加者数：69人
- (8)2020年東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして、ニュージーランド国との交流を進めるため、ニュージーランド代表ホッケーチームを招へいし、スポーツ少年団を対象としたホッケー教室を開催するとともに、サムライジャパンとのテストマッチを開催し、スポーツや文化の交流を図りました。
- また、スポーツ国際交流員を配置し、子どもたちが英語に慣れ親しむ機会を創出しました。
- ①滋賀交流推進実行委員会負担金 1,500,000円  
 ②スポーツ国際交流員賃金 2,305,739円



【ホッケー教室】



【テストマッチ】



【スポーツ国際交流員の活動】

## 評価の内容

- (1)スポーツ推進委員やスポーツアドバイザーなどによる出前講座を通してニュースポーツが市民に広まり、多くの市民がスポーツ活動に参加したことにより、健康増進、体力の向上が図れました。
- (2)市民が身近にスポーツを楽しめる場である総合型地域スポーツクラブや市体育協会、各地区体育振興会などが開催するスポーツ活動を支援することにより、スポーツの機会づくりにつながりました。
- (3)スポーツの力で市民の一体感を醸成するまちづくりを進めるため、5年後を見据えたスポーツ推進計画の見直しを実施しました。今後は、計画に定めた基本方針、施策に基づいた事業展開を進めます。
- (4)2020年東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして事前合宿誘致やワールドマスターズゲームズ2021関西のPR活動を行い、受入れのための環境整備や体制づくりを進めました。

評価

C

事業番号	29					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	4 図書館費	
事業名	継続	図書館管理運営事業			主管課	教育委員会 図書館
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち				
	単位施策	図書館機能の整備・充実				
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度	
予算額	51,982,000	64,060,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	50,527,075	62,759,855	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	182,655	99,846	
執行率(%)	97.2	98.0	一般財源	50,344,420	62,660,009	
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)			
			地域の絆でまちづくり基金繰入金 126,000円			
			私用消耗品・印刷・地図等収入 29,520円			
			公衆・私用電話使用料 882円			
			本のリサイクル事業協力金 26,253円			
事業コスト		事業費	人件費( 3.30 人 役 )	計		
決算額		50,527 千円	23,998 千円	74,525 千円		
市民1人当たり( 39,138 人)		1,291 円	613 円	1,904 円		
事業の目的および内容						
(1)図書館サービス基本理念に基づき、誰もが身近に利用できる文化・情報拠点としての図書館運営に努めるとともに山東・近江両図書館の運営形態の見直しを行います。						
(2)子どもの読書活動推進のため、ブックスタート事業等の実施や市民力のある図書館として、ボランティアや雑誌スポンサーを募るなど、市民と協働で幅広い読書活動支援を行います。						
事業の実績						
(1)山東・近江図書館管理運営事業						
	山東図書館		近江図書館			
図書購入費	5,298,757円		4,699,244円			
臨時職員賃金	14,573,243円		8,455,845円			
貸出冊数	220,452冊 (対前年度増減率 ▲4.2%)		176,264冊 (対前年度増減率 ▲4.4%)			
蔵書冊数(平成31 年3月末現在)	図書	145,238冊		140,351冊		
	視聴覚資料	2,181点		—		
除籍冊数	図書	4,248冊		2,224冊		
	視聴覚資料	152点		—		
利用者数	4,380人 (対前年度増減率 ▲2.9%)		3,369人 (対前年度増減率 0.6%)			
予約・リクエスト件数	10,048件		11,033件			
レファレンス件数	3,143件		2,310件			
その他	図書館協議会(4回)、蔵書点検実施(10月)、図書館講座(6回)、ブックスタート(毎月)、各種イベント、リサイクル開催など					
(2)図書館の利用状況や利用者アンケート等を参考に、試行的休館日を設け、市民の理解を得ながら図書館協議会等で図書館の運営形態を見直しました。(休館日増、開館時間の縮小)						
(3)毎月10か月健診でブックスタートバックの配布を行い、絵本との出会いを提供しました。 配布人数：310人 配布率：99.4%						
(4)市民が求める資料を提供するため、貸出とレファレンスに力を入れました。						
評価の内容						
(1)休館日および開館時間の見直しを行ったことにより、効率的な運営が可能となりました。また、図書館で基本となる休館日をずらしたことにより、利用者の利便性の向上が図れました。						
(2)誠実なカウンター対応、レファレンス対応に努め、利用者満足度が上がりました。 利用者満足度 79.9%(対前年度比 +2.4%)【平成30年度利用者アンケートH30.11.3~12.26】						
					評価 C	

事業番号	30					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 文化財保護費	
事業名	継続	はにわ館管理運営事業			主管課	教育委員会 図書館
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち				
	単位施策	学びの場づくりの推進				
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度	
予算額	437,000	615,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	431,036	506,603	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	46,000	0	
執行率(%)	98.6	82.4	一般財源	385,036	506,603	
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)			
			はにわ館施設使用料 46,000円			
事業コスト		事業費	人件費( 0.70 人役 )	計		
決算額		431 千円	5,090 千円	5,521 千円		
市民1人当たり( 39,138 人)		11 円	130 円	141 円		
<b>事業の目的および内容</b>						
(1)米原市芸術展覧会等の芸術文化事業を実施します。 (2)地域文化や文化財を扱った展覧会等の事業を実施します。 (3)かたりペホールや第1、第2展示室の効率的な活用と利用促進に努めます。 (4)図書館との一体的施設である強みを生かし、相乗効果が図れるような事業の展開を行います。						
<b>事業の実績</b>						
(1)はにわ館企画展示						
①湖国を愛した画家 下倉祺世展		平成30年6月9日～平成30年6月24日				
②みんなの写真展「北琵琶湖の四季」		平成30年7月21日～平成30年8月19日				
③思い出のひきだし展		平成30年12月1日～平成30年12月24日				
④山田裕子作品展一和紙と歩んだ日々		平成30年12月19日～平成30年12月24日				
⑤松居直和写真展～しぜんのかたち③～		平成31年1月20日～平成31年2月9日				
⑥発掘された息長古墳群		平成31年3月10日～平成31年4月7日				
近江はにわ館開館20周年記念企画展						
(2)主な支出						
①企画展示謝礼		15,000円				
②展示用ワイヤー、芳名録等		69,536円				
③施設維持管理業務委託料		346,500円				
(3)貸館事業						
	利用回数	収入金額				
第1展示室	0回	0円				
第2展示室	1回	22,000円				
かたりペホール	9回	24,000円				
合計	10回	46,000円				
						
【みんなの写真展「北琵琶湖の四季」】						
<b>評価の内容</b>						
はにわ館企画展示や歴史文化財保護課等他課と連携した展示を実施することにより、文化芸術の振興を図ることができました。また、企画展示等を通じて、はにわ館の魅力を発信し、貸館による事業の実施につなげることができました。						
					評価	
					C	

事業番号	31					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 文化財保護費	
事業名	継続	文化財保護事業			主管課	教育委員会 歴史文化財保護課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち				
	単位施策	歴史文化遺産の保存活用				
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度	
予算額	16,686,000	25,583,000	国 費	1,046,830	3,523,000	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	12,549,051	23,734,831	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	6,727,500	14,560,765	
執行率(%)	75.2	92.8	一般財源	4,774,721	5,651,066	
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)			
平成30年度に発生した台風被害による県指定文化財松井家住宅復旧事業において、工期が冬季にかかり、また、積雪の多い地域での事業となり、年度内の完了が見込めないことから翌年度に事業費を繰り越したため。<令和元年度への繰越額> 3,000,000円			社会教育事業関係受講料 104,500円 米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 6,623,000円			
事業コスト		事業費	人件費( 2.90 人役 )	計		
決算額		12,549 千円	21,089 千円	33,638 千円		
市民1人当たり( 39,138 人)		321 円	539 円	860 円		
事業の目的および内容						
各種文化財調査、指定文化財の維持管理、修理などを実施することで、米原市に伝わる数多くの文化財の保護・活用を図ります。						
事業の実績						
(1) 萬留帳翻刻調査事業 2,835,068円 江戸時代から約300年間にわたり柏原宿などの様々な出来事を記録した貴重な資料である萬留帳(よろずとめちょう)について、保存と活用を図るため翻刻調査を実施しました(69冊全て入力済)。また、平成30年11月に刊行した調査報告書第2巻の刊行記念講演会を開催しました。 開催日：平成30年12月10日 場所：柏原宿歴史館 参加者：33人						
(2) 文化財保護保存活動補助金 6,623,000円 まちの歴史・文化を次代に引き継ぐため、国・県・市指定文化財の維持管理、伝承活動、修理等に係る事業費に対し、関係団体に補助金を交付しました(米原曳山祭保存会ほか27団体)。 (単位：円)						
団体名		事業名		金額		
米原曳山祭松翁山保存会		松翁山保存会の曳山執行		1,000,000		
米原曳山祭保存会		曳山祭保存会の伝承活動		900,000		
		米原曳山祭幕の修理		1,142,000		
青岸寺		国名勝青岸寺庭園の保護活用		150,000		
鴨と蛸の里づくりグループ		ゲンジボタルおよび三島池のカモの調査研究事業		200,000		
上平寺推進委員会京極氏戦国浪漫倶楽部		上平寺城跡参道整備事業		150,000		
弥高さつま会		弥高寺跡維持管理事業		150,000		
湿原を考える会		山室湿原整備、活用事業		95,000		
筑摩自治会		鍋冠祭保存会の伝承活動		80,000		
徳源院		徳源院三重塔および庭園の保護活用		67,000		
朝日自治会		朝日豊年太鼓踊りの保存伝承活動		60,000		
大久保の史跡を守る会		市史跡長尾寺跡の保護活用		60,000		
観音寺		重要文化財観音寺の保護活用		60,000		
流星保存会		流星打上げの維持管理活動		28,000		
大野木自治会		大野木豊年太鼓踊保存会の伝承活動		30,000		
番場の歴史を知り明日を考える会		国史跡鎌刃城跡の保護活用		30,000		
長沢自治会		福田寺公家奴振保存会の伝承活動		21,000		

## 事業の実績

(単位：円)

団体名	事業名	金額
長沢福田寺	国名勝福田寺庭園の保護活用	24,000
	県指定福田寺御殿の修理	450,000
井之口自治会	井之口太鼓踊保存会の伝承活動	34,000
柏原学区史跡保存会	国史跡北畠具行卿墓の保護活用	15,000
志賀谷自治会	華の頭のおコナイの伝承活動	15,000
来照寺	県名勝来照寺庭園の保護活動	13,000
松浦家	市指定松浦家住宅屋根修理	1,499,000
磯まぬけ踊り保存会	磯まぬけ踊りの伝承活動	15,000
曲谷自治会	重要文化的景観構成要素の石造板碑の修理	60,000
国指定京極氏遺跡所有者	国指定京極氏遺跡の修理	54,000
長岡自治会	市指定長岡神社公孫樹の保存修復	221,000

### (3)埋蔵文化財活用事業 2,070,351円

#### ①遺跡を活用したイベント

##### 鎌刃城まつり

開催日：平成30年6月3日 内容：鎌刃城見学、講演会 参加者：約170人

#### ②市内の遺跡や施設の紹介と、現地の散策が連動した啓発資料の作成、設置

遺跡案内看板 3か所(柏原小、坂田小、山東小)

トレッキングマップ「京極氏館、上平寺城、弥高寺」 3,000部

パンフレット「米原の縄文—縄文人の楽園・まいばら—」 500部

シンポジウム「遺跡はまちの宝もの —杉沢縄文遺跡発掘と地域・子どもたち—」

開催日：平成31年3月3日 場所：伊吹薬草の里文化センター 参加者：約80人



【トレッキングマップ】



【シンポジウム「遺跡はまちの宝もの」】

## 評価の内容

(1)萬留帳翻刻調査事業は、保存と活用に向けてのデータ保存や内容把握などの基礎資料の蓄積と、報告書刊行記念講演会を通して、萬留帳の存在と内容を少しずつ知っていただく契機となりました。

(2)文化財保護保存活動補助金は、米原市の歴史をひも解く上で貴重な指定文化財を次の世代に引き継ぐための維持管理、伝承、修理活動に対しての一助となりました。

(3)埋蔵文化財活用事業は、市内に残る貴重な遺跡などを多くの市民に知っていただくことができたほか、地域住民と連携したイベントの開催や学校の周辺の遺跡等を紹介した啓発資料の作成を通して、地域への誇りの意識高揚や情報発信に成果がありました。

評価

C

事業番号		32	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
		目	5 文化財保護費
事業名	継続	文化財施設管理運営事業	
主管課	教育委員会 歴史文化財保護課		
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち	
	単位施策	歴史文化遺産の保存活用	
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)
予算額	23,017,000	20,075,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	22,203,524	19,267,208	市 債
うち繰越	0	0	その他
執行率(%)	96.5	96.0	一般財源
執行率80%以下の理由(30年度)		その他の内訳(30年度)	
		柏原宿歴史館入館料・使用料 363,540円 柏原宿歴史館施設管理経費負担金 149,222円 公衆・私用電話使用料等 3,050円 私用消耗品・印刷・地図等収入 850円 社会教育事業関係受講料 181,900円	
事業コスト	事業費	人件費( 2.00 人 役 )	計
決算額	22,204 千円	14,544 千円	36,748 千円
市民1人当たり( 39,138 人)	567 円	372 円	939 円
<b>事業の目的および内容</b>			
市民に気軽に歴史に親しんでいただく場を提供するため、各館の特徴を生かしながら管理運営を行います。			
<b>事業の実績</b>			
(1)指定管理者に管理運営を委託しました。			
①醒井宿歴史資料館 4,262,566円(うち指定管理委託料 3,025,524円)			
指定管理者：醒井自治会			
年間施設入館者数 727人(平成29年度 664人)			
企画展 1回			
②伊吹山文化資料館(一部指定管理) 9,520,578円(うち、指定管理委託料 8,801,000円)			
指定管理者：(公財)伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団			
年間施設入館者数 6,993人(平成29年度 6,860人)			
企画展 9回 歴史アカデミー 11回 古文書講座 11回			
体験教室 17回			
(2)市が直営により管理運営を実施しました。			
①柏原宿歴史館 6,463,420円			
年間施設入館者数 1,793人(平成29年度 2,810人)			
企画展 2回「善隣友好一朝鮮通信使の軌跡」ほか			
講演会 4回「浅井氏の重臣～遠藤喜右衛門直経とその時代～」ほか			
(3)柏原宿歴史館のブロック塀を建築基準法適合化のために、			
コンクリートブロック塀から防護フェンスに改修しました。			
防護フェンス設置工事 993,600円			
防護フェンス設計監理委託料 194,400円			
(4)柏原宿歴史館に設置の防犯カメラ等機器の更新を行いました。			
監視カメラ等取替工事 1,956,960円			
<b>評価の内容</b>			
(1)各館の特徴を生かした事業を中心に、歴史に親しんでもらう場を提供できました。			
(2)柏原宿歴史館では朝鮮通信使関連の萬留帳の記録、伊吹山文化資料館では伊吹山地とその山麓の自然と文化、また醒井宿資料館では醒井宿関連の絵図を展示するなど、米原とのつながりをテーマにした企画展等を開催し、市内外へ米原の魅力を発信することができました。			
			評価
			C



【防護フェンス設置工事】



【監視カメラ等機器取替工事】

事業番号	33					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 青少年育成費	
事業名	継続	次代を担う青少年育成事業			主管課	こども未来部 子育て支援課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち				
	単位施策	家庭・地域の教育力の強化				
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度	
予算額	2,245,000	2,400,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	75,000	352,000	
決算額	1,890,638	2,113,526	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	0	0	
執行率(%)	84.2	88.1	一般財源	1,815,638	1,761,526	
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)			
事業コスト		事業費	人件費( 1.60 人役 )	計		
決算額		1,891 千円	11,635 千円	13,526 千円		
市民1人当たり( 39,138 人)		48 円	297 円	345 円		
<b>事業の目的および内容</b>						
<p>子どもが心豊かに伸び伸びと育つまちづくりを進めるため、青少年の健全育成や地域で子どもを育てる環境づくり、子どもの成長の基幹となる家庭の教育力向上のため、関係団体への活動助成を行います。</p> <p>(1)青少年育成市民会議では、定期的にあいさつ運動やパトロールを行い、子どもの見守り、安全確保、青少年の健全育成や非行防止に努めます。</p> <p>(2)子ども会育成連合会では、創作体験事業や支部事業など、各種団体と連携しながら地域での異年齢交流や体験の場を提供します。また、小学校5・6年生を対象にしたジュニアリーダー講習会を実施し地域に愛着を持った次代を担うリーダーの育成に努めます。</p> <p>(3)PTA連絡協議会では、講師を招いて講演会を行い、家庭の教育力の向上や学校・家庭・地域の連携の強化を図ります。</p>						
<b>事業の実績</b>						
<p>(1)青少年育成市民会議 <span style="float:right">補助金 913,475円</span>  青少年健全育成、子どもの安全確保、非行防止・環境浄化、家庭教育・子育て支援等の活動支援  ①あいさつ運動の実施：年間9回 毎回約250人参加  ②青少年育成大会開催：平成30年10月13日 場所：ルッチプラザベルホール310 261人参加  顕彰表彰、あいさつ標語表彰、中学生広場（意見発表）、講演会（PTA教育講演会と合同）  ③巡回パトロールの実施：年間30回以上  ④支部ごとの事業（軽スポーツ事業、創作体験事業等）を行い、体験や異世代交流の場を提供</p>						
<p>(2)子ども会育成連合会 <span style="float:right">補助金 793,828円</span>  ①ふれあいの里フェスティバル（創作体験事業）の実施  平成30年11月23日 場所：伊吹薬草の里文化センター 約340人参加  ②支部事業（4支部）および各単位子ども会（82団体）への助成  ③ジュニアリーダー養成講習会：年間9回、9人参加  ④子ども会活動実践記録「ほたる第14集」の発行  ⑤会員数：2,321人（平成29年度 2,205人）</p>						
<p>(3)PTA連絡協議会 <span style="float:right">補助金 183,335円</span>  市内のPTA会員の家庭教育力の向上および教育啓発事業等への活動助成 <span style="float:right">【教育講演会】</span>  ①教育講演会開催：平成30年10月13日 場所：ルッチプラザベルホール310 261人参加  講師：原田綾子さん  演題：子どもの自信とやる気を引き出す～勇気づけの子育て～  ②会員数：3,383人（平成29年度 3,469人）</p>						
						
<b>評価の内容</b>						
<p>(1)青少年育成市民会議では、あいさつ運動や巡回パトロールを定期的実施し、青少年の健全育成と非行防止を図ることができました。</p> <p>(2)子ども会育成連合会では、創作体験活動を実施することで子どもの自主性と協調性を伸ばすとともに、地域の子ども達を地域で育てる力を高めました。</p> <p>(3)PTA連絡協議会では教育講演会を開催し、家庭教育力の向上に努めました。</p>						
					評価	
					C	

事業番号	34					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 青少年育成費	
事業名	継続	少年センター事業			主管課	こども未来部 子育て支援課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち				
	単位施策	家庭・地域の教育力の強化				
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度	
予算額	2,449,000	3,153,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	1,376,500	1,376,500	
決算額	2,298,951	2,966,339	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	0	0	
執行率(%)	93.9	94.1	一般財源	922,451	1,589,839	
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)			
事業コスト		事業費	人件費( 2.20 人役 )	計		
決算額		2,299 千円	15,998 千円	18,297 千円		
市民1人当たり( 39,138 人)		59 円	409 円	468 円		
<b>事業の目的および内容</b>						
<p>(1) 青少年の非行防止および犯罪の未然防止のために少年補導委員や関係機関との連携の下、日常的な補導活動や有害環境浄化活動を実施します。</p> <p>(2) 不登校、非行、無職少年やニート、ひきこもりの青少年および家族からの相談を受け、自立へ向けた支援を実施します。</p>						
<b>事業の実績</b>						
<p>(1) 補導活動</p> <p>① 街頭補導、深夜パトロール、登下校指導、声かけ活動を定期的に行いました。        主な街頭補導：青少年の非行被害防止滋賀県強調月間（7月）、滋賀県青少年健全育成強調月間（11月）、天の川ほたるまつり、醒井地蔵まつりなど（延べ188回実施）</p> <p>② 職員および少年補導委員による補導活動を実施しました。</p> <p>(2) 相談活動        少年およびその家族等からの不登校、いじめ、問題行動に関わる相談を実施しました。（631人）        ※就労相談については若者自立ルームあおぞらと連携して実施しました。</p> <p>(3) 環境浄化活動        有害図書等立入り調査、白ポスト、有害図書回収活動を実施しました。（月2回定期回収）</p> <p>(4) 啓発活動</p> <p>① 少年の主張作文集を作成し、発行しました。（年1回・300部）</p> <p>② 薬物乱用防止啓発活動として、薬物乱用防止セミナーおよび薬物乱用防止教室を実施しました。（年6回）</p> <p>(5) 研修および情報交換</p> <p>① 無職少年対策指導員や少年補導委員の研修を実施しました。（年6回）</p> <p>② 小中学校や警察、保護司会等との情報交換を実施しました。（訪問校数延べ31校）</p> <p>【主な経費】</p> <p>少年補導職員賃金（1人） 1,121,408円        補導委員報償費（37人） 555,000円        需用費（啓発資材、自動車燃料等） 201,141円</p>						
<b>評価の内容</b>						
<p>市教育委員会、米原警察署、少年補導委員等と連携し、パトロールや啓発活動、補導・指導活動を行うことで、青少年の非行防止や再発防止等の健全育成を図ることができました。</p>						
					評価	
					C	

事業番号	35							
款	10 教育費	項	4 幼稚園費	目	1 幼稚園管理費			
事業名	継続	幼稚園管理運営事業			主管課	こども未来部 保育幼稚園課		
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり						
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち						
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実						
事業費(円)	30年度	29年度	財源内訳(円)	30年度	29年度			
予算額	17,907,000	32,714,000	国 費	28,000	28,000			
うち繰越	0	0	県 費	33,000	51,000			
決算額	17,159,765	31,185,011	市 債	0	0			
うち繰越	0	0	その他	3,060,703	8,277,706			
執行率(%)	95.8	95.3	一般財源	14,038,062	22,828,305			
執行率80%以下の理由(30年度)			その他の内訳(30年度)					
			共済掛金負担金 11,340円 特定教育・保育施設使用料 1,555,630円 一時預かり利用料 101,400円 天狗の丘使用料 7,000円 広域入園負担金 4,333円 通園バス利用負担金 352,000円 学級教材費利用者負担金 770,000円 教育実習受入金 259,000円					
事業コスト		事業費	人件費(0.92人役)	計				
決算額		17,160千円	6,690千円	23,850千円				
市民1人当たり(39,138人)		438円	171円	609円				
事業の目的および内容								
(1) 市内の幼稚園児が安心して教育が受けられるよう園運営の充実や環境整備を図ります。 (2) 保護者との連携の下、幼児教育およびチーム保育の充実を図り、地域に根差した特色ある園づくりを進めます。 (3) 第2子以降で0歳児から5歳児(18歳未満の兄弟がいる場合)までについて、引き続き保育料の軽減を実施します。 (4) 長期休業期間中における幼稚園型一時預かりサービスを開始します。 (5) 山東幼稚園の排煙窓、天狗の丘の遊具修繕等を実施します。								
事業の実績								
(1) 市内特定教育・保育施設利用子ども数(平成31年3月31日現在)								
(単位:人)								
施設名	3歳児	4歳児	5歳児	合計	うち市外の園児	利用定員	定員充足率(%)	子ども数前年度比
山東幼稚園	19	23	28	70	0	110	63.6	▲10
(2) 幼稚園保育料軽減額								
国基準額による保育料額				11,475,500円		保育料軽減額		1,426,740円
市基準額による保育料額(軽減前)				2,907,370円		軽減対象者延べ人数		489人
第2子以降保育料軽減後の徴収額				1,480,630円				
(3) 園内研究会および研修会								
保育者の資質向上を目指して、次のとおり園内研究会等を開催しました。								
施設名	開催回数		平成30年度研究主題					
	研究会	研修会						
山東幼稚園	9	8	子どもと教師がともに遊びを創り出す保育をめざして「やりたい」が実現できる環境の構成を探る					
(4) 幼稚園型一時預かり事業 利用者延べ人数 338人								
(5) 施設修繕 1,987,360円								
山東幼稚園および天狗の丘に設置されている遊具について、安全に遊ぶことができるよう不良・不具合箇所を修繕を施しました。その他、園舎の排煙窓の不具合、漏水等に対応するため修繕を実施しました。								
評価の内容								
計画的な園内研究会および園内研修会を開催することで保育者の資質向上に努め、幼児教育の充実を図りました。								
新たに長期休業期間中(夏季、冬季、春季)の一時預かり事業を始めたことで、保育ニーズに対応することができました。								
評価								
C								

## 【対象事業の評価の視点】

■事業番号	事業名	H30評価	H29評価
■事業番号1	事務局総務事業 <教育総務課>	H30評価	H29評価
	・教育事務の点検および評価に関し、学識経験者および教育委員会委員等で構成する懇話会で意見交換を行い、今後のより良い教育行政に役立てることができた。	C	C
■事業番号2	事務局教育振興事業 <教育総務課>	H30評価	H29評価
	・将来を担う人材の育成および市への定住促進を図るため、平成30年度に決定した29人に奨学金の給付を行った。 ・令和元年度入学予定者を対象に募集を行い、奨学金給付審査会に諮り、27人の奨学生を決定した。	C	B
■事業番号3	小学校管理運営事業 <教育総務課>	H30評価	H29評価
	・児童用の机・いす、その他施設管理用備品については、学校の要望に基づき計画的に購入し、学習環境の確保につなげた。	C	C
■事業番号4	小学校教育振興事業 <教育総務課>	H30評価	H29評価
	・新入学児童学用品費を入学準備金として支給することで、より有益な援助につながった。	C	B
■事業番号5	小学校施設整備事業 <教育総務課>	H30評価	H29評価
	・学校施設の大規模改修については、計画的に改修設計を行っており、国の補正予算による財源が確保でき、計画よりも前倒しで改修整備に着手することができた。	A	A
■事業番号6	中学校管理運営事業 <教育総務課>	H30評価	H29評価
	・生徒用の机・いす、その他施設管理用備品については、学校の要望に基づき計画的に購入し、学習環境の確保につなげた。	C	C
■事業番号7	中学校教育振興事業 <教育総務課>	H30評価	H29評価
	・新入学生徒学用品費を入学準備金として支給することで、より有益な援助につながった。 ・中学校にコンピュータ教室用パソコンおよびタブレットを購入するとともに、校内ネットワーク環境を構築し、ICT(情報通信技術)を活用した教育の充実を図った。	B	B
■事業番号8	中学校施設整備事業 <教育総務課>	H30評価	H29評価
	・米原市学校施設長寿命化計画に基づき、市として初めての事業の取組となる双葉中学校長寿命化改良工事に係る基本設計および実施設計を行った。 ・学校施設の大規模改修については、計画的に改修設計を行っており、国の補正予算による財源が確保でき、計画よりも前倒しで改修整備に着手することができた。	A	A
■事業番号9	学校給食総務管理事業 <学校給食課>	H30評価	H29評価
	・アレルギー対応人数134人全て代替食・除去食にするなど、きめ細かな対応を行った。	B	A
■事業番号10	学校給食事業 <学校給食課>	H30評価	H29評価
	・給食の食材については、JAと連携し安心な地場産物を積極的に取り入れ、地場産物活用率は県平均29.1%を上回る32.2%となった。	B	A
■事業番号11	事務局教育振興事業 <学校教育課>	H30評価	H29評価
	・コミュニティ・スクールとして、3中学校で学校運営協議会を設置し、地域全体で子どもを育む先進的な取組を進めることができた。 ・特色ある学校づくり事業では、外部評価者も入れたプレゼンテーション審査で予算配分を決めることで、校内で十分な協議をするなど、校長の自校教育目標の実現に向けての意識を高めることができた。 ・学校経営支援員の配置により、校長の学校運営に関する良きアドバイザーとして、また、中堅教員の育成役として機能した。 ・学力の差が出始める小学校3年生を対象に、各学校で週1回程度の放課後補充教室「学びっ子」を開催し、67%の児童が参加した。	B	B
■事業番号12	教育センター事業 <学校教育課>	H30評価	H29評価
	・教職員にアンケートを行い、その結果を基に、求められている研修を実施できるよう努めている。 ・研究論文の応募数は例年90点を超えており、研究への意欲がうかがわれる。	B	B
■事業番号13	子どもサポート事業 <学校教育課>	H30評価	H29評価
	・各学校の個別の支援を必要とする児童生徒の実態を調査し、サポーターを派遣することで、個々の課題に応じたきめ細やかな指導を行うことができた。	B	B

<b>■事業番号14 小学校管理運営事業 &lt;学校教育課&gt;</b> ・正規校務員とともに臨時校務員を配置することにより、学校の環境整備や給食業務が円滑に行われ、教職員の負担軽減につながった。	H30評価	H29評価
<b>■事業番号15 小学校教育振興事業 &lt;学校教育課&gt;</b> ・国際理解教育協力員により、5年生、6年生の外国語活動に加え、1年生から4年生までの外国語活動を行い、児童の外国語や異文化に対する理解を深めることができた。 ・英語科の教育課程特例校においては、小学校1年生から独自のカリキュラムによる英語教育を実施し、イングリッシュフェスでは、2回合計61人の児童が生英語に触れる機会を持つことができた。	H30評価	H29評価
<b>■事業番号16 中学校管理運営事業 &lt;学校教育課&gt;</b> ・正規校務員とともに臨時校務員を配置することにより、学校の環境整備や給食業務が円滑に行われ、教職員の負担軽減につながった。	H30評価	H29評価
<b>■事業番号17 中学校教育振興事業 &lt;学校教育課&gt;</b> ・修学旅行や校外学習補助金、生徒派遣補助金により、生徒の学習活動・部活動の支援を行うことができた。	H30評価	H29評価
<b>■事業番号18 社会教育総務事業 &lt;生涯学習課&gt;</b> ・子育て世帯を対象に「まいふあみカフェ」を開催し、子育てに関する悩みや疑問をワークショップ等により親同士が交換できる交流の場を設けた。 ・出前講座やまなびサポーター事業を通じて、日常生活で役立つ知識や技能を提供し市民の学びの機会の充実を図ることができた。	H30評価	H29評価
<b>■事業番号19 人権教育推進事業 &lt;生涯学習課&gt;</b> ・各自治会で1人以上人権教育推進員を選任し、研修会や人権講座に参加いただいた。また、地域の人権リーダーとして、ハートフル・フォーラムの企画、運営を主体的に進めていただいた。 ・きらめき人権講座は、自治会住民、教職員、行政職員等毎回58人～63人の方に参加いただき、人権学習の機会を提供することができた。	H30評価	H29評価
<b>■事業番号20 地域人材育成事業 &lt;生涯学習課&gt;</b> ・18年間の事業実施を通じて構築したネットワークにより、公開講座において、第一線で活躍する著名な講師を招請することが出来た。 ・公開講座について、市民団体、県立大学、公民館等と共催することで、参加者層を広げ、経費の圧縮を図ることができた。 ・ルッチまちづくり大学の8期生(17人)が卒業され、新たに9期生(22人)が受講されている。	H30評価	H29評価
<b>■事業番号21 文化のまちづくり事業 &lt;生涯学習課&gt;</b> ・米原市芸術展覧会において、出品数は同水準で推移しており、展覧会が定着してきている。また、他府県からの出品も多く、レベルの高い展覧会に成長している。 ・米原市文化協会では各地域において文化祭や部会間の交流事業を行い、各サークルの活動が促進されるなど、市全体の文化振興への貢献が行えた。	H30評価	H29評価
<b>■事業番号22 市民交流プラザ管理運営事業 &lt;生涯学習課&gt;</b> ・共催事業を拡充したことで、市予算の負担額を抑え、年間15回の講演事業を行った。例年定期的実施している事業が定着してきたことにより、利用者に広く、文化や芸術に触れる機会を提供し、文化の振興を図ることができた。また、りれーピアノや中学生吹奏楽部ワークショップ事業の継続の結果として、ピアノの練習による平日利用が定着した。	H30評価	H29評価
<b>■事業番号23 伊吹薬草の里文化センター管理運営事業 &lt;生涯学習課&gt;</b> ・担当職員を配置し、市との情報伝達を密にしたことで指定管理者との連携が図れた。また、施設代表者会議を開催し、相互の情報共有と連携に努めた。 ・公民館をはじめ、ホール、薬草風呂、いぶき図書室、薬草園などを有した複合施設として、地域の特色を生かし、伊吹山や薬草の里にふさわしい事業を含め、子どもから高齢者まで誰もが参加しやすい幅広い事業の実施により、地域文化の振興や生涯学習の機会の提供ができた。 ・施設や設備の不具合箇所を修繕し、利用しやすい施設に改修した。	H30評価	H29評価
<b>■事業番号24 生涯学習センター管理運営事業 &lt;生涯学習課&gt;</b> ・米原市公共施設再編計画に基づき、山東生涯学習センターの生涯学習機能の廃止を行った。	H30評価	H29評価
<b>■事業番号25 次代を担う青少年育成事業 &lt;生涯学習課&gt;</b> ・成人式では、手話通訳、要約筆記、託児支援、大きな文字による案内表示、色による新成人の誘導、事前の出欠報告はがきによる必要支援の把握など様々な合理的配慮を行い、誰もが参加しやすい「優しい成人式」を実現することができた。	H30評価	H29評価

■事業番号26 公民館管理運営事業 <生涯学習課>	H30評価	H29評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各公民館にそれぞれ担当職員を配置し、市と公民館の情報伝達を密にしたことで指定管理者との連携が図れた。また、施設代表者会議を開催し、相互の情報共有と連携に努めた。</li> <li>・多様な学習機会を提供し、地域の団体・事業者など多様な主体と連携しながら、地域の実情、時代のニーズを的確に捉えた学習機会の提供ができた。</li> <li>・施設や設備の不具合箇所を修繕し、利用しやすい施設に改修した。</li> </ul>	C	C
■事業番号27 体育施設管理運営事業 <生涯学習課>	H30評価	H29評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民のレクリエーションの場として多目的運動広場の造成工事を行った。</li> <li>・オリンピック・パラリンピックや滋賀国スポを見据え、伊吹第1グラウンドを人工芝グラウンドに改修した。</li> </ul>	C	B
■事業番号28 スポーツ推進事業 <生涯学習課>	H30評価	H29評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進委員やスポーツアドバイザーなどによる出前講座を通して、ニュースポーツが市民に広まり、多くの市民がスポーツ活動に参加することで、健康増進と体力の向上を図ることができた。</li> <li>・市民が身近にスポーツを楽しめる場である総合型地域スポーツクラブや体育協会、各地区体育振興会などが開催するスポーツ活動を支援し、スポーツの機会づくりに努めた。</li> <li>・スポーツの力で市民の一体感を醸成するまちづくりを進めるため、スポーツ推進計画の見直しを行った。</li> </ul>	C	B
■事業番号29 図書館管理運営事業 <図書館>	H30評価	H29評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の実情や利用状況に即したより効率的・効果的な図書館サービスを提供することを目指し、休館日や開館時間等の運営形態の見直しを行った。</li> <li>・運営形態を見直すに当たっては、試行的休館日を設け、利用者アンケートを行うなど、市民の理解を得ながら協議を進め、両館で基本となる休館日をずらしたことにより、利用者の利便性を図ることができた。</li> <li>・貸出実績としては、試行的休館日(18日)を設けたことによる影響はあまり見られず、対前年度比96%は、ほぼ例年並みの減少幅であった。</li> <li>・年度初めに接遇研修を行い、誠実なカウンター対応に努め、増加してきているレファレンスについても研修を行いながら適切な対応に努めることで、利用者満足度が上がった。</li> <li>・昨年度に引き続き夏休み前に小学1年生に図書館利用カードを配布するほか、読書案内冊子等おすすめ本の紹介や各種イベントを実施し、学校へのブックトークや図書館施設見学の受け入れを行うことにより、子どもたちの読書活動の推進に努めた。</li> <li>・毎年12月に利用者アンケートを実施し、市民満足度を確認し、図書館サービスの向上に努めている。(P74参照)</li> </ul>	C	C
■事業番号30 はにわ館管理運営事業 <図書館>	H30評価	H29評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の主催事業として、「米原市芸術展覧会」や「米原市子ども美術展」、「みんなでふるさとを描こう展」を開催した。</li> <li>・はにわ館リニューアル1周年記念事業として、「思い出のひきだし展」を開催するほか、コンサート事業等を開催し、芸術文化の情報発信に努めた。</li> <li>・新たな趣向として、作品展示がされている第1展示室のあたたかな雰囲気の中でクリスマスコンサートを行い、図書館ではクリスマス関連の展示や特集を行った。</li> <li>・企画展として、市有絵画展を開催するほか、歴史文化財保護課と連携し、はにわ館開館20周年企画として、市内で発掘された埴輪等を展示し、はにわ館としてのPRに努めた。</li> </ul>	C	C
■事業番号31 文化財保護事業 <歴史文化財保護課>	H30評価	H29評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・萬留帳調査では、古文書を現代文字に解読し、保存と活用に向けてのデータ入力や内容把握などの基礎資料の蓄積と、報告書刊行記念講演会を通して、萬留帳の存在と内容を知っていただく契機となった。</li> <li>・近年、自然災害による被害が増加する中、文化財保護保全活動補助金を活用することで、迅速な緊急修理により貴重な文化財を次代に引き継ぐことができた。</li> <li>・市内に残る貴重な遺跡などを多くの市民に知っていただくとともに、地域住民と連携したイベントの開催や学校の周辺の遺跡等を紹介した啓発資料の作成を通して、地域への誇りの意識高揚や情報発信に成果があった。</li> </ul>	C	C
■事業番号32 文化財施設管理運営事業 <歴史文化財保護課>	H30評価	H29評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・柏原宿歴史館では朝鮮通信使関連の萬留帳の記録、伊吹山文化資料館では伊吹山地とその山麓の自然と文化、また、醒井宿資料館では醒井宿関連の絵図を展示するなど、米原とのつながりをテーマにした企画展等を開催し、市内外へ米原の魅力を発信することができた。</li> </ul>	C	C

<p><b>■事業番号33 次代を担う青少年育成事業 &lt;子育て支援課&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年育成市民会議では、あいさつ運動や巡回パトロールなど青少年の健全育成に向けた取組をボランティアにより実施した。また、支部ごとに軽スポーツや創作体験事業等を開催し、体験や異年齢交流の場を提供できた。</li> <li>・子ども会育成連合会では、ふれあいの里フェスティバルを開催し、多くの子どもたちに創作体験活動の場が提供できた。また、将来の地域リーダーとなるジュニアリーダーの養成に努めた。</li> <li>・PTA連絡協議会では教育講演会を開催し、家庭教育力の向上に努めた。</li> </ul>	H30評価	H29評価
<p><b>■事業番号34 少年センター事業 &lt;子育て支援課&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少年補導委員や事務局職員、警察署との連携による継続的な活動の成果として、非行・補導件数は減少傾向にある。</li> <li>・若者自立ルーム「あおぞら」と少年センターの無職少年対策指導員が連携し、引きこもりやニートと呼ばれる若者の自立に向けた支援の取組により、引きこもり脱出や就労実現につながる成果が生まれた。</li> </ul>	H30評価	H29評価
<p><b>■事業番号35 幼稚園管理運営事業 &lt;保育幼稚園課&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園運営の充実と環境整備を行った。</li> <li>・計画的な園内研究会を実施し、保育士の資質向上に努めた。</li> <li>・新たに長期休業期間中(夏季、冬季、春季)の一時預かり事業を始め、保育ニーズに対応することができた。</li> </ul>	H30評価	H29評価

「平成 30 年度米原市学校教育の指針」および「米原市保育の指針」の取組内容に関わる評価のため、以下の項目を各保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校ともに共通項目とします。校園における自己評価の結果や校園長の説明、保育や授業、行事の参観等を基に、評価と御意見を取りまとめました。

なお、評価の方法は、それぞれの項目について評価していただきました。

## 平成 30 年度

### 幼稚園学校評議員・園運営委員による学校・園評価

#### 【保育所・幼稚園・認定こども園集計結果】

4 : よくできている 3 : できている 2 : あまりできていない 1 : できていない

#### 1 園経営全体に関わること・・・・・・・・・・・・・評価

平均 3.7

**視点① 園の目指す園経営の基本や子ども像は、地域の子どもたちの実態に合っている。**

- ・信頼される園づくりに取り組んでいるものと評価する。
- ・豊かな環境の中で、伸び伸びと園生活を過ごしている子らの表情が豊かで、見ているとほっとする。
- ・こども園の保育方針など、すごくよくできていると思います。

**視点② 園の教育（保育）目標、教育（保育）推進の基本、園の様子等を保護者や地域にわかりやすく説明するなど、積極的に情報発信に努め、地域に開かれた信頼される園づくりに取り組んでいる。**

- ・園だより等の発行により、保護者への情報を密にし、連携がとれています。また、地域住民との交流も積極的に行われ、地域からも親しまれています。
- ・こども園の目指す経営の基本が職員の方々に共有化されており、園だより等により、保護者の方々、地域に発信され信頼されていると評価できます。
- ・送迎時、保護者との何気ない会話（園児の体調、園との生活状況等）を大切にしておられることは、保護者との連携にも繋がり、家庭や園生活にも大きな役割を果たしていると思います。
- ・今の子どもたちに保育目標や指針の内容がなぜ必要なのか、保護者の方が理解されていない人がたくさんおられ、ほとんどの子どもたちが入園するから我が子もと考えられる方が多いです。入園される前、入園されてからも具体的にお話いただける機会があり、保護者の方が納得して子どもを預けられるのがいいと思います。

**視点③ 園長のリーダーシップのもと、教職員が課題を共有し、園の教育（保育）目標達成に向け、一丸となって取り組んでいる。**

- ・先生方の情報の共有がしっかりできている。
- ・先生方の姿に、朝、子どもたちも安心して1日が始まっていると思う。
- ・運動会では、園長先生を中心に、一つのテーマに沿って、協議や環境設定がなされ、園児・職員が一丸となって取り組まれていると感じた。

- ・創意工夫されている点が至る所に伺え、日頃の努力を感じる。
- ・まいばら認定こども園として本年度スタートした環境の中、園長のリーダーシップのもと、職員と保護者が理解し連携し合い、協力し、園運営がなされ、園の目標と目指す子ども像が具体的で分かりやすいです。
- ・園長を先頭に、これまでの豊かな見識と経験を生かしながら、園児ならびに保育教諭一人一人の命を輝かせ、生かす（生きる力）保育経営がされています。
- ・今年度は、園の創設期であり、園の基礎作りを「和・輪・話」を合言葉に一步一步着実に取り組まれ、先生方からも新しい伝統づくりへの意欲も意気込みも感じられました。
- ・保育教諭に対しては、保育の指導力向上によく努められているが、これからは、危機管理能力（いじめ、災害等）やコミュニケーション能力（対応能力）等、保育以外の能力向上が求められ、この研究にも力を入れられています。
- ・落ち着いた園の経営を目指されているにも関わらず社会の変化がそれにも増して激変している。「保育をつなぐ」ことを目標に職員が「保育をつなぐ」ことを共通目標にチーム保育を実践されている。保護者の様々な状況に照らし合わせて保育をされている状況は言葉には表せない。開園された当時の思いも大切にされ、乳児・幼児に向き合って指導してもらいたい。
- ・先生方の評価からもしっかりと連携を取られていることが感じられます。昼会議、夕方会議など会議の持ち方の工夫もされていると感じます。

**視点④ 特別支援保育推進に向け、障がいのある子どもの視点に立ち、子どものニーズを把握し、管理職およびコーディネーターを中心に、園ぐるみできめ細かな支援の充実を図っている。**

- ・参観、訪問をさせてもらうたびに、多忙な中でも子どもに寄り添った指導をしていただいていること、地域の一人としてありがたい。
- ・特別支援加配の先生が、子どもたちにいつも優しく声を掛けて見守っておられる姿は、対象児のみでなく、学級全体の子どものための安心安全な生活を支えられるものである。

**視点⑤ 園の諸活動を応援する組織づくり等、保護者や地域との連携を図り、地域の教育力を生かした取組を積極的に推進している。**

- ・伊吹山文化資料館との連携など、地域の教育力を生かした取組の推進を行っている。
- ・地域とのつながりを大切にされ、人材や施設、豊かな自然環境等、地域の資源を園の運営に生かされている。
- ・地域の人との交流も多く、様々なふれあいもあり、とても素晴らしいと思います。先生方もとても一生懸命に頑張られているので安心して預けることができます。
- ・「何でもやればできる」と子どもたちに自信を持たせ、いろいろなことを体験させてやってください。園児の保護者たちは、子どもだからダメと決めつけてしまう人がおられるように思います。体験学習は園でも実施しておられると思いますが、体験させて子どもたちの伸びやかな成長が芽生えたと確信します。
- ・自然が周りにたくさんある環境なので、子どもたちが伸び伸びと遊べると思います。最近では子どもの体力低下など言われているので、体をつかって体力をたくさん付けてほしいと思います。
- ・毎月の行事を園だよりで報告され、園児の方が元気に成長されている姿を見て嬉しく思っています。また、季節に合わせた行事で餅つき、干し柿づくり等を行い、地域の触れ合いの場になっており、今後も続けていきたいと思っています。
- ・芋掘りや餅つき等地域の方の協力の元に成り立っている行事がいくつもあるのが、地域密着型でとても良いと思います。園児達を地域の人々で見守っている、育てている、そんな感

じがとても素晴らしいです。

**視点⑥ 教育・福祉・保健等関係機関との連携を図り、子どもの育ちをつなぎ、ともに支える取組を行っている。**

- ・ 5・5交流や5歳児交流、そして中学校区の先生方が子どもの様子を見たり、子どもについて語る研究会をされていると聞いて、とても嬉しく思います。
- ・ こども園の運営で最も大切な事は、「子どもたちの安全」です。地域の安全は地元の間がが一番よく分かっています。これからも地域との繋がりを大切にしながら、安全なこども園運営に努めて頂きたいと思います。

**視点⑦ 未就園児家庭を含めた全ての子育て家庭に対する支援の取組を積極的に行っている。**

- ・ 子どもたちを取巻く問題は複雑で、簡単には解決されていない場合も多いので、民生委員さんなど地域に協力（情報収集や見守り、声かけ等）を要請するのも一つの方法ではないかと思う。
- ・ 子育て支援事業を始め、地域との連携に熱心に取り組まれていると思う。
- ・ アンケートの記述を見ると、園が園児だけでなく保護者のケアやフォローにも手厚く取り組んでいて、保護者や地域の人からの信頼を得ていることがわかる。
- ・ 子育て支援センターをよく利用させてもらっています。未就園児に対する取組も積極的に行われていると感じます。
- ・ 子育て支援センターに多くの未就園児と保護者が参加されています。支援してくださっていることは大事であり、一時保育、病児保育、長時間保育等保育サービスが充実していて大変ありがたいです。

**2 基本的な生活習慣の形成・・・・・・・・・・評価**

平均 3.5

**視点① あいさつをはじめとして、基本的な生活習慣の定着を図るために、生活に必要な習慣や態度が生活体験を通して養われるよう生活指導の工夫に努めている。**

- ・ 家庭環境や価値観の多様化により、基本的な生活習慣や社会規範を家庭ですべて身に付けることができない状況であり、その役割が園、保育者に求められることはやむを得ない。
- ・ 生活習慣は個人差、各家庭環境の差が大きいので個々に合わせた配慮を心掛けているようで評価する。
- ・ 園内で出会った時の子どもたちの対応は、心暖かではっきりする優しさがある。友だち同士の話し方にも日頃の先生の対応の仕方が垣間見られ、子どもの学びの姿を見せてもらった。
- ・ 礼儀正しく元気な挨拶ができ、とても気持ちの良い雰囲気である。
- ・ 朝の点呼で、園児の健康状態・朝食や排便の状況など、基本的な生活習慣の確認がされていた。健康管理の一助であると思う。
- ・ 一年を通して、日々子どもが成長していく姿が見られます。手洗い・うがい・トイレ等の習慣も少しずつできるようになったり、自発的に自分の荷物の用意もするようになってきたりと、とても素晴らしく思います。
- ・ 園児たちの元気な姿、生活習慣の向上による成長の姿が伺え評価できます。
- ・ 園でのあいさつは「おはよう」から始まり「さようなら」で終わります。朝は園の前で園児と保護者の登園する交通安全整理をさせていただいた。元気な声で「おはよう」という園児、保護者の声が返ってきます。たまには元気がない声であいさつする園児もいます。あいさつ

は大人が率先すれば、子どもたちは元気にあいさつをしてくれます。日頃から送り迎え時に先生方からあいさつして下さるので、自然とあいさつができています。

- ・一人一人の子どもの育ってきた環境や保護者の方の考え方も千差万別です。生活習慣や価値観、食習慣等一人ひとりに合わせて長いスパンで考えていただけたらと思います。それと同時に保護者の方への啓発もお願いします。

## 視点② 社会の決まりや集団生活のルールの習得に向け、教職員の共通理解のもとに取り組んでいる。

- ・あいさつや辛抱強さなど、集団生活でのルールが着実に養われていることを実感しています。
- ・バスに乗る時、降りる時にきちんと「おねがいます!」、「ありがとう!」がしっかり言えていることにびっくりしました。お友達と一緒に生活する中でいろいろなことを吸収してくれることが嬉しいです。
- ・子育てをされていて思うのは、親が口をすっぱくしていろんなことを言っても全然聞いてくれないのに、園で先生から習ったこと、言われたことは素直に聞いて、するようになります。躾やルールを園に任せているわけではないのですが、やはり先生の力というのは絶大で、今後も色々ご指導願います。

## 視点③ 子どもたちの望ましい食習慣の形成に園全体で取り組んでいる。

- ・子どもが園に通っている頃、給食を楽しみによく話をしていた。お代わりや量はどうかと気になっていたこともあるので、できれば先生のお手伝いのような形で、保護者が給食の時間に接することができたら、いろいろ勉強になるかと思う。
- ・今年は、園を訪問させていただくことが少なく、子どもたちの様子を十分に把握できていませんが、先生方の報告の中で、それぞれの年齢や発達に応じて、丁寧に指導されていることがわかりました。
- ・食育会議や保育の中で、調理師と密な連携を取りながら、給食について一緒に考えておられ、子どもたちも食に関心を持つようになっていくと思います。
- ・あいさつや食事へのマナー等を柱として基本的な生活習慣の定着のために、家庭との連携を図りながら、チーム園として繰り返し指導がなされていると感じました。

## 3 豊かな感性や表現力の育成・・・・・・・・・・評価

平均 3.8

### 視点① 全身（五感）を働かせた活動を展開している。

- ・伊吹は特に自然が多いところなので、自然に触れて遊ぶ活動が取組みされているので良いと思う。
- ・どのような活動がどの子のどんな感性を刺激するのは難しいが、子どもの発信を見逃さず取り組んでいる。
- ・園や保育室を見ると、よく配慮された環境で伸びやかな子どもたちの育成への心配りを感じる。「まあステキ」とドキドキわくわくする思いや穏やかな雰囲気など、子どもたちの目線を大事にした環境の中で、豊かな心が育っている。
- ・五感を生かして製作されたものがたくさんあった。先生方も共に楽しむことを認識され、試行錯誤を重ねて計画されたことに熱意を感じた。
- ・フィンガーペイントや土粘土など、感触遊びを積極的に取り入れられていると思います。
- ・園を訪問すると先生方が、いろいろな素材等にも「さん」をつけて園児に接しておられ、「生きとし生けるもの」を大切にしておられる姿に感心しています。

- ・家ではできないような絵具や粘土、洋服は汚れて帰ってきますが、楽しかった！と、嬉しそうにお話してくれます。
- ・園周辺や「やまんば広場」等、自然の中での活動は、まさに五感を働かせた活動であると思うので、安全面で難しくなってきたと思うが、できる限り自然の中に出かけてほしいと思います。

**視点② 子どもたちが喜んで話したり、聞いたりすることができるよう、教職員がきめ細かな対応を心がけている。**

- ・たまに来園しても、子どもたちは明るく元気に話しかけてくれる。また、活動している子ども、自分の思いを持って、伸びやかに過ごしているように見える。先生方への安心感があってこそだと思う。
- ・餅つき大会に参加した時、子どもたちがみんな伸び伸びして、一人一人いろいろアピールしてきた。みんな可愛くて楽しかったです。園のいい雰囲気を感じました。
- ・先生方は、笑顔で「わあ、すごい！」、「できたんだね！」等温かい言葉を発し、一人一人の園児が持つ力を発揮させるための好奇心を各場面で抱かせるための一言を園児目線で園児たちに呟きをしておられる姿がよく見られました。
- ・それぞれの個性や性格に合わせて、きめ細やかな対応をしてくださっていると思います。きめ細やかな対応の中で、我が子は自己主張があまりできないタイプでしたが、少しずつ自分の気持ちを言葉にできるようになってきたと思います。

**視点③ 一人一人の子どもの主体性を大切に、満足感・充実感を味わえるような環境の構成および活動を展開している。**

- ・子どもたち一人一人が興味を持てるような工夫がされている。
- ・数多く展示してある作品は、どれも伸び伸びと表現されているので、居心地の良い環境だと思う。
- ・4歳児の劇活動では、忍者の体操遊び⇒忍者の衣装作り⇒忍者の劇や歌へと、どんどん活動を広げられる素晴らしい取組がなされていた。子どもたちの興味関心を引き出せるように、様々な工夫がされていることがよく分かった。
- ・どの子どもも楽しく活動していると思った。寒さもいとわず園庭に飛び出していくたくましさも感じた。
- ・月1回の絵本の読み聞かせで訪問させていただいていますが、子どもたちの発達段階に応じた生き生きとした様子が伺われます。
- ・園庭を所狭しと走り回る子、虫や花、石ころを遊び相手にしている子、園庭から聞こえる子どもたちの元気な声は、私たちに元気を与えてくれます。先生方の保育への取組がしっかりとされているからだと思います。
- ・各年齢にあった活動を取り入れ、戸外で体を動かし、子ども同士のふれあいを通して、心身ともにたくましく成長していると思います。子どもが「やってみよう」と思えるように、発見、言葉を大切に保育されて、新しい園舎の環境の中で、子ども同士が十分遊びを楽しめるように、保育環境を考えて活動を展開されていると思います。
- ・園児たちの「自らがやってみよう」の姿勢、職員の子どもの主体性を大切にした保育に共感できます。
- ・豊かな自然に直接触れ合う体験活動や五感を働かせることができるような活動を大切にされている。指導者は、子ども達が活動できる場面をいかに設定するかを考える。子ども達は、場面が設定されたら、いかに遊ぶかを考え、実行していく。このような営みが小学校・中学校に繋がっていく。小学校や中学校で実践されている「継続目標の実践」に繋がればと思っ

ている。

#### 4 健やかな体と豊かな心の育成・・・・・・・・・・評価

平均 3.6

##### 視点① 心身ともに健康で安全な生活が行われるよう環境づくりを工夫している。

- ・健康な体と心の育成には環境が大事である。園では、小動物とのふれあいや身近な自然を利用した教育をされている。
- ・自然豊かで、整理整頓された園内であった。今後も点検および修復等、きちんと進めてほしい。
- ・製作活動で使う材料や用具を子どもたち自身で安全に整理整頓できる工夫がされていた。
- ・3歳児では、手作りの滑り台があり、実態に合わせた取組に感心しました。
- ・子どもの成長は体を動かすことからである。今後もさらなる活動を願う。
- ・広くなった新園舎や園庭で、子どもたちとふれあい、遊びを十分楽しみ、走り回れる環境は子どもたちにとって、最大の保育環境だと思います。
- ・園の行事に参加して、園の手伝いをすると必ず「ありがとう」の笑顔の言葉が返ってくる。私も自然と笑顔になり「どういたしまして」、共にうれしさを共感することができます。「心の土台づくり」のための自己肯定感を育む保育がなされていると感じました。
- ・子どもの様々な園生活に対して、一日の生活「おはようタイム」、「いきいきタイム」、「なかよしタイム」、「ゆったりタイム」を通して、子ども達の様子を把握し、継続的な取組は非常に良い。その中で常に子ども達の変化に気づき、常に子ども達に寄り添いながら保育活動をお願いしたい。
- ・トンネル斜面での楽しい遊びや、「やまんば広場」での遊びなど自然の中で思い切り体を動かし、無心になって遊ぶ、この経験等が健やかな体をつくっていくものと思います。また動物との触れ合いや、お年寄り等の人との触れ合いが優しさと、豊かな心を育成していくことに繋がります。これからも園外での山や川での遊びや動物等の触れ合いの場をたくさん企画して子ども達に多くの楽しい経験、思い出をつくってあげてください。

##### 視点② 自然や動植物、絵本や物語等に親しむ機会を個々や集団に合わせて取り入れている。

- ・自然環境をうまく取り入れ、活用している。安全により豊かな活用ができるよう整備されている。先生の豊かな発想での子どもたちへの提供が子どもの力をより引き出している。
- ・ウサギの死から、子どもたちは大きなものを学んだと思う。動物も植物も身近にあってこそ、命が学べる。
- ・動物とふれあったり、栽培をしたりしていることで家でも動物を育てたいと言ったりしています。園で育てていた野菜が採れるととても嬉しそうに持って帰ってきます。家でも育てていますが、大きくなってくるとそれだけで喜んでくれます。

##### 視点③ 自然環境にかかわり動植物などの飼育・栽培を通して、自然の不思議さやいのちの大切さに気づく取組をしている。

- ・自然の中で遊ぶ経験は、園が誇れるところと思う。1日中、小学校と違い遊ぶことが学びなのは、この園までで、小学校に上がると机に座って学習する時間が増えるので、だからこそ友達と遊びまわったことはずっと覚えているのだと思う。
- ・今まではウサギがいて嬉しそうにえさをあげたりしてよい経験ができた。可能であれば、また小動物がいるとよいかと思う。
- ・伊吹山・三島池・畑等、環境に恵まれた立地条件を生かして、感性を高める機会づくりがされていた。

- ・地域の方の協力も得て、園だけではできない活動にも積極的に取り組んでいるように思います。
- ・園児の成長に合わせた運動遊びに取り組まれており、また、動植物の飼育・栽培を通して、命の大切さが育まれており感銘できます。
- ・近隣住民とのふれあいで、野菜栽培や花摘みなどを経験し、自然に囲まれた環境の中で伸び伸びと過ごせています。
- ・散歩等を通して、いろんな自然に触れる活動を増やして行ってほしいです。
- ・自然環境が少なく、他園と比べても狭い中、子どもたちがいきいきと運動や遊戯をさせるために、斜面を登ったり滑ったり等創意工夫をしておられる。

**視点④ 身近な大人や友だちと一緒に、調理したり食べたりする楽しい食体験の工夫に取り組んでいる。**

- ・地域の方々との交流の中で、一緒に調理したり、命の大切さや命を頂くことの意味を子どもなりに理解して、食体験を学ぶことができたと思います。
- ・さんまパーティーや焼き芋パーティー等食育活動を楽しむ姿が見られます。
- ・園でクッキングがあった時は、「白菜がおいしかった」、「焼き芋一杯食べた！」と話してくれます。
- ・人数が多く大変な中、栽培活動や収穫物でのクッキングなど工夫して、されていることを嬉しく思う。
- ・自分達で育てた野菜を調理して食べる経験はとても素晴らしいものだと思います。野菜が嫌いな子ども達でも、自分が育てた野菜だと愛着が湧いてくるし、自分で調理するといつもよりも何倍もおいしく感じるし、そういう経験を通じて野菜好きになっていく子どもも多いと思います。

**5 人と関わる力の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・評価**

平均 3.6

**視点① 一人一人の子どもが安心して自己表出できるような保育者との信頼関係づくりに努めている。**

- ・親が安心して預けていかれたら、子どもも安心して過ごすことができると思う。子どもを認め、褒める。それをみんなの中に広げていく。そんな場面を何回か見た。認められた子どものちょっと得意げな誇らしい顔。先生の指導に拍手。
- ・一人一人を大切にしたい園運営で、先生方がしっかりと子どもと向き合っておられる点は素晴らしい。
- ・まずは、身近な大人との親しい関係、信頼できる関係を築くことが大切だと思います。先生は、園児にとっては良い大人のモデルでもあるので、日々大変だとは思いますが、よろしくをお願いします。
- ・「ありがとう」は、人間関係の基礎、基本の一つであり、行事に参加させていただくと、園児たちが、笑顔で元気ある声でお礼の言葉や、合唱を聞かせてくれます。このことは園児たちが、保護者や地域の人々等、いろいろな人に支えられているんだと感じとらせる「おかげ」の保育がなされていることが心強く思っています。
- ・一人の子どもにたくさんの先生が関わってくださっていてすごく安心できます。
- ・職員から見て、多様な園内生活の中での保育担当制で子どもと関わっておられる。子どもは何も言わないけれど保護者との関わりが大変だと想像できる。子どもから見れば、様々な方との触れ合いがあれば成長できるであろう。
- ・温かい先生方に囲まれ、伸び伸びと育っていると思います。子どものすべてを認め、受け入

れてくれることで子どもは安心して自己表現できます。子どもの人権を大切にする研修をより深めていただきたいと思います。

**視点② 子どもが生活や遊びに主体的に取り組み、繰り返して体験できるような環境作りに取り組んでいる。**

- ・子どもたちが遊びを選んで、やりたい遊びを十分に楽しめるように保育されて、子どもの「やりたい」、「面白い」の気持ちをお互いに感じ合い、繰り返し体験できる環境づくりに取り組んでおられると思います。
- ・今年度は5歳児が2階でしたが、来年度は1階になるとのこと、それもすごい刺激を受けると思うので、大変いいことだと思います。

**視点③ 子ども同士が一緒に活動する中で、友だちのよさや自分との違いに気付いたり、互いに認め合ったりする支援を行っている。**

- ・集団においては必ず集団が苦手な子がいる。その子によっても違うのでアプローチの仕方も難しいだろう。園では言葉のかけ方や支援の方法などを研究しながら取り組んでいる。
- ・集団生活の中でのルールを守り、理解させることは重要であり、保育者同士の協力はもとより保護者からの信頼が得られるよう努めている。
- ・長時部など異年齢で交流できる経験は家庭でできないのでいいと思う。
- ・子どもたち同士のトラブルは親もフォローしたいと思うが、全体像が見えないので、先生に些細なことでも積極的に情報を伝えてほしい。会話ができる地域柄だと思うので、子どもが安心できるようにコミュニケーションを図ってほしい。そのうえで、親が黙って見てほしいというようなタイミングがあれば正直に言ってもらえるくらいの関係に親もなれたらよい。
- ・ダメなことはダメと先生がしっかり指導して、保護者にも伝えてくれたので、状況が分かってよかった。親との情報共有ができていた。
- ・台風被害のために3歳児が4・5歳児と共に生活する期間ができたが、先生方の工夫で、異年齢集団の良さを生かした取組がなされたことは良かった。
- ・5歳児になると一緒にいろいろな遊びができるようになったと感じます。他の子と比べたりと自分との違い等も認識できていると思います。
- ・集団生活の中では、お互いの考えを聞きながら良いところは、自分の成長に生かしていくことが大切と考えており、そのような環境づくりに努めておられる姿勢に共感できます。
- ・「仲良くする子」を掲げ、自分らしさを生かしながら、周りに合わせるのではなく、自ら他者と協力して、園児自らの力で楽しい園生活を創る力を身に付けさせようと取り組んでおられるように思います。
- ・こども園では初めての集団生活となります。その集団生活の中で「人との関わる力」は自ずと学んでいくものかと思います。泣いたりケンカしたり笑ったりの毎日の中で、怪我をしないように優しく見守って頂けたら十分ではないでしょうか。
- ・年中さんになって、年少の遊び方と大きく変わったなと思ったところは、自分達で考えたり工夫したりして遊ぶようになったところです。またお友達と協力して何かを作りあげたりすることも出来るようになりました。先生方が保育の中でそうなるように導いてくださったのだと思います。

## 平成30年度

### 小・中学校 学校評議員・学校運営協議会委員 による学校評価 【小学校・中学校集計結果】

4：よくできている 3：できている 2：あまりできていない 1：できていない

#### 1 学校経営全体に関わること・・・・・・・・・・評価

小学校	平均 3.5
中学校	平均 3.7

視点① 学校の目指す学校像・子ども像は、地域や子どもたちの実態に合っている。

##### 〔小学校〕

- ・豊かな自然と落ち着いた地域風土の下で、明るく真面目に学び合う子どもたちの姿が日常的に認められる。精選された多彩な教育活動を通して、子どもたちの積極性や人と関わる力が一段と伸びることを期待している。
- ・今年度、学校教育目標を一部変えられたとのこと。児童の実態や目指す子ども像をはっきり持っておられるからこそ、そうされたのでしょう。
- ・一度授業参観に参加しました。その時の様子が次のようであったため、校風や校長先生の取組が良好と判断しました。授業を行っている先生は、生徒の顔をしっかりと見ながら、優しく教えている姿があり、生徒自体も静かに聞き入っている姿があった。保護者の方も、自分の子どもや周りの子どもに気を配り、会話も少なく静かに参観していた。

##### 〔中学校〕

- ・子どもたちは伸び伸びと楽しい学校生活を送っているように思われます。その陰には先生方の日頃の御努力がうかがえます。いろいろな形で生徒に興味・関心を持たせ、主体的な活動を育もうとされているところに頭が下がる思いです。
- ・生徒は元気な挨拶ができ、授業中は落ち着いた学習態度で臨むことができている。その上で、地域愛あふれる生徒の育成という目標なので素晴らしいと思う。
- ・学校教育目標について年度初めに説明いただき、年度末にその成果を聞かせていただいた。重点目標に向けて頑張っていることが分かった。

視点② 学校の教育目標、重点目標、学校の様子等を、学校便り等により保護者や地域に分かりやすく説明するなど、積極的に情報発信に努め、地域に開かれた信頼される学校づくりに取り組んでいる。

##### 〔小学校〕

- ・新聞やZTVに出るというのも、すごく子どもたちの励みにもなったと思います。
- ・学校だよりを定期的に出され、こちらにきちんと送っていただいています。楽しく読ませていただいているし、子どもたちの様子がよくわかります。
- ・今年度、教師間での連絡・連携がとれているように感じました。学校便りも個人的にいただいていたのですが、回覧板で地域の目に触れるのは良いことだと思うので今後も続けていただきたい。

##### 〔中学校〕

- ・「学校だより」が新聞の折り込みや地域の回覧で読むことができ、学校の様子が伝えられている。

- ・学校便り等を定期的に届けていただき、学校行事等、学校の様子がよく分かり、地域や保護者に情報発信がしっかりできている。
- ・学校の様子も学校便りや学級通信等を届けていただいているので、学校に出向けなくても学校に関しての情報はおおむね把握できるので、情報発信については満足である。

**視点③ 校長のリーダーシップの下、教職員が課題を共有し、学校の教育目標達成に向け、一丸となって取り組んでいる。**

**[小学校]**

- ・夏休みの質問教室、感想文指導や習字教室など、自校の教育課題の克服のために一歩踏み込んだ取組がなされている。今後の成果を大いに期待したい。
- ・質の高い教育を目指し、授業を大切にしておられる様子を参観するとともに、子どもの実態を把握した一律でない指導を実践している。これからも楽しみである。
- ・管理計画が大変具体的な内容で作成されていて、育てたい子どもの像が「見える化」している。教職員が子どもたちにどんな力をどのように付けていけばよいのかが具体的によく分かり、先生方の実践につながっている。それらが子どもたちの姿に反映されている。

**[中学校]**

- ・生徒の先生に対する評価が高いところは、信頼関係が厚い。このことは先生方の指導が生徒の確かな力になっていると思います。
- ・教職員で実践する学校教育活動については、校長のリーダーシップの下、教職員の教育活動に全面的に信頼している。従って、現在の中学校生徒に合った最善の教育活動に期待している。
- ・一昔前は校長のリーダーシップで学校が変わると言っても過言ではなかったが、個性ある先生方が多い今日の現場では、日々のコミュニケーションが取りにくい面もあり苦勞を察します。

**2 自立した人間として生きていくための総合的な力「人間力」を育む教育の充実**

..... 評価

小学校	平均 3.3
中学校	平均 3.5

**視点① 学校は、あいさつ運動の推進や道徳教育の推進、命・人権を大切にする心の教育の推進および「いじめのない学校づくり」に向けていじめの未然防止・早期発見・早期解決に積極的に取り組んでいる。**

**[小学校]**

- ・学校からの働き掛けで、登下校中はたくさんのスクールガードの方の関わりがあることをありがたく感じている。子どもたちにとっても、見守られている安心感をもったり、地域の方と挨拶を交わす場となったりしているのではないかと思います。
- ・挨拶は子どもたちが社会人になってからも人間関係を深めていくための必要不可欠なものであるため幼少期から身に付けさせたい。挨拶運動と称して地域の方やスクールガードの方など子どもたちに積極的に声を掛けていただいていることは一つの方策であるが、まずはそれぞれの家庭の中で、日常的に挨拶ができているかを見直すことが必要だと思う。きちんと挨拶ができる家庭に育てば、学校や地域でも自然と挨拶ができると思う。学校においては、児童会と連携して取り組むことは効果があると思われる。

### 〔中学校〕

- ・22項目にわたる学習の取組に関する一人一人へのアンケートなど「自分への気づき」を促すきっかけとなる取組が行われています。それが自分なりの目標を設定して生活していく良い手段になっていると感じました。
- ・いじめや不登校の状況報告と説明をお伺いし、未然防止や早期発見・早期解決に積極的な姿勢で取り組まれていると感じました。
- ・いじめの件数が少ないことは落ち着いた学校の象徴でしょう。先生方の価値観も共通したしっかりとした認識があるのだらうと思います。

**視点② 学校は、児童生徒が社会性や規範意識を身に付け、望ましい勤労観や職業観を育てる系統的なキャリア教育に努めるなど、自己指導力を培う教育に積極的に取り組んでいる。**

### 〔小学校〕

- ・教育フォーラムでは中学生、保護者、地域の人々に交じって、小学生が自分の夢について話題提供している態度が大変すばらしく好感が持てた。これまでの取組の成果といえる。
- ・先日の参観の折、6年生のキャリア教育の学習で自分の考えをしっかりと発信できており感心した。自己実現に向けての取組が6年間で培われてきていると感じた。
- ・常にいじめや友達との関わり等で悩む子を見抜く観察力が求められる。最悪を考えて対処したい。

### 〔中学校〕

- ・アンケートの結果から、生徒、保護者ともに「学校のきまりは守る」は高評価で、ヘルメット着用など安全意識も高いと思う。
- ・生徒自らが動く、生徒から生まれた活動を大切にする。そういうことを地域に発信して地域住民の関心を増やすことができれば様々な場面に支援していただけると信じる。
- ・社会性や規範意識はすぐ身に付くものではないが、様々な場面での指導が必要。食べ方まで学校で教えなければならない今日、学校で地道な取組をお願いします。

**視点③ 学校は、児童生徒が運動やスポーツに親しみ、体力の向上を目指す教育の推進に取り組んでいる。**

### 〔小学校〕

- ・運動に親しむ児童の育成に取り組んでいる点は評価できる。学校側も取組が成果として上がってきていない点を課題と捉えており、今後の継続した取組に期待したい。
- ・10分間運動の取組は、子どもたちの健康にすごく身に付いて、それが勉強面にも結果が出てきていると思います。
- ・マラソン大会は、外周は、いろいろ準備や安全面で大変でしょうが、保護者だけでなく地域の人の応援もあると子どもたちも張り切ってくれるのではないのでしょうか。

### 〔中学校〕

- ・働き方改革の一貫で児童生徒のスポーツへの興味や体力の向上等に影響している実態をお聞きし、何かしらの対策が必要と思いました。
- ・先生方の働き方改革もありますが、中学生時代にしかできない部活動での体験はとても貴重だと考えます。たくさんの生徒がスポーツに親しみ、生涯スポーツの基礎をしっかりと身に付けてほしいものです。
- ・教師の働き方改革が問題視されている中で、昔のような部活動の熱血指導はできない。また、生徒たちもそれぞれに学習塾やスポーツ塾などで多忙な毎日を過ごしている現状である。そ

の中で、伊吹登山・体育大会のような年間行事に組み込んだ運動活動をさらに増やすことも考えてはいかがかと思う。

### 3 個性を生かしつつ一人一人に確かな学力を育む教育の充実 ・・・・・・・・ 評価

小学校	平均 3.3
中学校	平均 3.4

**視点①** 学校は、市や全国の学力学習状況調査の結果を分析し、児童生徒の実態に応じた学力向上策を立て、新学習指導要領に向けて、児童生徒の思考力・判断力・表現力を育むため、「話す」「聞く」「読む」「書く」活動を大切にした取組を行うなど授業改善に学校全体で取り組んでいる。

#### 〔小学校〕

- ・夏休みを利用した学習会などは一人一人のレベル向上に「きっかけ」を与えていると思う。授業はもちろんであるが、その他の時間を利用して対応していただけるのはありがたい（短時間教育の効用）。
- ・電子黒板やタブレットを活用しての学習に時代の流れを感じます。英語のモジュール学習、朝ドリル等、うまく時間を利用して学習されていて子どもたちに力が付く。先生方は教材研究や準備等で大変だろうなあと・・・子どもも大変でしょうが、先生方の仕事の多さが気になります。
- ・読むことについては中休みに図書室に来る子どもも多く、朝の読み聞かせの時に、きちんと聞いていると思いますが、発表の時に声が小さくて聞こえなかったり早口だったり、話すことは中々難しそうです。

#### 〔中学校〕

- ・「書く」取組と「読み取る」取組をされているということで、その学校独自の課題を明確にし、取り組まれていることは素晴らしいことです。常に新しいことに取り組み、生徒の興味をくすぐるような内容であると思います。
- ・生徒たちの自己評価では授業中の発表、準備物、学習姿勢・意欲は伸びているが、予習、向上心が下がっているの、伸びるように頑張ってもらいたい。
- ・学校の文化として学校全体が3年生の部活動終了から自分の進路を考える時期に学習する雰囲気学校全体にできており、「学びの学校」ということが最も理解できる。

**視点②** 学校は、英語教育に特に力を入れ、児童・生徒のコミュニケーション能力の育成や国際理解教育の推進に積極的に取り組んでいる。

#### 〔小学校〕

- ・英語については、親しませる、「楽しい」と感じさせる指導に重点を置き、「英語嫌い」の児童をつくらぬよう留意してもらいたい。また、いつも消極的な（話すこと等に）児童もいることを忘れず、活動の場を保障する授業を展開してってもらいたい。
- ・市独自のカリキュラムで学習がなされていて良いことだと思います。参観した授業は素晴らしいと感じた。ALT、担任、英語指導の先生3人で行われ、手厚いと感じた。
- ・ALTのユーモアある教え方に感心した。1年生で理解はできていないだろうが、楽しそうに学んでいる。

#### 〔中学校〕

- ・授業参観でも一人一人が生き生きと学習に取り組んでいる様子を見て先生方との信頼関係や学級の雰囲気も良好のように思われました。

- ・英語教育は、今後も必要な科目のひとつ。32年度から小学校から本格的に実施されるので、誰もが苦手意識のないよう願います。
- ・学級数の割には英語教師が多く、特に力を入れておられることがわかります。グローバル化の流れの中で、子ども達が将来社会に出たときに「生きる力」が発揮できるように「聞く」「話す」に力を入れた英語教育が求められています。しかし、旧態依然とした先生方も多く、先生方の意識改革、指導力の向上が必要かと思われまます。

**視点③ 学校は、特別支援教育推進のため、管理職およびコーディネーターを中心に、組織的に取り組み、生活や学習上の困難を克服するための適切な個別の教育的支援を行い、個々の能力を最大限に伸ばす指導を行っている。**

**[小学校]**

- ・週に一度図書ボランティアとして過ごす中で、昨年度は授業に集中することが難しい学年があることが感じられていた。が、今年度に入ってそれがなくなり、図書室で自分だけ過ごす子どもの姿も見られなくなった。先生方の、子どもや保護者の方への関わり方や配慮などから変わっていく事ができたのではないかと思う。
- ・特別支援教育については、在籍児童が少ないため、積極的に多くの児童と関わる場の設定を今後とも計画していってもらいたい。
- ・特別支援教育について、困難な状況は多々あると思うが、「教育の原点」として、また「学校の文化」として、今後もあせらず継続的な取組を期待したい。

**[中学校]**

- ・特別支援教育への取組に取り組んでいただいていると思うが、どのような障がいのある生徒がいて、どのように取り組んでいるのかを、もう少し学校評議員会の時に説明してほしいと思った。個人情報に係る内容なので、説明しにくいとは思いますが、小学校に特別支援を要する児童が率として高いように感じていたので、その子どもたちが、どのように成長し、どのように療育されているかが知りたかった。
- ・特別支援学級の生徒が通常学級内で修学旅行の「ふりかえり」をグループの一員として発表している様子を見て、個別の配慮が行き届いているのを感じました。
- ・特別支援教育は、今後大切な教育の一環となりそうだ。問題は、障がいのある子だけでなく、家庭の問題も関係が出てくる可能性もありそうだ。専門的なことは分からないため、どうか専門職の方の確保をお願いしたい。

**4 地域に根ざし地域に開かれた信頼される学校の創造・・・ 評価**

小学校	平均 3.4
中学校	平均 3.4

**視点① 学校は、地域の人材を生かした学校運営と学習活動の工夫に積極的に取り組み、郷土の自然や文化・伝統を生かした教育活動の推進など特色ある学校づくりを推進している。**

**[小学校]**

- ・「夢やふるさとに誇りを持たせる」をテーマに、特色ある学校づくりを積極的に推進され、教育効果も上がっている。多くの保護者に交じって地域の方も多く参加されていたことが印象的でした。しかし、学校行事については、近年、教職員の多忙さ、超過勤務等が問題になっており、学校行事の精選・削減も喫緊の課題となっている。
- ・子どもたちが自分の住んでいる地域（字）について調べ、まとめたり発表し合ったりする学習はとても大切だと感じた。地域（字）の人にインタビューしたり、よく知っている人と歩いて回ったりする活動は、人と人を結び、地域を見直すきっかけともなり、計画的にできればいいと思った。

- ・地域の一員であることを感じられる活動をそれぞれの学年で地域の方の協力を得て取り組まれていることは、よい関係であると思う。

#### 〔中学校〕

- ・体育大会、文化祭での活躍にわくわくしました。ポスターセッション、また教育フォーラムでの表現・発言は頼もしかったです。近隣の学校や小学校との交流もとてもよい取組だと思います。
- ・自治体のイベントなどへのボランティア活動が活発になったという報告がありました。地域の活力が衰頹しているように感じられる中で、地域そのものが、若い人たちに働きかけられなくなっています。そういう中で、「ボランティア」という意識付けは「地域」「若い人」双方にとって有効であると感じました。

**視点② 学校は、安全・安心な学校づくりに向け、職員研修の実施や家庭・地域・PTAとの連携による取組により、児童生徒の安全を確保している。**

#### 〔小学校〕

- ・参観日には、親子で一緒に下校してみてもどうかというスクールガードの方から意見がありました（下校する中で、再度、通学路の確認や注意すること、危険な場所等の確認もしてもらったらよいのではないかと思います。）。
- ・登下校に積極的に見守っていただいているスクールガードの方々に感謝します。
- ・通学路の危険箇所として自主的に塀を改修していただけたりする点においては、良好な地域関係が築けていると思う。

#### 〔中学校〕

- ・中学生の地域での活躍できる場をつくってあげることは、我々大人の責任のように思います。ボランティア活動のようにやりたい生徒がいてもその場の設定がなければできません。
- ・学校生活の中で、地域の特定の人とのつながり教育はできているように思う。ただ、それぞれの地域のたくさんの住民とつながる事も大切なため地域の行事やボランティアに主体的に参加できると地域は盛り上がると思う。私の地域では中学生になると特に交流がなくなるので残念に思う。

**視点③ 学校は、学校支援地域本部事業・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を活用し、地域コーディネーターを中心に学校を支援する体制づくりに努め、積極的に地域に働き掛け、創意工夫があり実りのある教育フォーラムを開催するなどしている。**

#### 〔小学校〕

- ・教育フォーラムでは、小学生、中学生、保護者、地域の方、先生とたくさんの人と話し合う場が作られ、普段なかなかもつことができない交わりがもてたと思う。
- ・学校は自信をもって教育活動を進めてください。地域や保護者はそれを支える立場にあると考えている。
- ・日頃からの地域との関わりは未来を担う子どもたちにとって、「人、歴史、自然、伝統文化、安全」に通じ、地域愛を育む上においても不可欠です。地域との関わりを更に進めるには市内の小学校と連携して、市内全域への学校応援団づくりの情報発信対策が望ましいのでは。

#### 〔中学校〕

- ・現役の子育てで中学校と関わってから相当の年月が経過し、子どもたちとの関わりに難しい面もあり、委員としての責務を十分に果たすことができず申し訳なく思っている。狭い学区、小学校、中学校が一つになってしっかり連携をとってやっていった方がよい。
- ・今年度から学校運営協議会が発足したので、まず学校に来ていただける機会づくりを提案し、

その取組の一環として花の苗を育てておられることを活用させていただいた。参加された方の中には、「卒業以来だ」「新校舎になってはじめて来た」等の感想もいただいた。また、「校舎の中も見学したい」との意見もあり、今後の課題となった。

- 学校教育が地域連携のもとで推進されることはよりよい教育効果が期待でき素晴らしい。しかし、学校教育における学校の主体性はいろいろな意味で最も大切にされるべきものの一つである。連携の在り方を更に模索していきたい。

## 【図書館内部評価】

この内部評価は、米原市図書館サービス基本計画に基づき図書館運営を行った実績について、その成果と課題を見出し、サービスの向上に努めるため、図書館協議会で評価をしていただいたものです。

### 1 市民の多様な資料要求に応える図書館

指標	現状 (H27)	実績 (H28)	実績 (H29)	実績 (H30)	目標 (H33)
(1) 市民一人当たり図書館貸出冊数	11.5冊	10.9冊	10.5冊	10.1冊	12冊
(2) 蔵書更新率	3.9%	3.4%	4.6%	8.3%	4.7%
(3) レファレンス満足度	40.5%	37.0%	42.5%	39.1%	50.0%
(4) 市民の実利用率	16.1%	15.4%	15.2%	15.2%	17.3%
(5) 受入雑誌タイトル	216誌	225誌	232誌	200誌	220誌
(6) 県内外図書館との相互貸借件数(借受数)	1,547冊	1,687冊	1,531冊	1,363冊	1,600冊

内部評価	(A～E 5段階評価)	C	(参考 前年度)	C
------	-------------	---	----------	---

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民一人当たり図書館貸出冊数は減少しましたが、試行的休館などを実施する中でも個人貸出冊数は大幅に減少することなく微減にとどめることができました。</li> <li>蔵書更新率を上げることができました。主な要因は、事業終了していた「本はともだち おはなし隊派遣事業」用絵本を図書館で活用できるよう整理したことと、除籍冊数が増加したことです。</li> <li>今後も、資料の整理と計画的な除籍により蔵書更新率の向上に努めます。</li> </ul>
----	--

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>レファレンス満足度を向上するため、引き続き、職員間の情報共有や丁寧な対応に努める必要があります。</li> <li>受入雑誌タイトルが減少したので、雑誌スポンサーを増加させることや、寄贈雑誌の情報を収集することが課題です。</li> <li>市立図書館に所蔵していない本も相互貸借により提供できるリクエスト制度について、更に周知を図る必要があります。</li> </ul>
----	---

### 2 市民の生活に密着し、地域の課題解決に役立つ図書館

指標	現状 (H27)	実績 (H28)	実績 (H29)	実績 (H30)	目標 (H33)
(7) 郷土資料・行政資料の受入れ件数	206冊	413冊	386冊	343冊	250冊
(8) まちづくりに関する資料の貸出冊数	— 冊	530冊	423冊	230冊	500冊

内部評価	(A～E 5段階評価)	C	(参考 前年度)	B
------	-------------	---	----------	---

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>郷土資料や行政資料の受入れ件数は、前年度よりも減少しましたが、目標を大きく上回ることができました。</li> <li>両図書館において、地域に関する新聞記事を収集・保存しました。</li> </ul>
----	---

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>郷土資料や行政資料を受入れて保存することは、公共図書館の大切な役割であるため、引き続き多くの資料を受入れできるよう努める必要があります。</li> <li>まちづくりに関する資料は、新刊の受入やPRに努める必要があります。</li> </ul>
----	---

### 3 だれもが進んで利用できる安心・安全・便利な図書館

指標	現状 (H27)	実績 (H28)	実績 (H29)	実績 (H30)	目標 (H33)
(9) インターネットからの予約件数	12,207件	13,679件	12,864件	13,207件	13,000件
(10) 大活字本の貸出冊数	1,356冊	1,227冊	1,282冊	1,243冊	2,500冊
(11) 高齢者福祉施設への貸出冊数	1,624冊	1,780冊	1,074冊	868冊	3,000冊

内部評価	(A～E 5段階評価)	C	(参考 前年度)	C
------	-------------	---	----------	---

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットからの予約件数は、目標を超える数値になりました。インターネットサービスの周知に努めた成果だと考えています。今後も新刊情報を毎週更新するなど新鮮な情報が掲載されたウェブサイトの維持に努めます。</li> <li>・平成30年4月1日に手と手をつなぐ米原市手話言語条例が施行され、図書館でも手話に関する本の特集や展示を行うほか、親子で手話に親しめる講座を開催しました。また、耳マークや筆談用電子パットをカウンターに設置しました。</li> <li>・英語のおはなし会（イースターのおはなし会、ハロウィンおはなし会）を開催し、英語に親しむことができました。</li> <li>・週3回程度の図書館間物流を維持し、伊吹薬草の里文化センター、米原公民館とも連携し、市内全域サービスに努めました。</li> </ul>
----	--

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者施設や地域サロンへの団体貸出については、関係団体とより一層の連携を図るとともに、図書館に来館しにくい人への支援について検討していく必要があります。</li> <li>・日本語を母語としない人や活字による読書が困難な人へのサービスについても検討していく必要があります。</li> </ul>
----	---

### 4 子どもたちの読書活動を見守り、支援する図書館

指標	現状 (H27)	実績 (H28)	実績 (H29)	実績 (H30)	目標 (H33)
(12) 出前講座実施回数	18回	18回	18回	19回	20回
(13) 児童書個人貸出冊数	170,031冊	166,459冊	163,707冊	164,108冊	171,000冊
(14) 児童書団体貸出冊数	14,382冊	12,206冊	17,172冊	14,928冊	16,000冊

内部評価	(A～E 5段階評価)	B	(参考 前年度)	B
------	-------------	---	----------	---

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度も新小学1年生へ図書館利用カード配布することができました。希望する児童に利用カードを発行することで、利用カード所持率が上がり、夏休み以降の図書館利用促進につなげることができました。</li> <li>・出前講座は、ブックトークで小学校へ11回出かけ、施設見学を8回受入れることができました。</li> <li>・児童書個人貸出冊数は前年度より少し増加しました。</li> <li>・ボランティアとの協力により子どもの読書活動支援を行うことができました。</li> <li>・学校図書館を整備するため、小学校1校の学校図書館リニューアルを支援しました。</li> <li>・中学生職場体験学習を4校15人受入れ、図書館の仕事を体験してもらうことができました。</li> </ul>
----	---

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの読書活動を推進するため、子ども読書活動推進計画（第2次計画）の成果と課題を整理し、次期計画策定に向けた議論を進める必要があります。</li> <li>・図書館の児童サービスの充実と学校図書館との連携などに力を入れる必要があります。</li> <li>・また、乳幼児期からの読書習慣の形成を図るため、家族みんなで本に親しめるような取組や呼び掛けを検討する必要があります。</li> </ul>
----	---

## 5 地域の人たちとの協力・協働でめざす、交流の場となる図書館

指標	現状 (H27)	実績 (H28)	実績 (H29)	実績 (H30)	目標 (H33)
(15) ボランティアと活動した回数	79回	78回	84回	80回	90回
(16) 図書館講座の開催回数	5回	6回	5回	6回	6回

内部評価	(A～E 5段階評価)	B	(参考 前年度)	B
------	-------------	---	----------	---

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの協力を得て、おはなし会、図書の修理、ブックスタート、イベント準備、蔵書点検等を実施することができました。</li> <li>・まいばら協働事業「ワクワクおはなしライフ」により、ボランティアと協働で地域のサロンへ向き、高齢者向けのおはなし会を実施し、お話や本に関心を持ってもらうことができました。</li> <li>・地域の人たちに講師になっていただく図書館講座を6回開催し、103人に参加いただきました。</li> <li>・計画どおりボランティア交流会を2回開催し、情報や意見交換等ができました。</li> </ul>
----	---

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人たちの交流の場となれるよう、利用者の声を大切にし、工夫を重ね、市民との連携・協力により今後も継続して市民力のある図書館運営に努めていきます。</li> <li>・ボランティアの高齢化や人員不足は、今後の大きな課題です。</li> </ul>
----	--

## 6 専門性を持った職員によるサービスが保障される図書館

指標	現状 (H27)	実績 (H28)	実績 (H29)	実績 (H30)	目標 (H33)
(17) 職員の研修等参加回数	20回	9回	18回	26回	20回
(18) 職員対応満足度	82.5%	78.7%	77.5%	79.9%	90%

内部評価	(A～E 5段階評価)	B	(参考 前年度)	C
------	-------------	---	----------	---

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滋賀県立図書館で開催された司書専門講座に延べ8回参加し、復命研修を行うことでその内容を全職員で共有することができました。</li> <li>・おはなしグループとPRグループに分かれて実践的な研修を年間を通じて実施し、成果物を作成することができました。</li> <li>・接遇研修を4月に実施し、職員の意識を高めることで、職員対応満足度を上げることができました。</li> </ul>
----	--

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員対応満足度を更に上げるため、職員間のコミュニケーションを大切にするとともに、内部研修等により司書のスキルアップに努めるとともに、両館ともに同じレベルでバランスの取れたサービスを提供していくことが課題です。</li> <li>・また、職員が外部研修等に参加できる体制を維持することが課題です。</li> </ul>
----	--

## 7 山東・近江2館の個性を生かす図書館

指標	現状 (H27)	実績 (H28)	実績 (H29)	実績 (H30)	目標 (H33)
(19) 市民が1年間に読んだ本の冊数	20.4冊	—	—	—	24.0冊
(20) テーマ特集展示回数	330テーマ	357テーマ	346テーマ	396テーマ	330テーマ
(21) 若年層の貸出冊数	109,899冊	100,060冊	87,732冊	85,219冊	120,000冊

内部評価	(A～E 5段階評価)	C	(参考 前年度)	C
------	-------------	---	----------	---

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山東・近江2館で季節感や話題性など読書提案をするテーマ特集に取り組むことができました。</li> <li>・また、若年層への取組として、新成人にお勧めの本や図書館の利用案内を掲載したリーフレット『お祝い』を発行し、配布することができました。</li> <li>・山東図書館においては、ルッチプラザのコンサート等と連動した本の紹介を行うことができました。近江図書館においては、近江はにわ館企画展と連動した本の紹介を行うことができました。</li> </ul>
----	--

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年層（19歳～39歳）に図書館や読書への興味を持ってもらえるような情報発信や図書館でのイベント等を検討するほか、より関心をもってもらえるような資料や情報の収集に努めることが課題です。</li> </ul>
----	---

※米原市市民意識調査が隔年実施となったため、  
平成 29 年度調査の数値にしています。

## 米原市教育振興基本計画（目標指標）

### 基本目標 1 心豊かでたくましく生きる力を育む教育を実現します

施策	指標名	現状値 (平成 29 年度)	現状値 (平成 30 年度)	目標値 (平成 33 年度)
1 就学前の教育・保育の充実	待機児童発生数	0 人	0 人	0 人
2 確かな学力の向上	総合学力調査「読む能力」の正答率	小学校：42.8% 中学校：70.5%	小学校：51.3% 中学校：54.6%	小学校：70% 中学校：65%
	図書館の児童書貸出冊数	163,707 冊	164,108 冊	171,000 冊
3 豊かな心の育成	長期（年間 30 日以上）欠席率（小学校・中学校）	小学校：0.49% 中学校：2.19%	小学校：0.49% 中学校：2.46%	小学校：0.5% 中学校：2.4%
	学力・学習状況調査「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」児童生徒の割合	小学校：95.5% 中学校：94.1%	小学校：96.6% 中学校：95.7%	小学校：100% 中学校：100%
4 健やかな体の育成	子ども（小学 5 年生）の体力・運動能力テストの体力合計点	男子：50.75 女子：50.70	男子：47.30 女子：49.20	全国平均を上回る
	体力・運動能力調査「持久走」の県平均を上回った学年数（中学校）	男子 4 学年 女子 6 学年	男子 5 学年 女子 3 学年	全学年
	体力・運動能力調査「50m走」の県平均を上回った学年数（小学校）	男子：2 学年 女子：3 学年	男子：1 学年 女子：1 学年	男子：4 学年 女子：4 学年
5 地域の良さを生かした特色ある教育の推進	「ふるさと 3 事業」実施校園率	78%	75%	100%
	学校給食に地場産物を使用する割合（食材数ベース）	42.0%	32.2 %	35%
	総合学力調査「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」児童生徒の割合	小学校：36.3% 中学校：43.1%	小学校：45.1% 中学校：43.6%	小学校：45% 中学校：35%

### 基本目標 2 学校・家庭・地域がつながり、協働して地域全体の教育力を高めます

施策	指標名	現状値 (平成 29 年度)	現状値 (平成 30 年度)	目標値 (平成 33 年度)
1 子育て支援と家庭の教育力の向上	家庭児童相談対応ケース数および対応率	100% (233 件)	100% (236 件)	対応率 100%
	子育てをテーマにした講演会の参加者数	250 人	261 人	300 人
2 子どもの育ちを支えるコミュニティづくり	学力・学習状況調査「地域の行事に参加している」児童生徒の割合	小学校：80.7% 中学校：59.5%	小学校：80.2% 中学校：58.4%	小学校：88% 中学校：65%
	冒険遊び場の設置数	4 か所	4 か所	5 か所

3 青少年の健全育成	子ども会事業への参加数	429 人	349 人	500 人
	放課後児童クラブの設置数	9 か所	9 か所	10 か所
	あいさつ運動実施率	100%	100%	100%
	少年補導委員街頭補導活動回数	1,256 回	1,104 回	900 回
4 学校支援活動や地域活動の担い手の確保	学校地域支援本部事業設置率	100%	100%	100%
	学校地域支援本部登録ボランティア数	415 人	452 人	500 人
	まなびサポーター登録者数	216 人	216 人	145 人
5 地域に開かれた学校園づくり	園運営委員・学校評議員活動平均回数	2.1 回	2.5 回（校） 2 回（園）	3 回

### 基本目標 3 一人一人が大切にされ、安全・安心で質の高い教育が受けられる環境をつくりまします

施策	指標名	現状値 (平成 29 年度)	現状値 (平成 30 年度)	目標値 (平成 33 年度)
1 多様なニーズに対応した教育の推進	児童発達支援事業 親子通園開設回数	337 回	488 回	370 回
	子どもケアサポーター派遣人数	41 人	43 人	50 人
2 教育相談・教育支援の充実と学校支援体制の構築	不登校児童生徒数	小学校：10 人 中学校：24 人	小学校：10 人 中学校：30 人	策定時の現状値 2 割以上削減
	スクールソーシャルワーカー活用実績	9 校	14 校	14 校
	学力・学習状況調査「学校に行くのは楽しいと思う」児童生徒の割合	小学校：84.7% 中学校：87.6%	小学校：設問無 中学校：設問無	小学校：88% 中学校：93%
3 安全・安心な教育環境の整備	スクールガード登録者数	902 人	885 人	1,000 人
	「子ども 110 番のおうち」、「子ども 110 番のくるま」設置数	おうち：301 か所 くるま：85 台	おうち：326 か所 くるま：85 台	おうち：350 か所 くるま：110 台
4 適切な教育環境の整備	米原市市民意識調査「教育内容、施設の充実」の満足度	81.5%	81.5% (※平成 29 年度数値)	78%
5 教職員の資質や指導力の向上	教育センター開講講座・研修会延べ受講人数	1,011 人	1,222 人	1,000 人

#### 基本目標 4 生涯にわたって豊かに学び合い、いきいきと活動できる環境をつくります

施策	指標名	現状値 (平成 29 年度)	現状値 (平成 30 年度)	目標値 (平成 33 年度)
1 生涯学習機会の充実	米原市市民意識調査「生涯学習の推進」の満足度	83.7%	83.7% (※平成 29 年度数値)	85%
	公民館・生涯学習センター利用者数	167,446 人	159,600 人	166,500 人
2 人権文化の確立	地域人権リーダー研修会の参加者数	264 人	238 人	250 人
	ハートフル・フォーラムの実施率	79.4%	72.9%	85%以上
3 地域で活躍する人材の育成	まなびサポーター登録者数(再掲)	216 人	216 人	145 人
	生涯学習まちづくり出前講座年間実施回数	268 回	246 回	300 回
4 図書館を活用した読書活動の推進	市民一人当たり図書館貸出冊数	10.5 冊	10.1 冊	12 冊
5 生涯スポーツの振興	地域スポーツクラブ会員数(延べ人数)	1,142 人	1,162 人	1,500 人
	体育協会加盟人数	2,360 人	2,210 人	3,100 人
6 生涯学習環境やスポーツ環境の整備	米原市市民意識調査「スポーツの推進」の満足度	85.2%	85.2% (※平成 29 年度数値)	85%

#### 基本目標 5 米原の自然・歴史・文化の保存・活用を進め、地域文化を育みます

施策	指標名	現状値 (平成 29 年度)	現状値 (平成 30 年度)	目標値 (平成 33 年度)
1 自然環境保全の意識向上	給食センターにおける収穫体験実施校数	3 校	3 校	3 校
	いきいき健康ウォークの参加者数	154 人	134 人	300 人
2 市民の文化・芸術活動の促進	米原市芸術展覧会への市民作品数	165 点	144 点	220 点
	米原市文化協会事業への参加団体数(累計)	131 団体	127 団体	165 団体
	文化協会員数	983 人	941 人	1,500 人
3 歴史・文化財の保存と活用	文化財補助事業申請件数	23 件	28 件	25 件
	米原市市民意識調査「歴史・文化の継承と活用」の満足度	84.4%	84.4% (※平成 29 年度数値)	88%
4 歴史・文化に親しむ機会の充実	歴史講座受講者数	68 人	72 人	70 人
	歴史イベント開催回数	14 回	14 回	15 回